

令和2年度

ふれあい・いきいきサロン
実態調査報告書



社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会

～ は じ め に ～

「新型コロナウイルス感染症」拡大に伴い、令和2年4月7日から埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、及び福岡県の7都府県で緊急事態宣言が発令され、4月16日には対象地域が全都道府県に拡大されました。その後も三度にわたり緊急事態宣言が発令されるなど、収束の見込みがたたない日々が続いています。

「ふれあい・いきいきサロン」は、地域の身近な場所で気軽に集い、様々な活動を通して楽しみながら仲間づくり・居場所づくりを行う活動です。その意味で、今回の「新型コロナウイルス感染症」拡大は、集う、交流することをメインとする「ふれあい・いきいきサロン」活動に大きな困難を伴わせる事態となり、このことは、茨城県も例外ではありませんでした。

このような状況で、平成24年に続き2回目となる実態調査を実施し、1,340か所のサロンのうち1,080か所のサロンの回答を得ることができました。

また、サロン活動の現状に対する運営者皆様の想いや貴重なご意見を数多くいただくことができました。

本報告書は、それらを踏まえ、平成24年における調査結果との「経年比較」に基づくサロン活動の現状と課題、利用者の様々な「困りごと解決に向けたサロンの役割」、「新型コロナウイルス感染症への対応」の視点からまとめたものです。

本報告書が、各サロンにおける活動の活性化につながるとともに、関係機関・団体等の活動の参考になれば幸いです。

最後になりましたが、お忙しい中、本調査に御協力いただきました各サロンの代表者、市町村社会福祉協議会の皆様に心からお礼申し上げます。

令和3年7月

～ も く じ ～

1	ふれあい・いきいきサロン実態調査の背景と目的	1
2	ふれあい・いきいきサロン実態調査実施について	2
3	調査結果について	3
	(1) 回答者について	
	(2) サロン活動について	
	(3) サロンの利用者等について	
	(4) サロンのプログラムについて	
	(5) サロンの広報等について	
	(6) サロンの運営費用について	
	(7) サロンの評価について	
	(8) 新型コロナウイルス感染症への対応について	
4	調査結果の分析と考察からの示唆	28
	(1) サロン運営についての課題からの示唆	
	(2) 住民の困りごとの解決に向けた示唆	
	(3) 新型コロナウイルス感染症への対応からの示唆	
5	今後に向けて	54
6	資料編	55
	(1) 集計結果	
	(2) 調査票	

1 ふれあい・いきいきサロン実態調査の背景と目的

「ふれあい・いきいきサロン」は、平成6年に全国社会福祉協議会が提唱した、暮らしの身近な範囲で地域の住民が集い、みんなが楽しく幸せに暮らすための交流拠点です。

本会は、平成10年から県民運動として、誰もが「安心して暮らせるコミュニティづくり」を広げていくため、県民の皆さん、県内市町村社会福祉協議会、関係機関・団体、福祉施設、企業などに協力をいただきながら「はんどちゃんネットワーク運動」推進してきました。

「はんどちゃんネットワーク運動」の第2期として位置づけている平成20年～29年度において、地域を軸としたつながりを進める「サロン」活動を運動の中心に置きました。

平成24年には、「はんどちゃんネットワーク運動」における今後のサロン活動の開設促進及び持続的発展のための基礎資料とするため「ふれあい・いきいきサロン実態調査」を実施しました。

その調査では、「茨城県内のふれあい・いきいきサロンの代表的なタイプ」を浮かび上げさせ、「地域で孤立しそうな人々の閉じこもりや孤立防止になる」「人と話しができるなど交流がある」「新しい友人や仲間ができる」といった「サロン」の意義とともに、「男性参加者が少ない」「参加メンバーが固定化している」という課題についても明らかになりました。

現在へと至る「はんどちゃんネットワーク運動」の第3期（平成30年度～）では、第2期から推奨している身近な範囲で幸せを感じる「地域交流型サロン（通称：ふれあいサロン）」とともに、特定の生活・福祉課題の解決に住民主体で取り組む「ご近所助け合い型のサロン（通称：絆サロン）」というコンセプトも生まれました。これは、少子・高齢化の進行による家族形態の変化や、経済情勢による生活への影響など、生活・福祉課題が複雑・多様化する現代に対応するためです。具体的には、「健康づくりのための体操等を実施する」「子どもを育むプログラムや子育て親子を支援するプログラムを実施する」「認知症予防のための能力維持・向上のプログラムを実施する」などが取り組み例となります。

このような背景のなか、今回の調査では平成24年に実施された調査結果との経年比較を交えた「サロン運営についての課題」、また「ご近所助け合い型のサロン（通称：絆サロン）」のコンセプトを踏まえた「住民生活の困りごと解決に向けたサロンの役割」、さらに本調査企画中に流行期となった「新型コロナウイルス感染症への対応」の3本を柱に据え調査を実施しました。

2 ふれあい・いきいきサロン実態調査実施について

1 【目的】

ふれあい・いきいきサロンの実態を把握し、サロン活動の開設促進及び持続的発展のための基礎資料とする。なお、本目的を達成するため、本実態調査では平成24年度に実施した調査とサロン実態の経年比較を行い、また新型コロナ禍における現状、課題を明らかにし、今後のサロン活動の展望を考察する。

2 【主体】

社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会

3 【対象】

市町村社会福祉協議会が把握する1,340か所

※「令和2年度茨城県内社会福祉協議会事業概要及び職員設置状況調査」で回答のあった箇所等が対象となります。

4 【調査基準日】

令和2年11月1日時点

5 【調査期間】

令和2年12月1日～令和2年12月28日

6 【方法】

郵送調査（悉皆調査）

7 【内容】

- (1) 運営代表者について
- (2) サロン開設状況について
- (3) サロン利用者について
- (4) サロンの実施・運営・役割について
- (5) 新型コロナ感染症対応について

8 【回答方法】

サロン運営代表者が調査票への直接記入

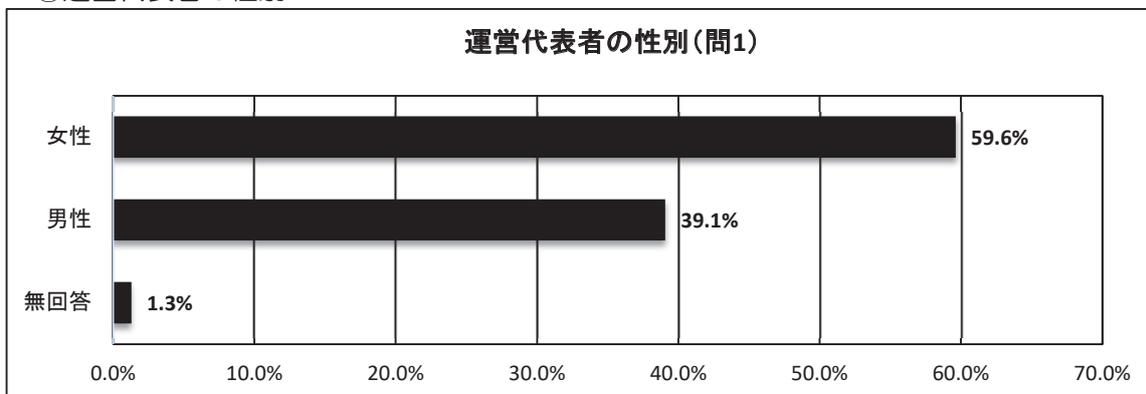
9 【回収率】

80.6%（1,080か所/1,340か所）

3 調査結果について

(1) 回答者について

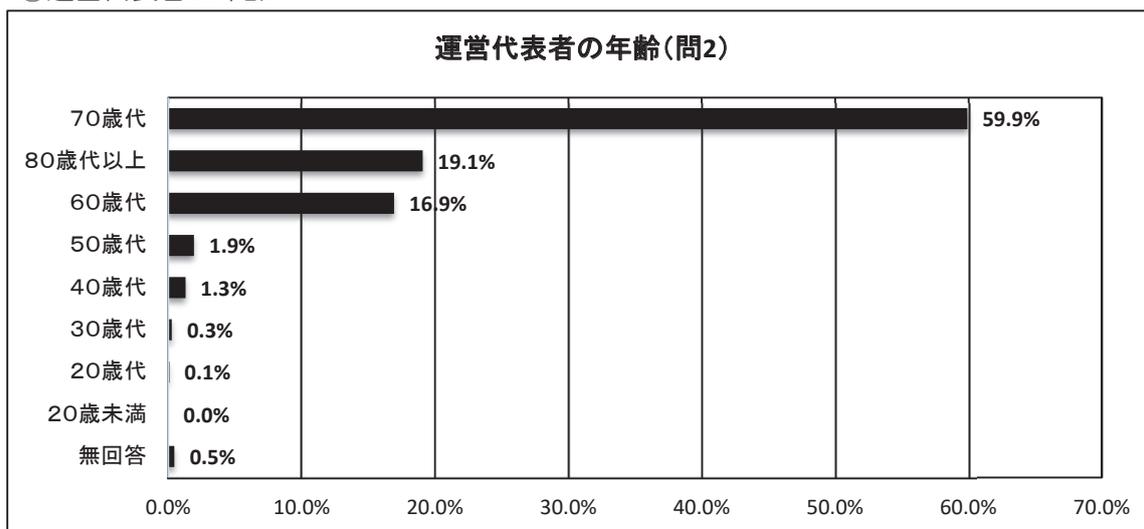
① 運営代表者の性別



◆ 令和2年の結果（運営代表者の性別）

女性運営代表者が全体の約6割である。

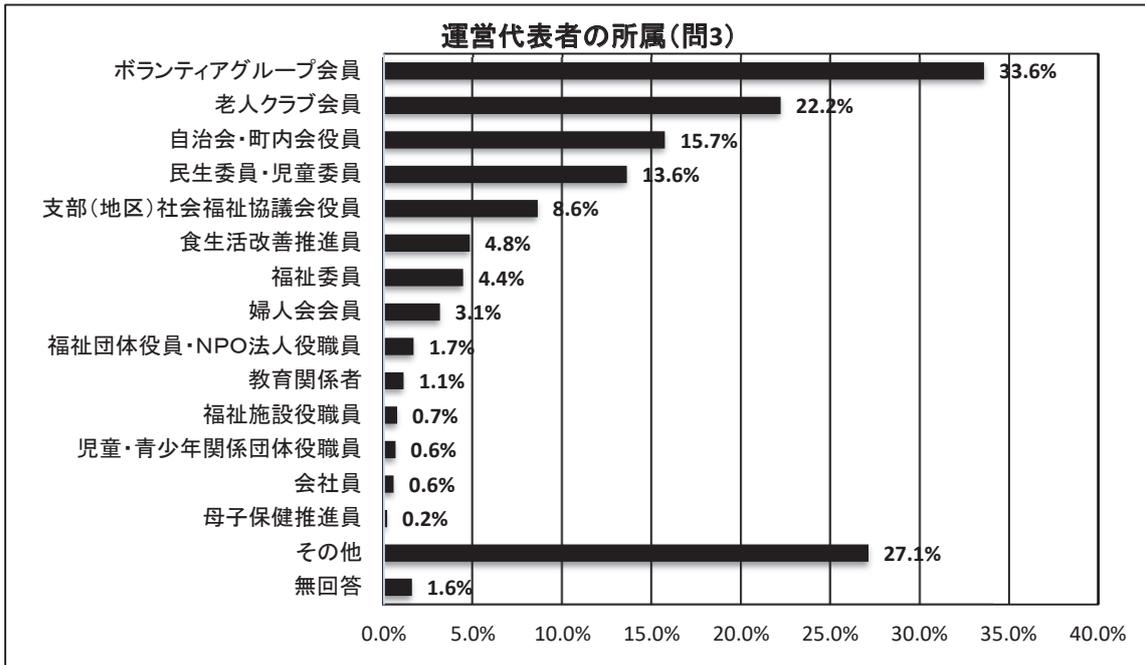
② 運営代表者の年齢



◆ 令和2年の結果（運営代表者の年齢）

70歳以上が全体の約8割である。

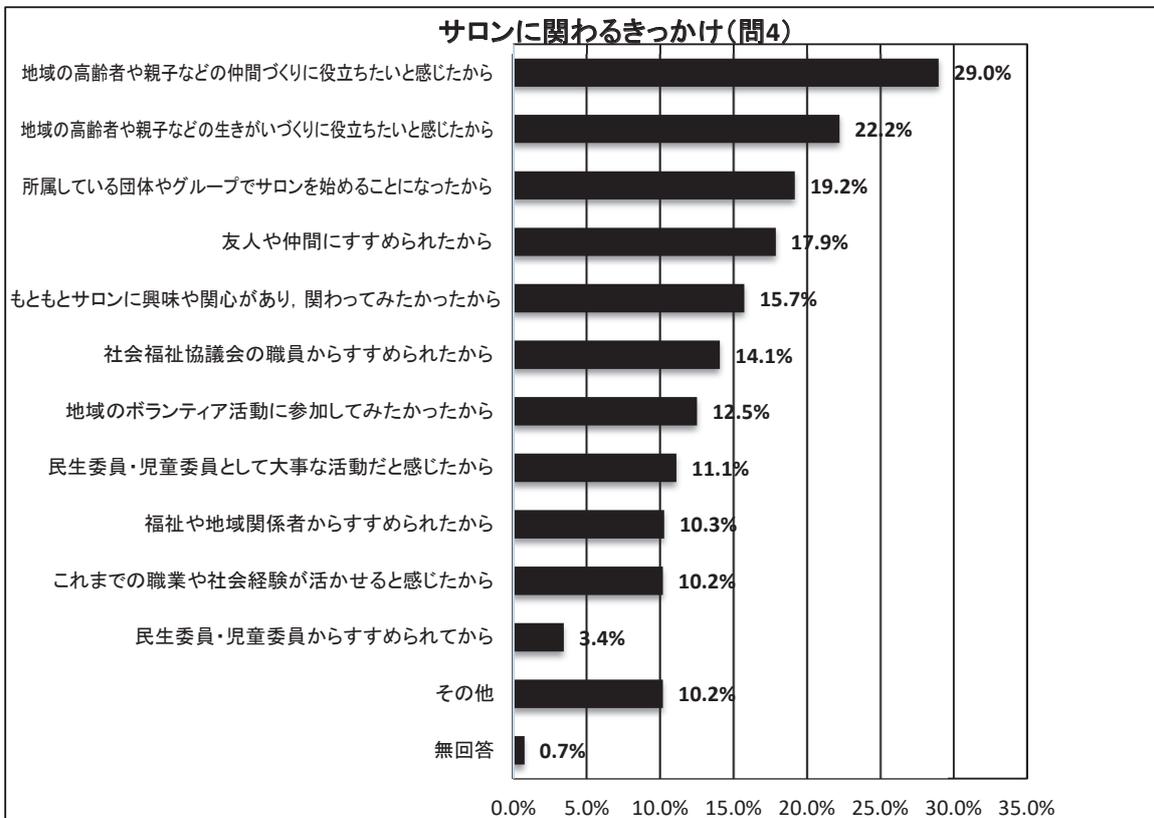
③運営代表者の所属



◆令和2年の結果（運営代表者の所属）

最も多いのはボランティアグループ会員である。老人クラブ会員，自治会・町内会役員，民生委員・児童委員も多い。

④サロンに関わるきっかけ

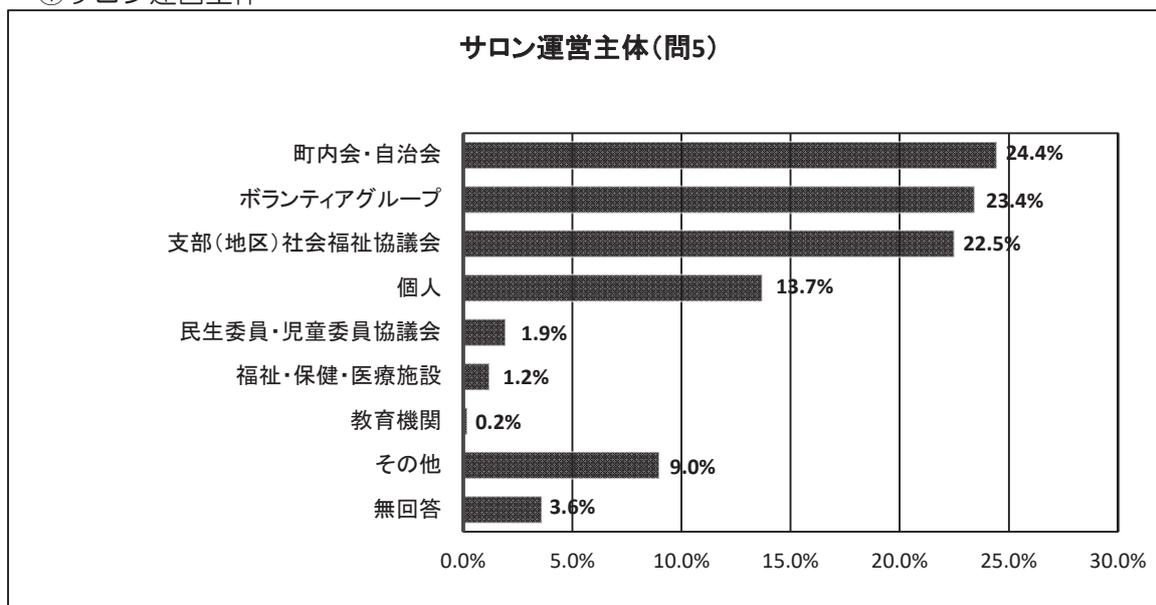


◆令和2年の結果（サロンに関わるきっかけ）

「地域の高齢者や親子などの仲間づくりに役立ちたいと感じたから」が29.0%で最も多い。次いで「地域の高齢者や親子などの生きがいづくりに役立ちたいと感じたから」が22.2%である。

(2) サロン活動について

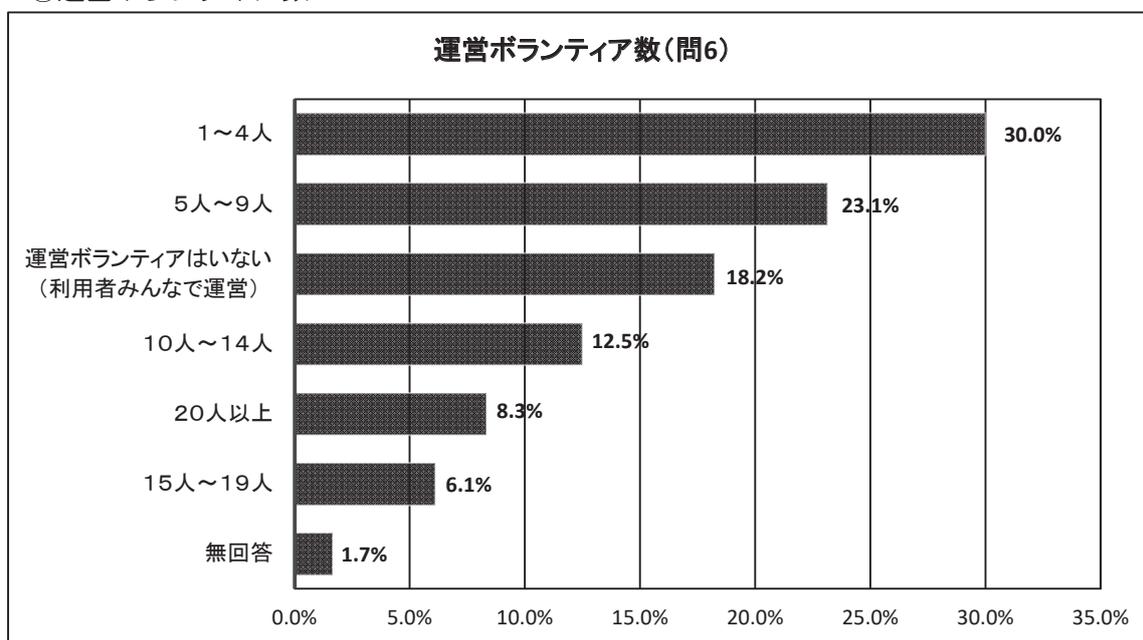
① サロン運営主体



◆令和2年の結果（サロン運営主体）

「町内会・自治会」が24.4%で最も多い。次いで「ボランティアグループ」が23.4%、「支部（地区）社会福祉協議会」が22.5%の順である。

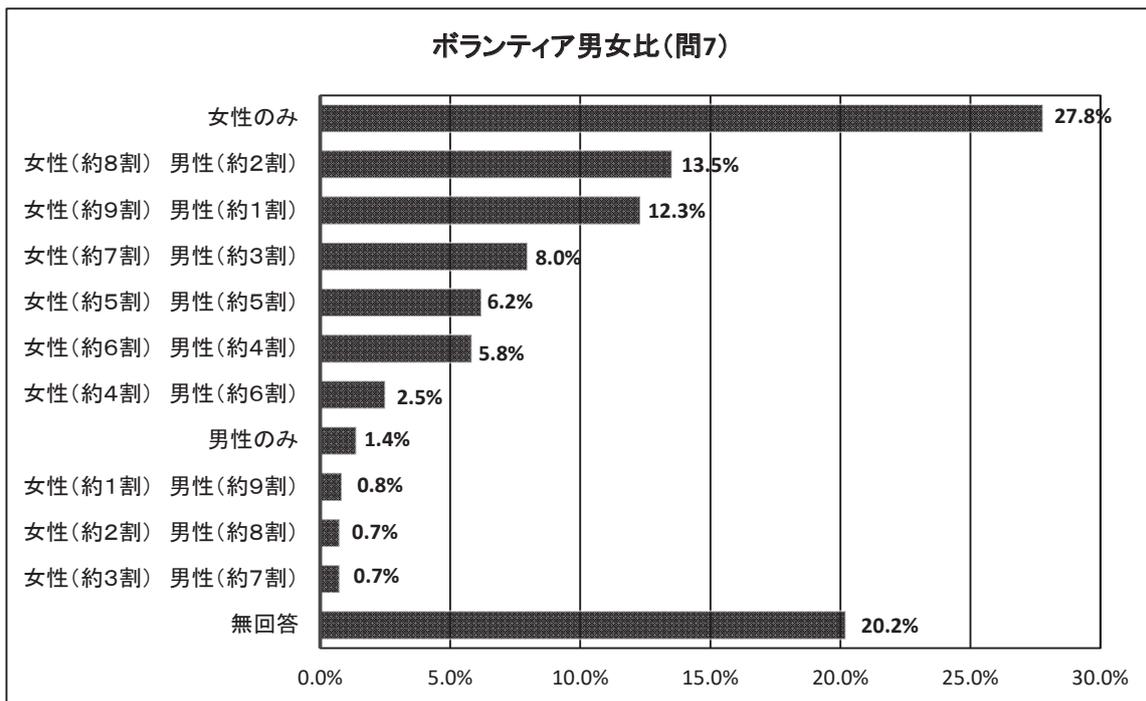
② 運営ボランティア数



◆令和2年の結果（運営ボランティア数）

運営支援を行うボランティアがいるサロンが全体の80%であり、人数では「1人~4人」が30.0%と最も多く、次いで「5人~9人」が23.1%である。

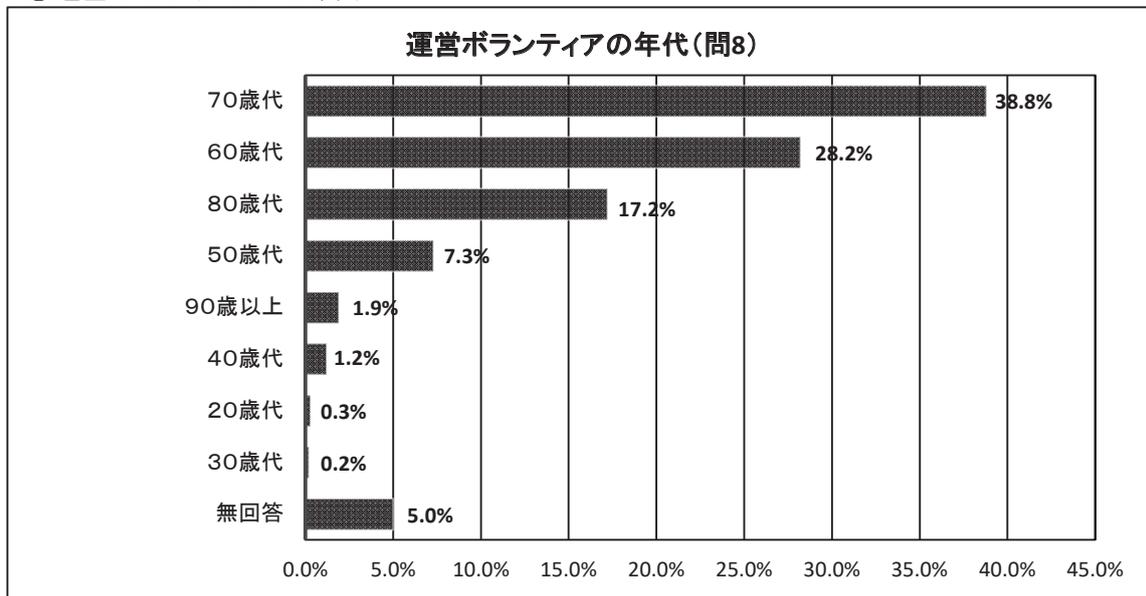
③ボランティア男女比



◆令和2年の結果(ボランティア男女比)

「女性のみ」のサロンが27.8%で最も多い。一方で「男性のみ」のサロンは1.4%である。

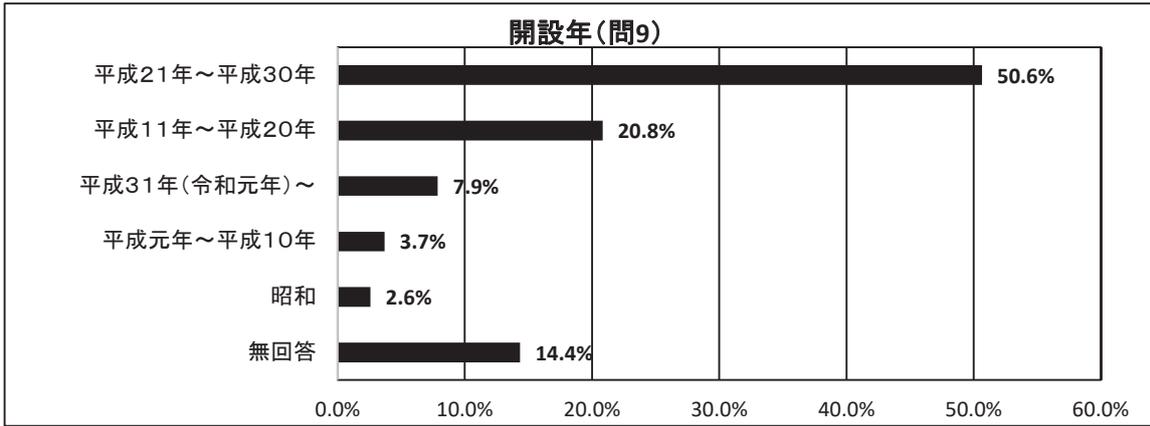
④運営ボランティアの年代



◆令和2年の結果(運営ボランティアの年代)

70歳代が最も多く38.8%である。次いで60歳代が28.2%、80歳代が17.2%の順である。

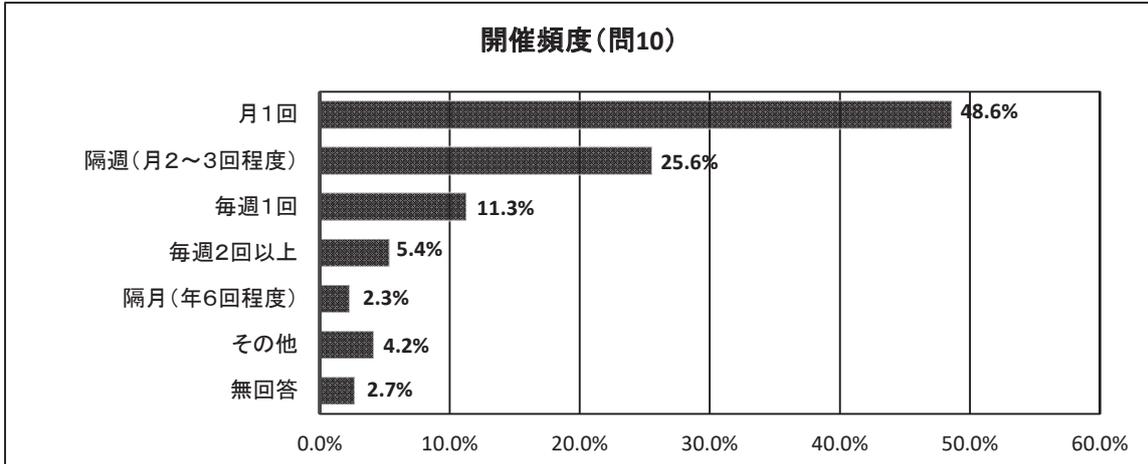
⑤開設年



◆令和2年の結果(開設年)

平成11年以降に開設したサロンが全体の約8割である。

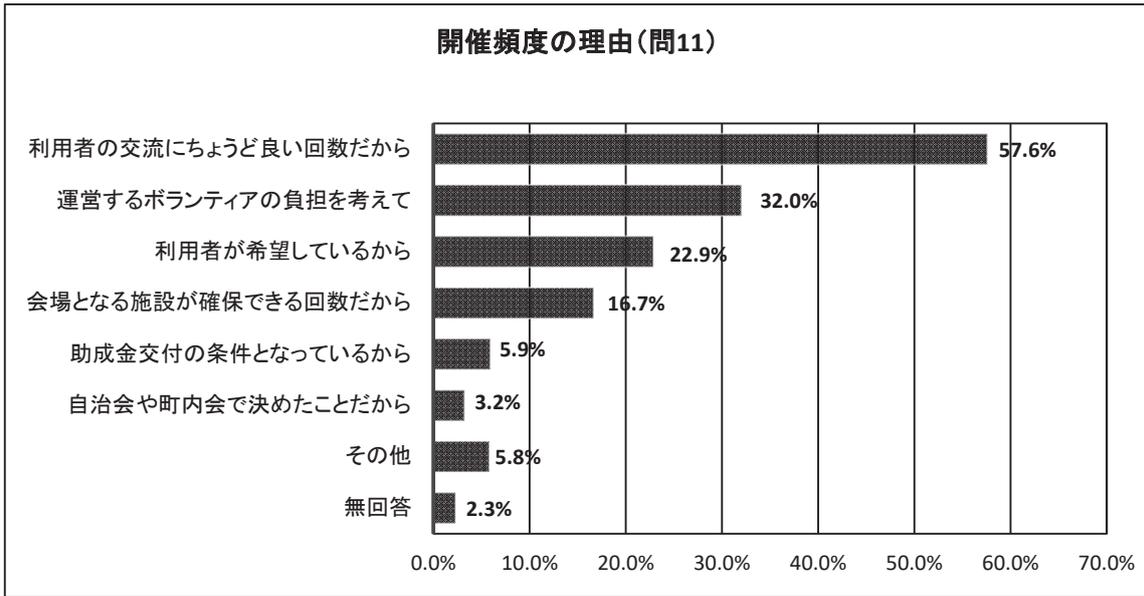
⑥開催頻度



◆令和2年の結果(開催頻度)

「月1回」が48.6%で最も多い。次いで「隔週(月2～3回程度)」が25.6%である。

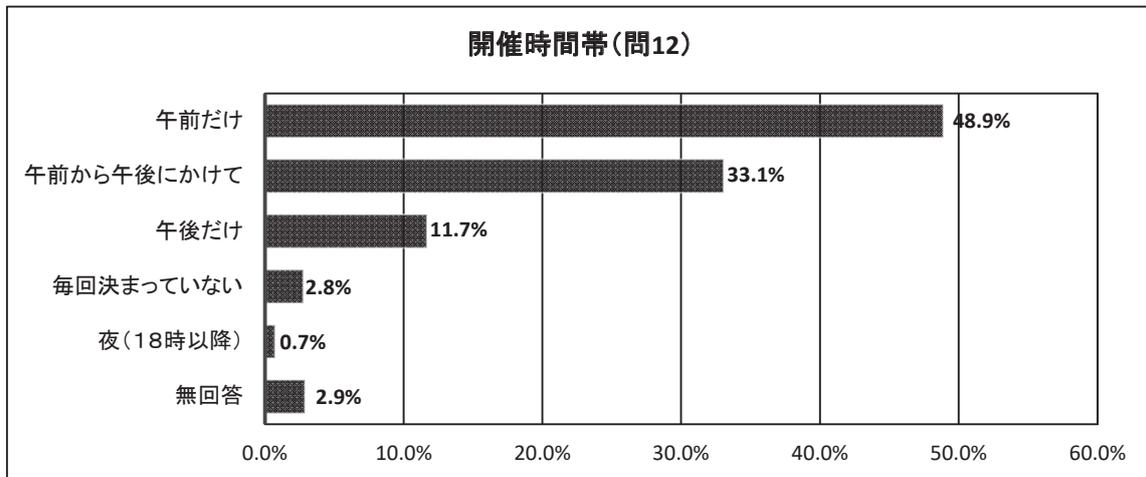
⑦開催頻度の理由



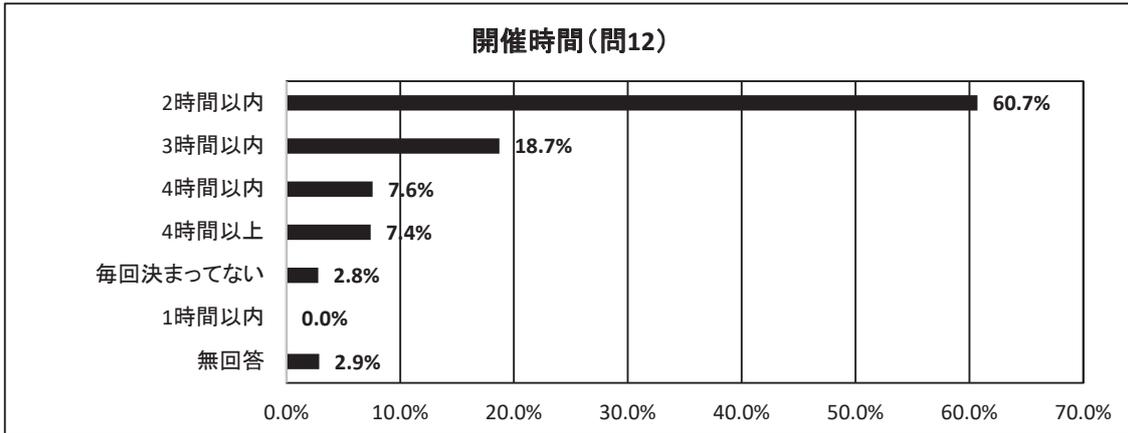
◆令和2年の結果（開催頻度の理由）

「利用者の交流にちょうど良い回数だから」が57.6%で最も多い。次いで「運営するボランティアの負担を考えて」が32.0%、「利用者が希望しているから」が22.9%の順である。

⑧-1開催時間帯



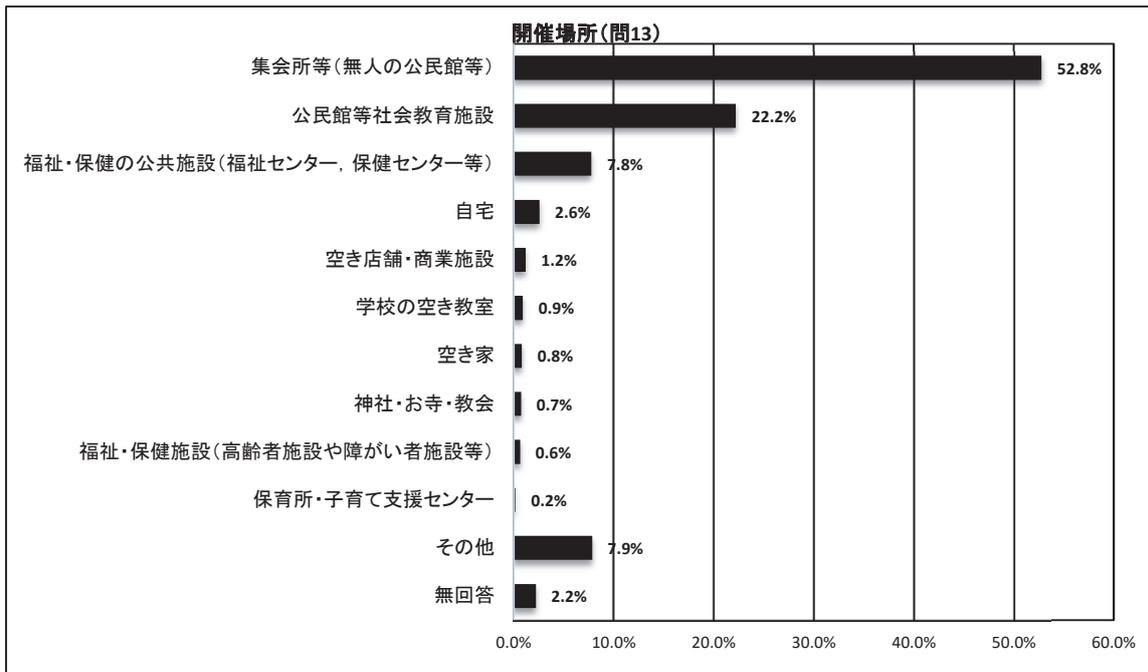
⑧-2開催時間



◆令和2年の結果（開催時間帯と開催時間）

午前中に開催するサロンが48.9%で約半数を占める。また時間数では2時間以内を開催時間とするサロンが60.7%と最も多い。

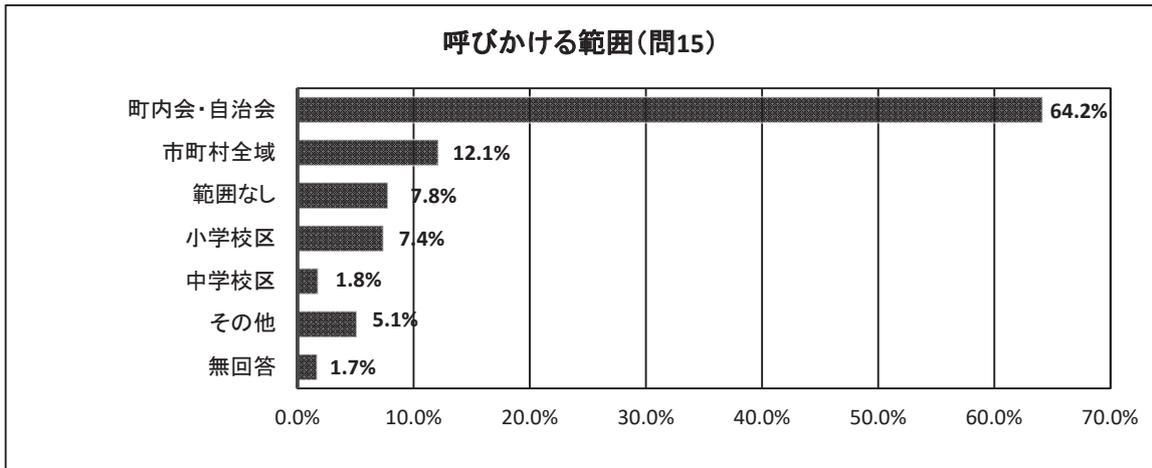
⑨開催場所



◆令和2年の結果（開催場所）

「集会所等（無人の公民館等）」が52.8%で最も多い。次いで「公民館等社会教育施設」が22.2%である。

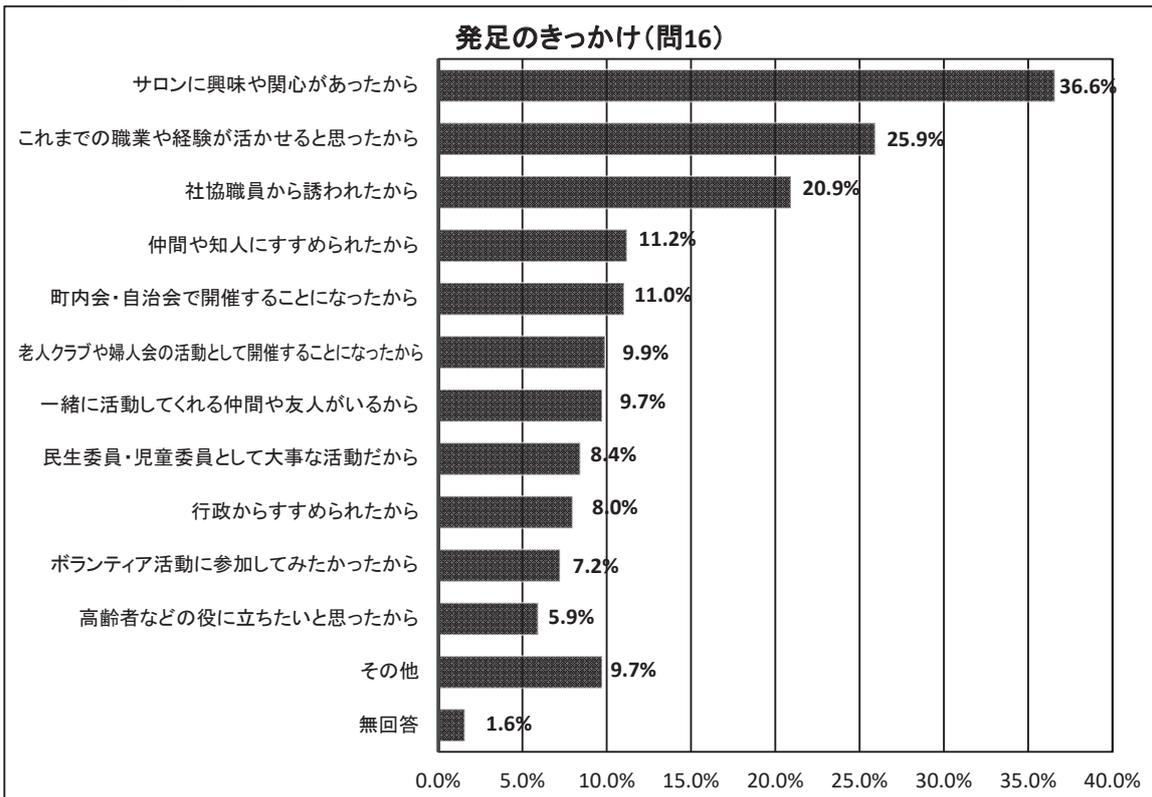
⑩呼びかける範囲



◆令和2年の結果（呼びかける範囲）

「町内会・自治会」が64.2%と全体の約6割を占めている。

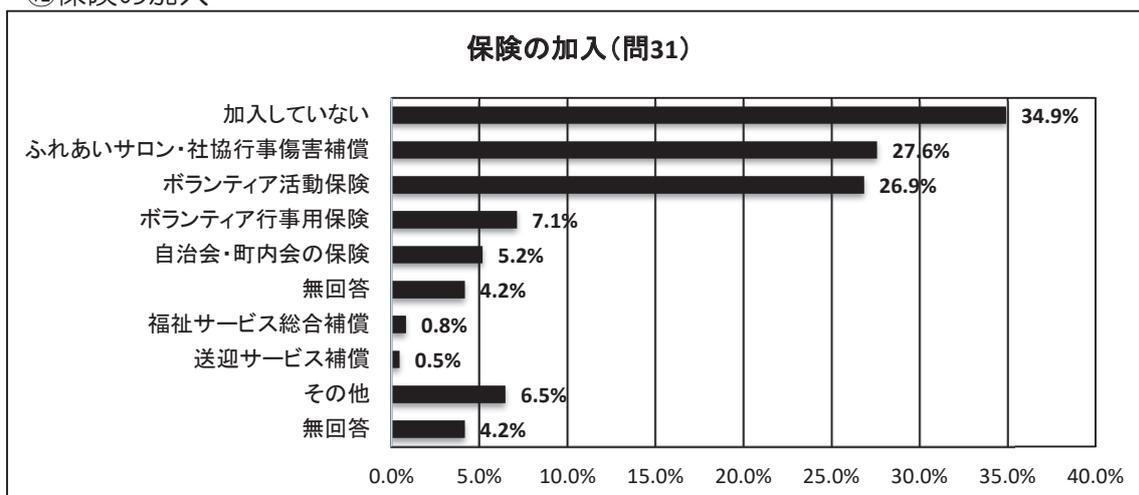
⑪発足のきっかけ



◆令和2年の結果（発足のきっかけ）

「サロンに興味や関心があったから」が36.6%で最も多い。次いで「これまでの職業や経験が活かせると思ったから」が25.9%、「社協職員から誘われたから」が20.9%の順である。

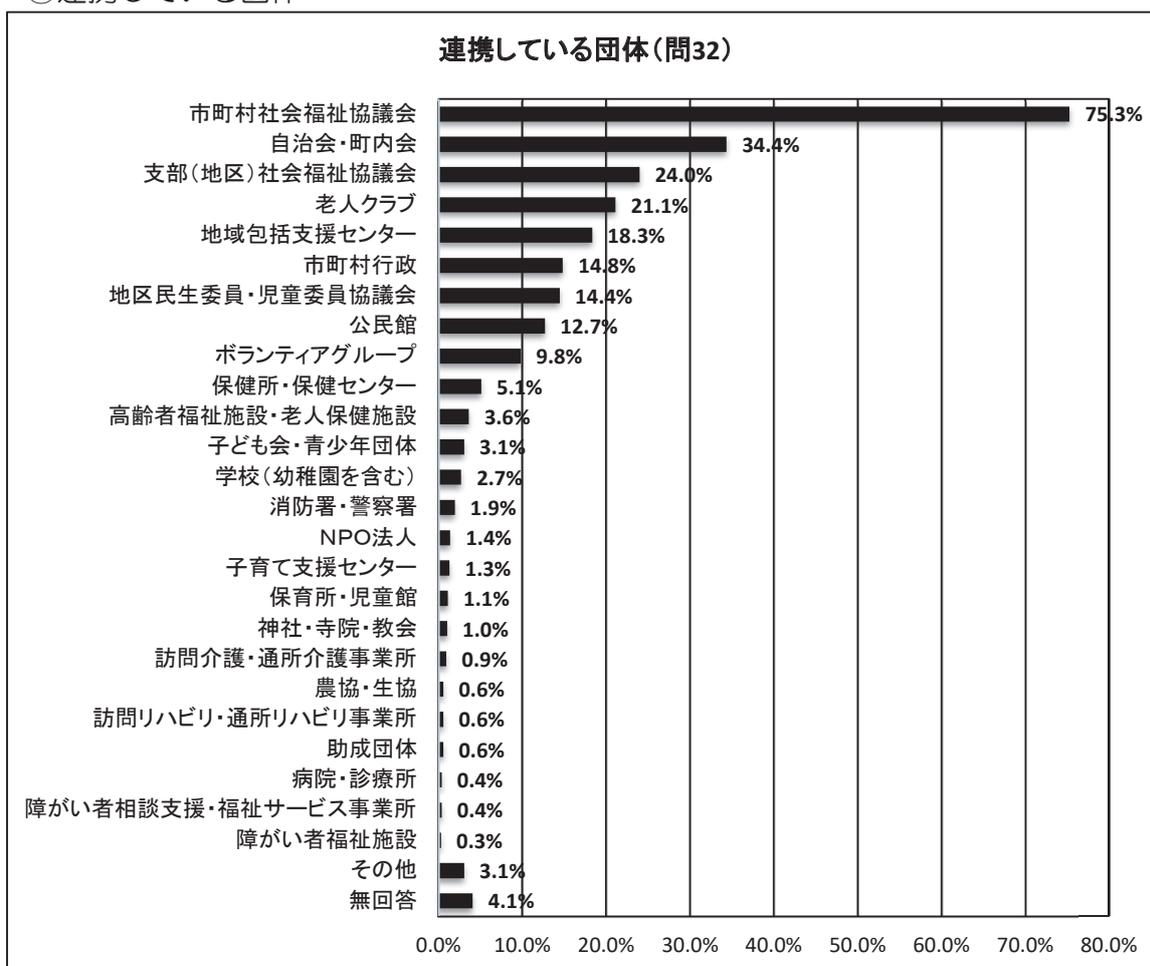
⑫保険の加入



◆令和2年の結果（保険の加入）

「加入していない」が34.9%で最も多い。次いで「ふれあいサロン・社協行事傷害補償」が27.6%、「ボランティア活動保険」の26.9%の順である。

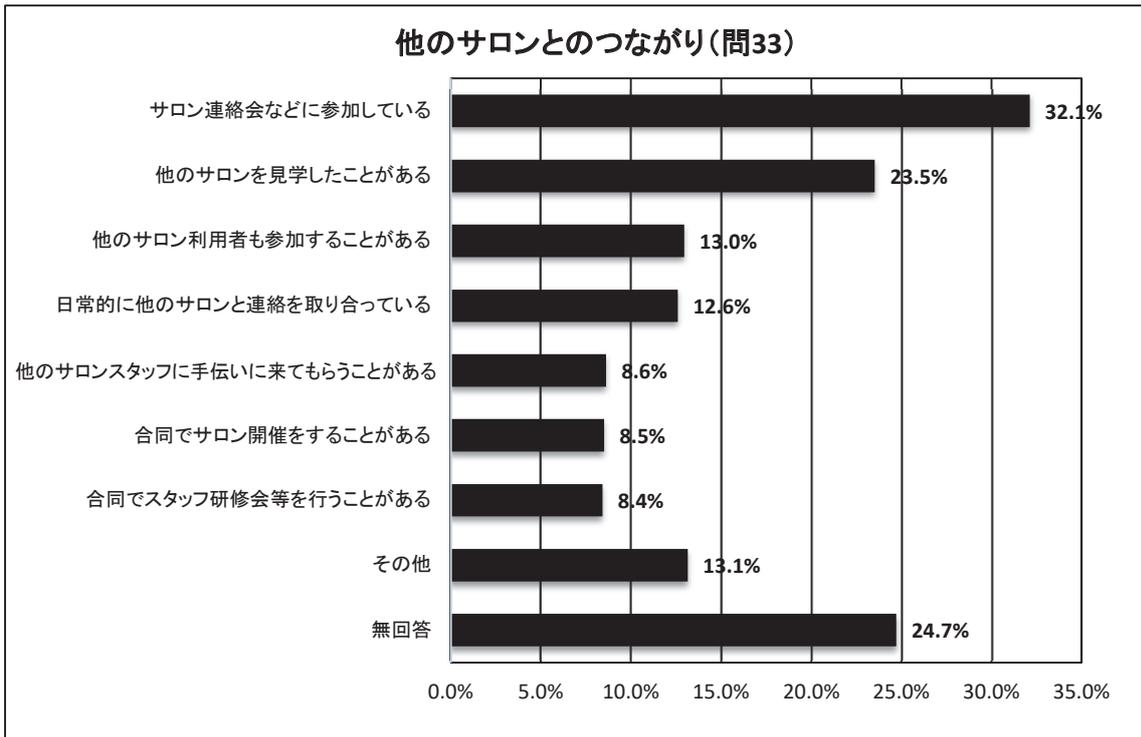
⑬連携している団体



◆令和2年の結果（連携している団体）

「市町村社会福祉協議会」が75.3%で最も多い。次いで「自治会・町内会」が34.4%、「支部（地区）社会福祉協議会」が24.0%の順である。

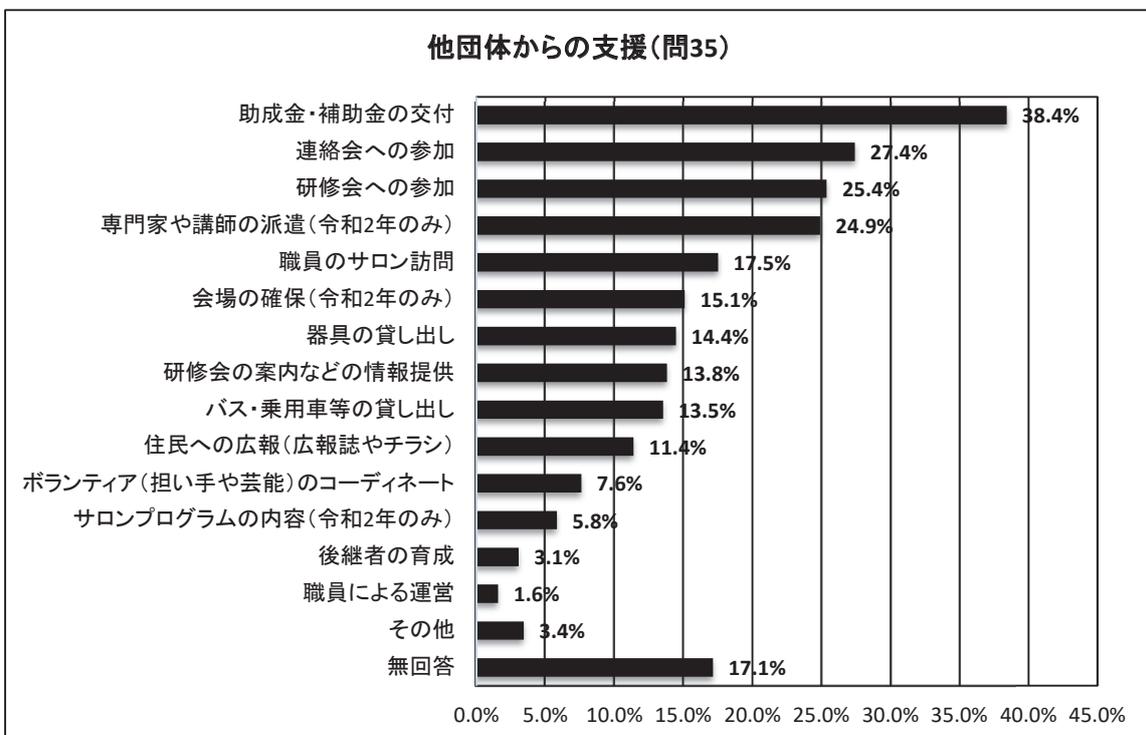
⑭他のサロンとのつながり



◆令和2年の結果（他のサロンとのつながり）

「サロン連絡会などに参加している」が32.1%で最も多く、次いで「他のサロンを見学したことがある」が23.5%の順である。

⑮他団体からの支援

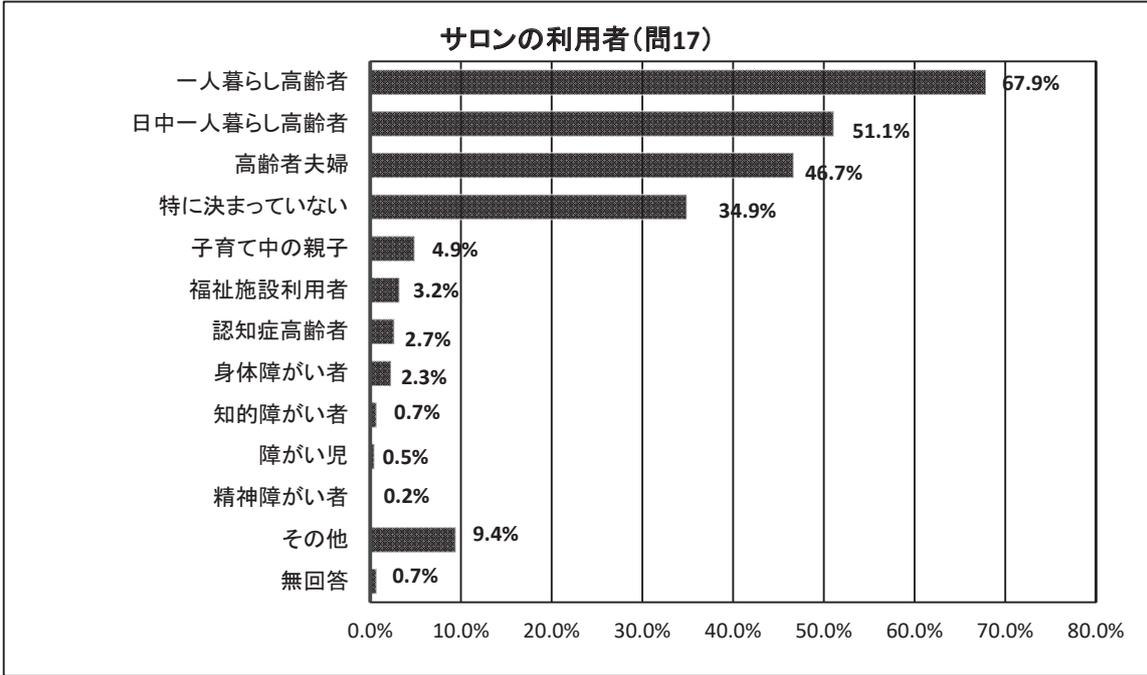


◆令和2年の結果（他団体からの支援）

「助成金・補助金の交付」が38.4%で最も多く、次いで「連絡会への参加」が27.4%、「研修会への参加」が25.4%の順である。

(3) サロンの利用者等について

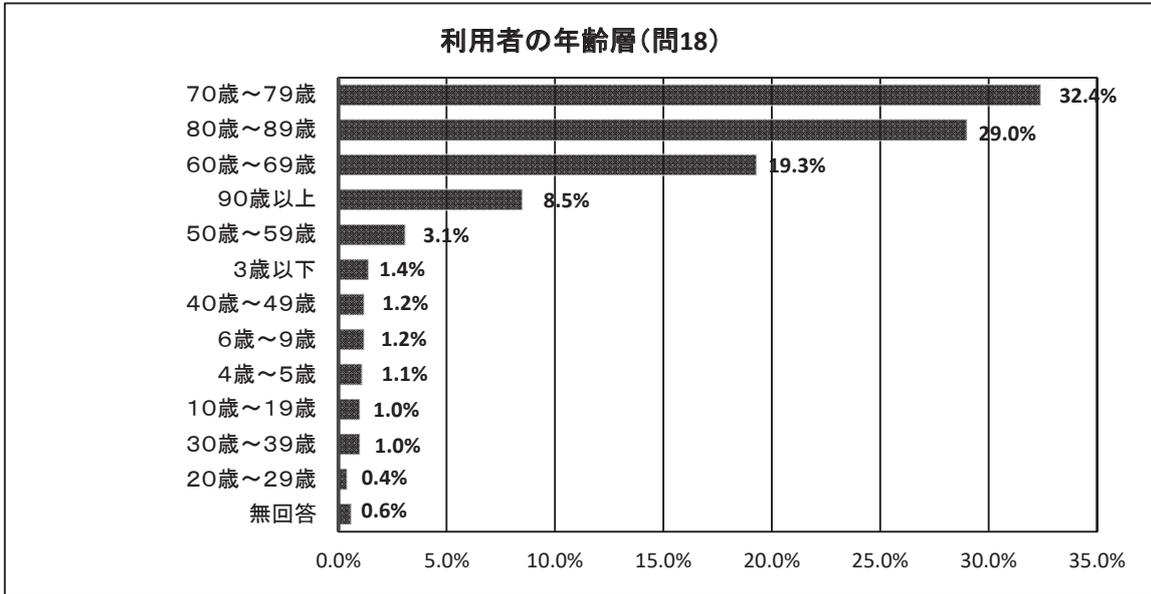
①サロンの利用者



◆令和2年の結果(サロンの利用者)

「一人暮らし高齢者」が67.9%で最も多い。次いで「日中一人暮らし高齢者」が51.1%、「高齢者夫婦」が46.7%の順である。

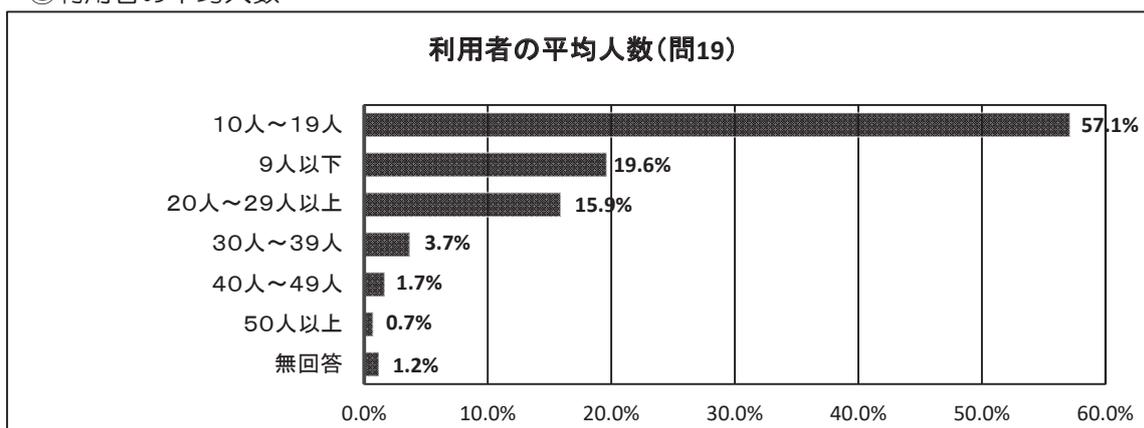
②利用者の年齢層



◆令和2年の結果(利用者の年齢層)

「70歳~79歳」が32.4%で最も多い。次いで「80歳~89歳」が29.0%、「60歳~69歳」が19.3%の順である。

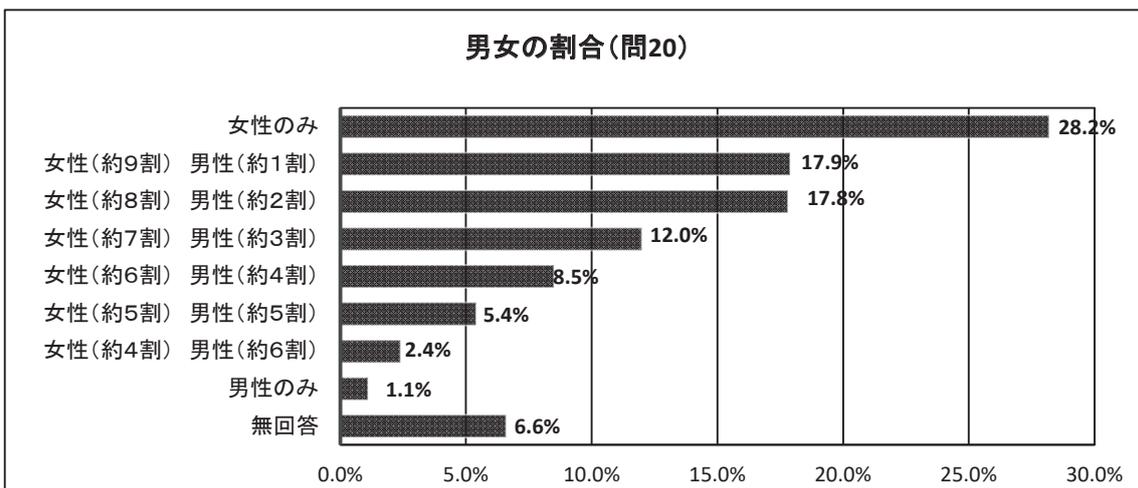
③利用者の平均人数



◆令和2年の結果（利用者の平均人数）

「10人~19人」が57.1%で最も多い。次いで「9人以下」が19.6%、「20人~29人」が15.9%の順である。

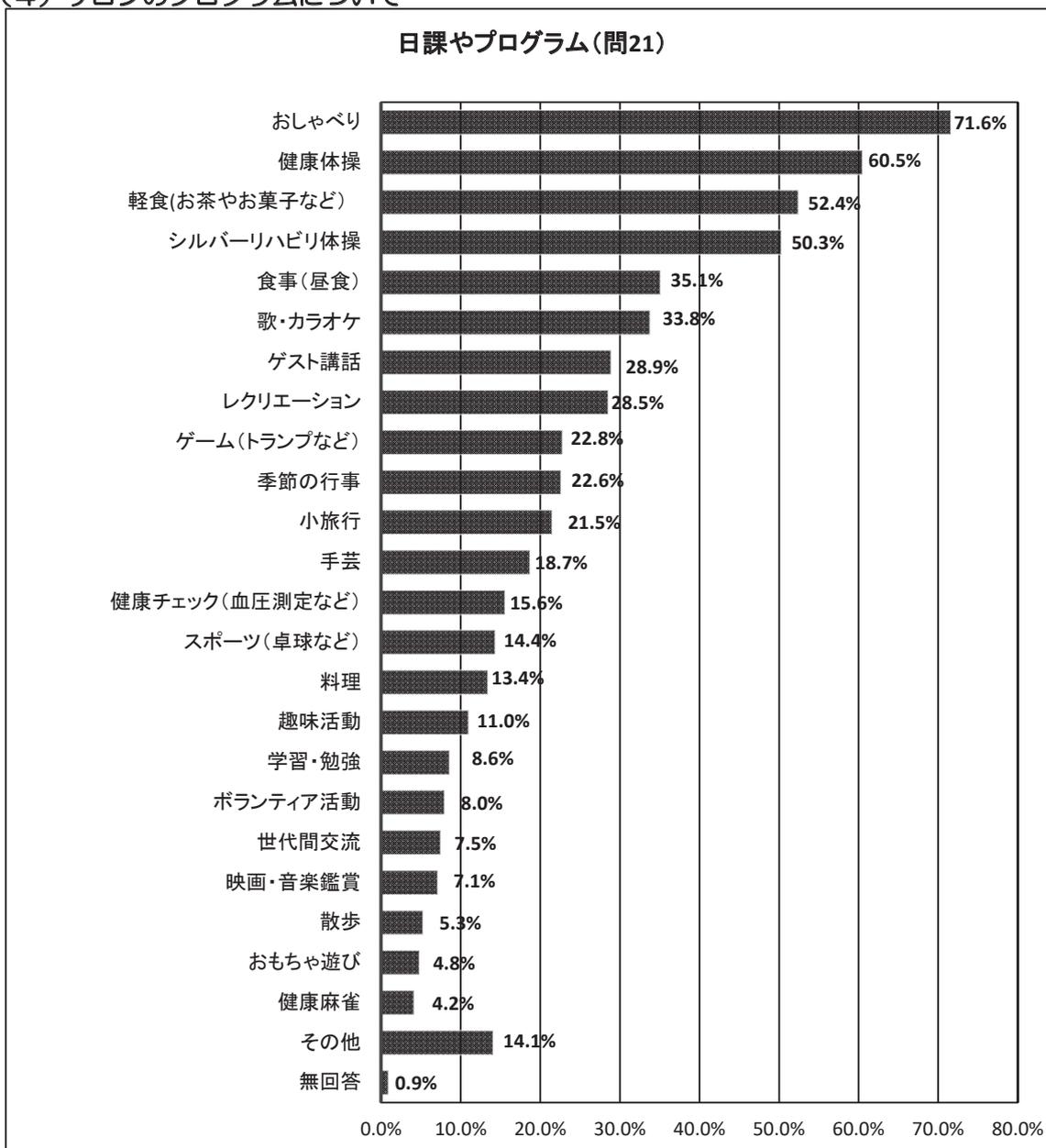
④男女の割合



◆令和2年の結果（男女の割合）

「女性のみ」のサロンが28.2%で最も多い。男女の参加がある場合でも、女性の割合が多いサロンが多い。

(4) サロンのプログラムについて

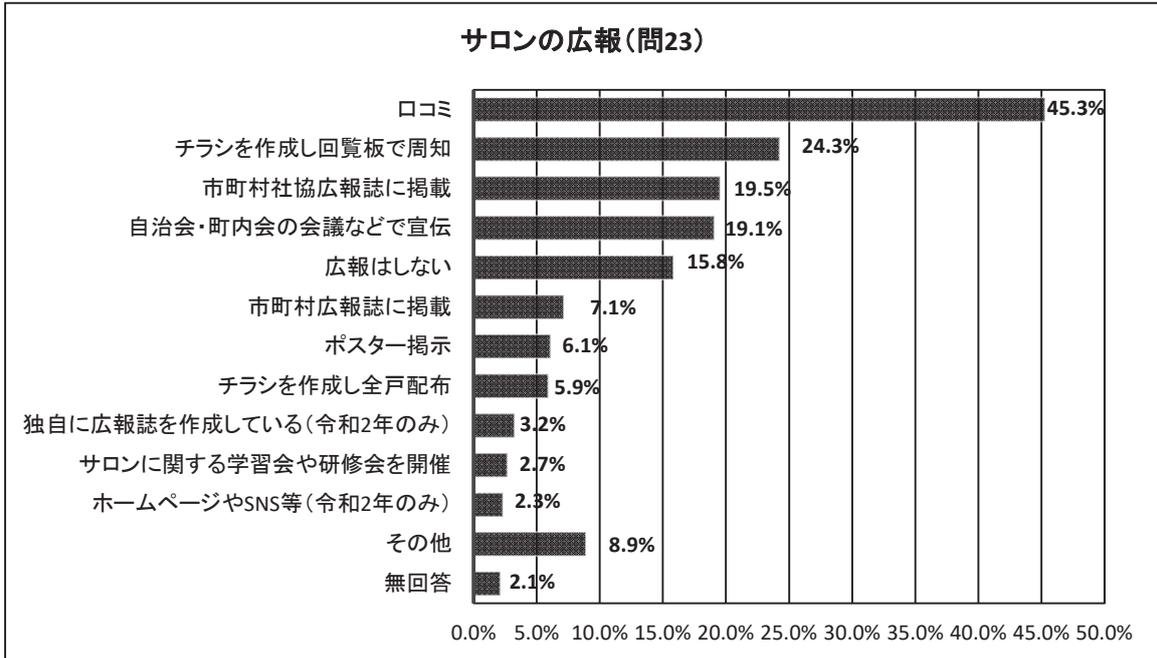


◆令和2年の結果(日課やプログラム)

「おしゃべり」が71.6%で最も多い。次いで「健康体操」が60.5%、「軽食(お茶やお菓子など)」が52.4%の順である。

(5) サロンの広報等について

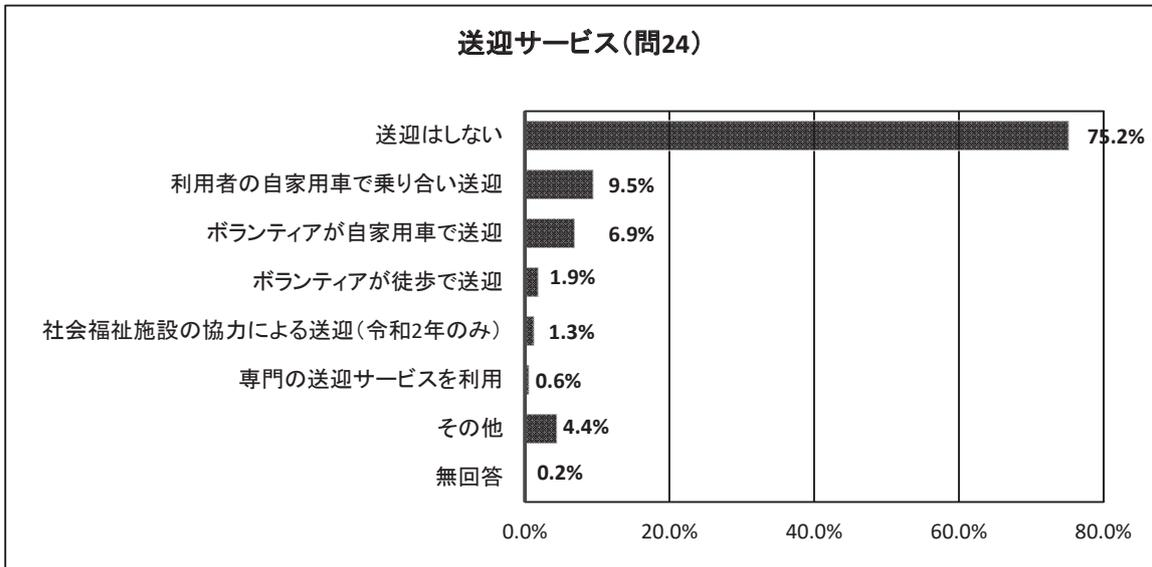
① サロンの広報



◆令和2年の結果(サロンの広報)

「口コミ」が45.3%で最も多い。次いで「チラシを作成し回覧板で周知」が24.3%、「市町村社協広報誌に掲載」が19.5%の順である。

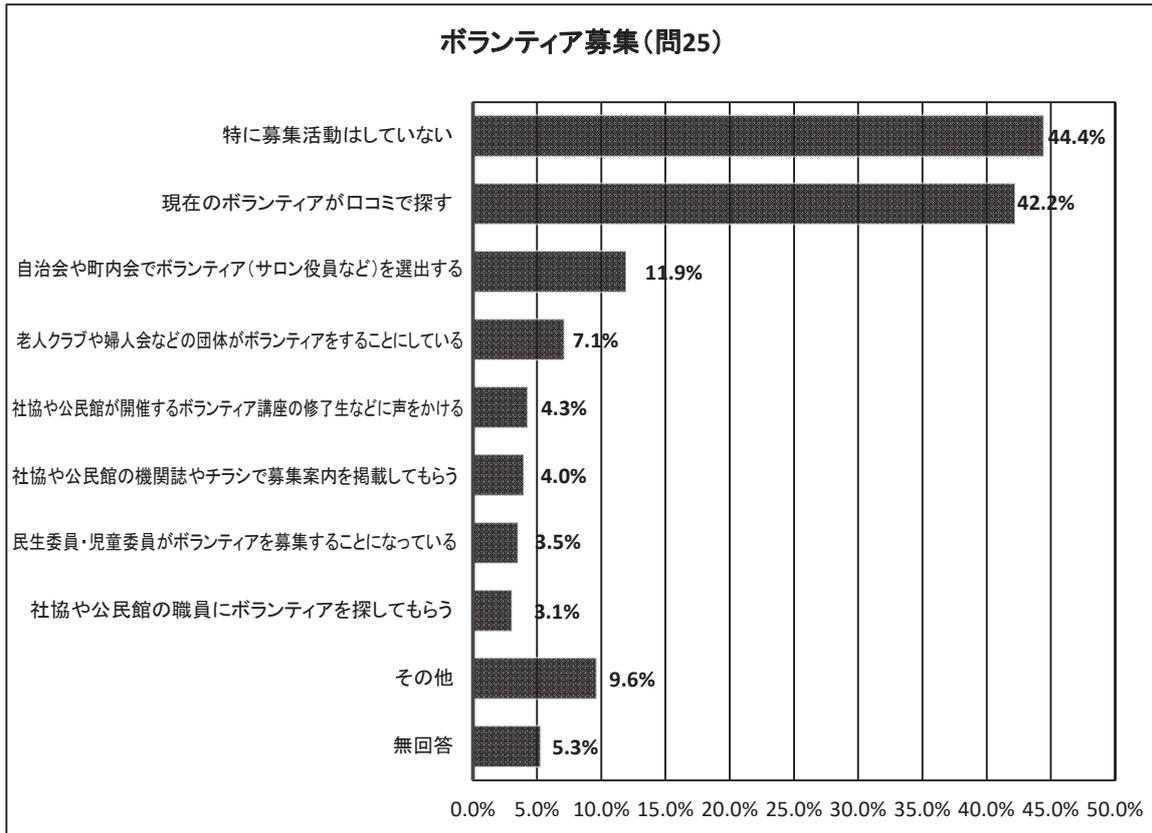
② 送迎サービス



◆令和2年の結果(送迎サービス)

「送迎はしない」が75.2%で最も多い。次いで「利用者の自家用車で乗り合い送迎」が9.5%、「ボランティアが自家用車で送迎」が6.9%の順である。

③ボランティア募集

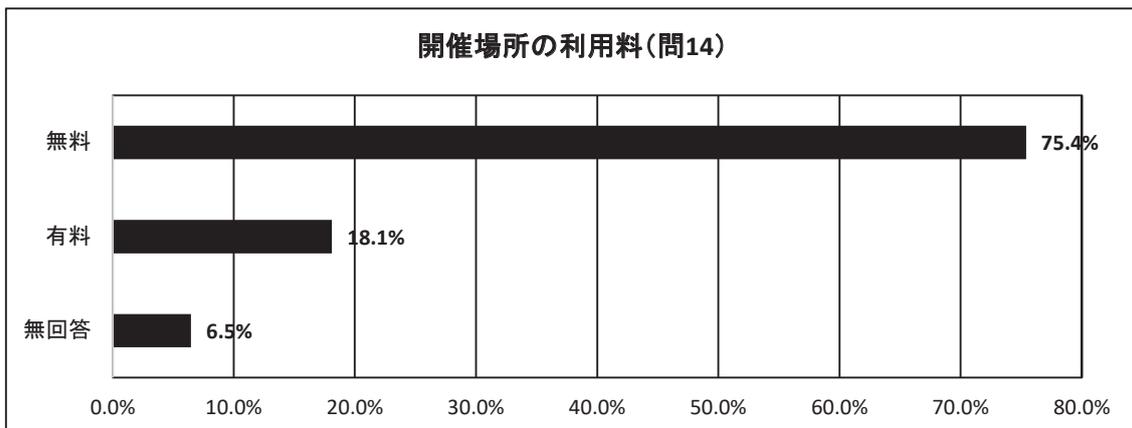


◆令和2年の結果(ボランティア募集)

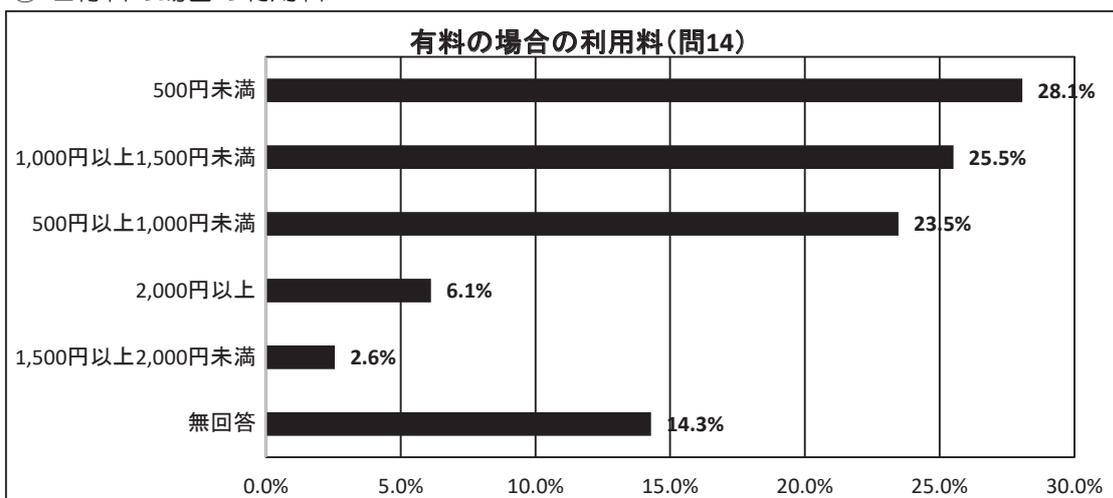
「特に募集活動はしていない」が44.4%で最も多い。次いで「現在のボランティアが口コミで探す」が42.2%、「自治会や町内会でボランティア(サロン役員など)を選出する」が11.9%の順である。

(6) サロンの運営費用について

①-1 開催場所の利用料



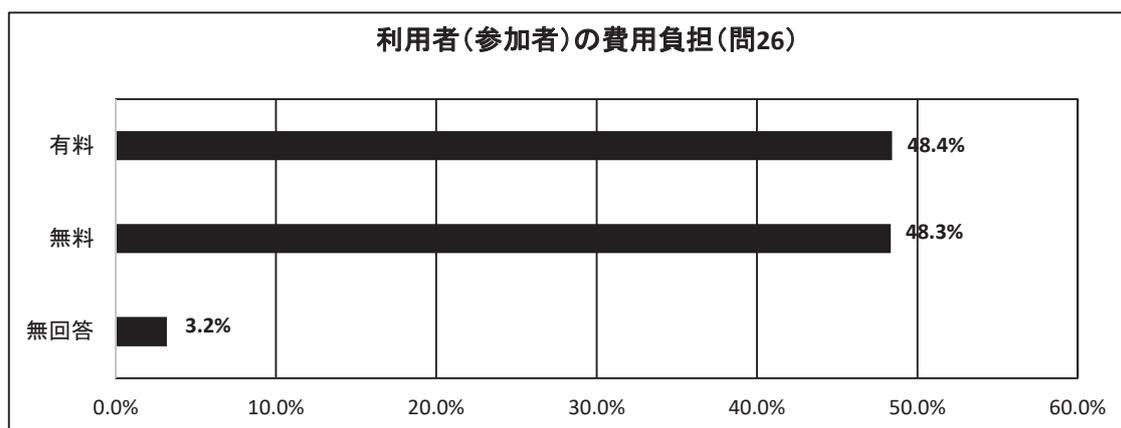
①-2有料の場合の利用料



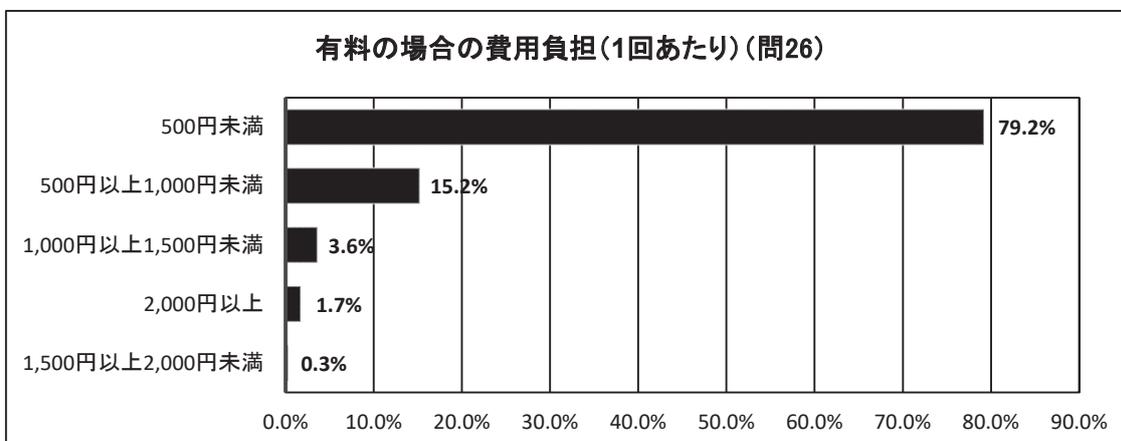
◆令和2年の結果（有料の場合の利用料）

開催場所が「無料」は75.4%である。有料の場合、「500円未満」が28.1%で最も多く、次いで「1,000円以上1,500円未満」が25.5%、「500円以上1,000円未満」が23.5%の順である。

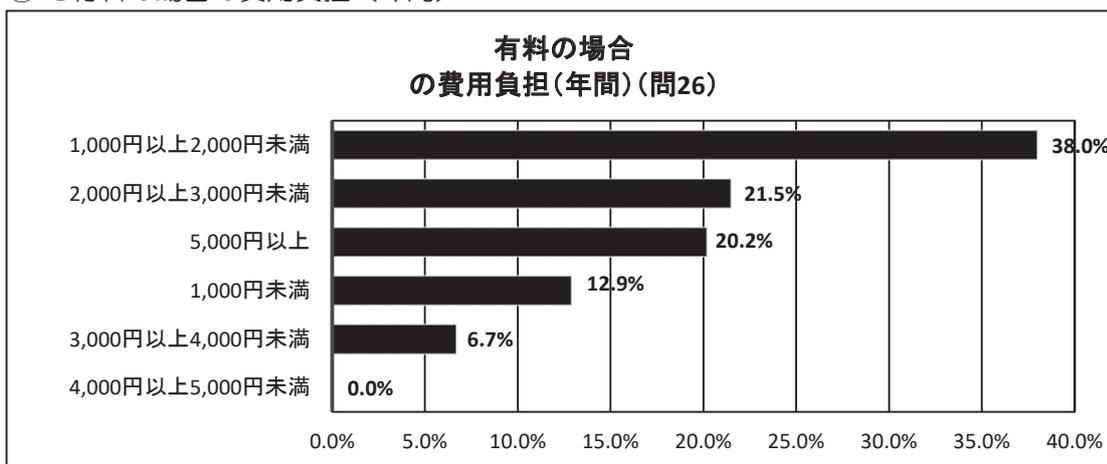
②-1利用者（参加者）の費用負担



②-2有料の場合の費用負担（1回あたり）



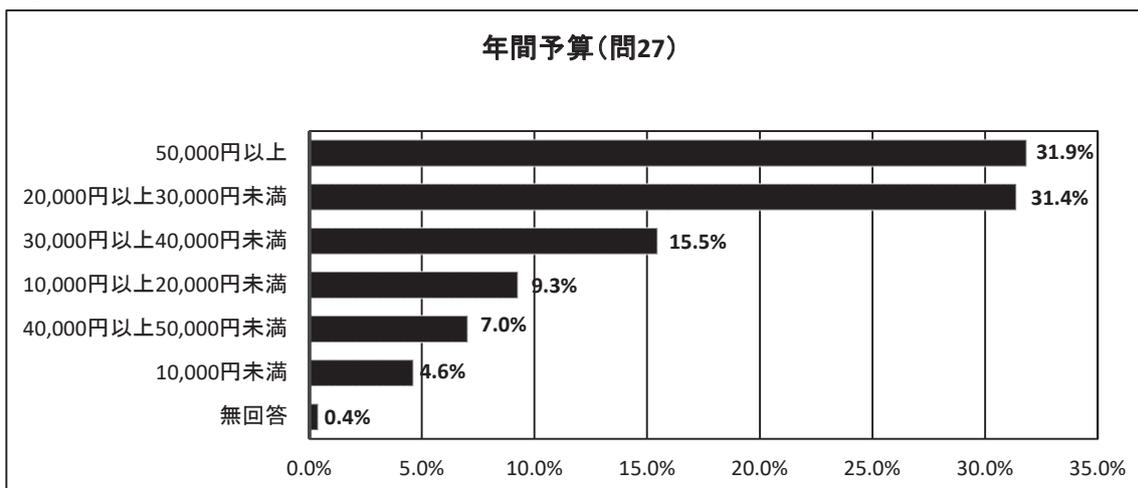
②-3有料の場合の費用負担（年間）



◆令和2年の結果（有料の場合の費用負担）

「有料」と「無料」は、ほぼ同一割合である。「有料」の場合、1回あたりの参加費（利用料）は「500円未満」が最も多く79.2%である。年間の参加費（利用料）は「1,000円以上2,000円未満」が最も多く38.0%である。

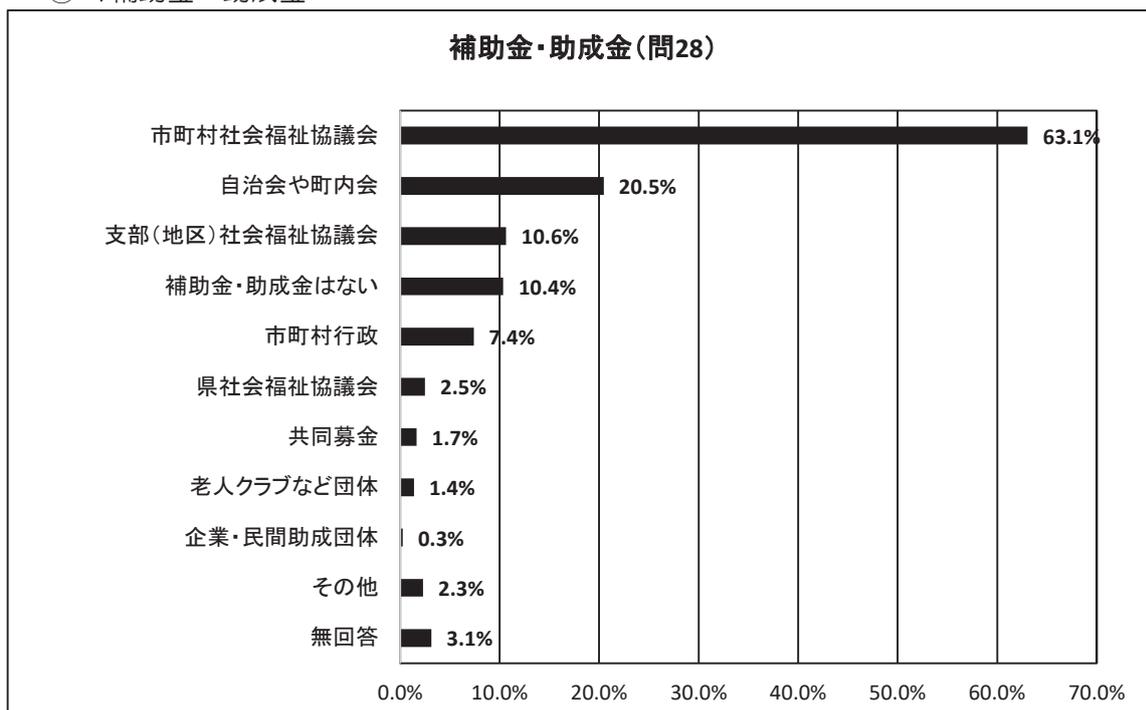
③年間予算



◆令和2年の結果（年間予算）

「50,000円以上」が31.9%で最も多く、次いで「20,000円以上30,000円未満」が31.4%である。

④-1 補助金・助成金

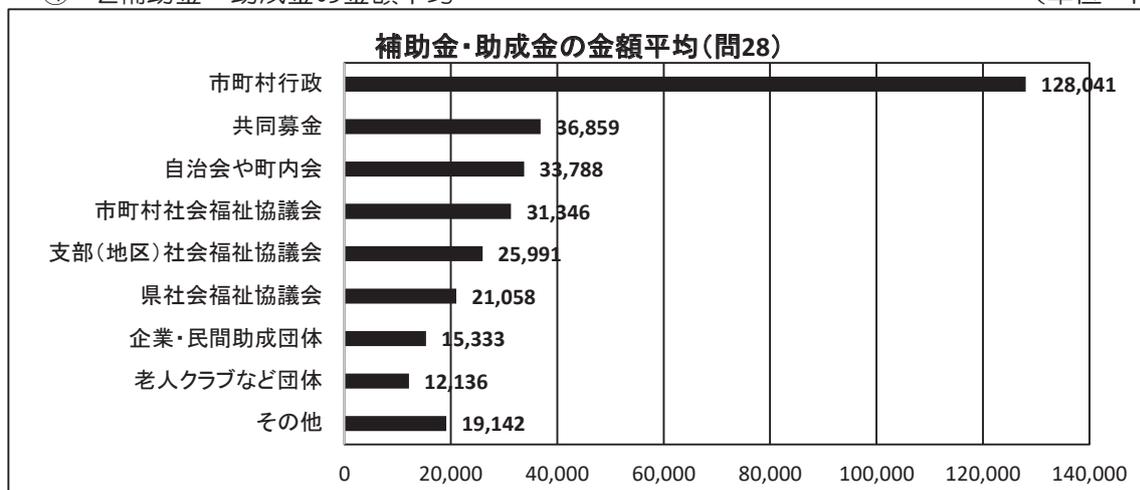


◆令和2年の結果（補助金・助成金）

「市町村社会福祉協議会」からの補助金・助成金が63.1%と最も多い。次いで「自治会や町内会」が20.5%、「支部（地区）社会福祉協議会」が10.6%の順である。

④-2 補助金・助成金の金額平均

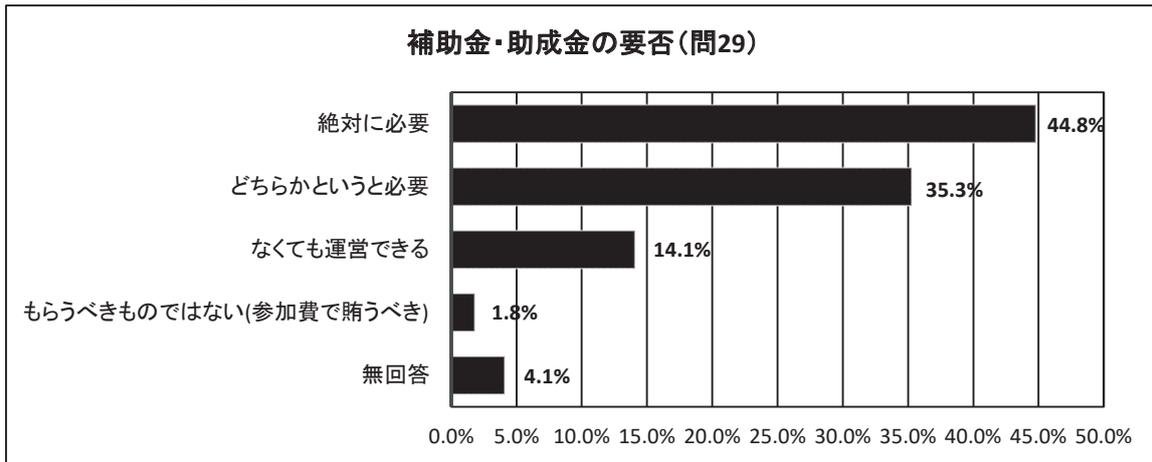
（単位：円）



◆令和2年の結果（補助金・助成金の金額平均）

「市町村行政」からの補助金・助成金が128,041円と最も多い。次いで「共同募金会」が36,859円、「自治会や町内会」が33,788円の順である。

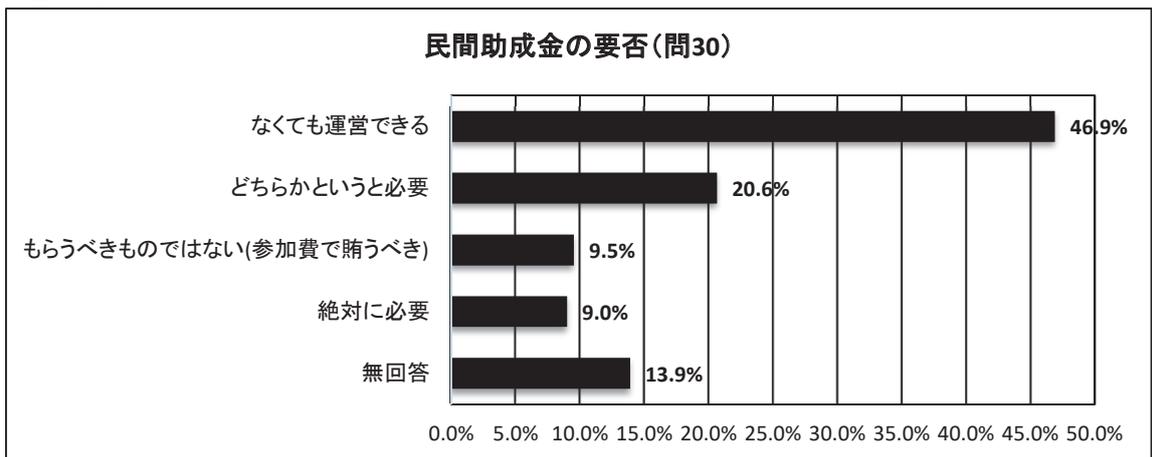
⑤補助金・助成金の要否



◆令和2年の結果(補助金・助成金の要否)

「絶対に必要」が44.8%、「どちらかという必要」が35.3%と約8割のサロンが補助金等を必要としている。

⑥民間助成金の要否

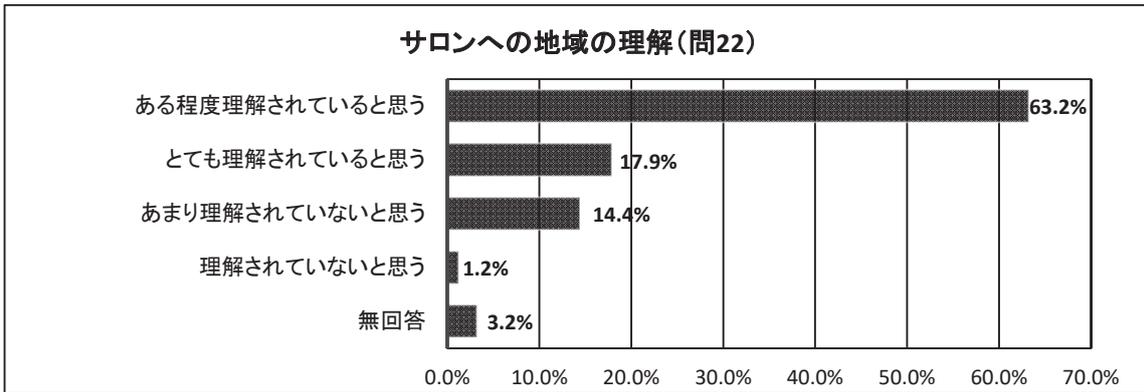


◆令和2年の結果(民間助成金の要否)

「なくても運営できる」が46.9%で最も多く、次いで「どちらかという必要」が20.6%、「もらうべきではない(参加費で賄うべき)」が9.5%の順である。

(7) サロンの評価について

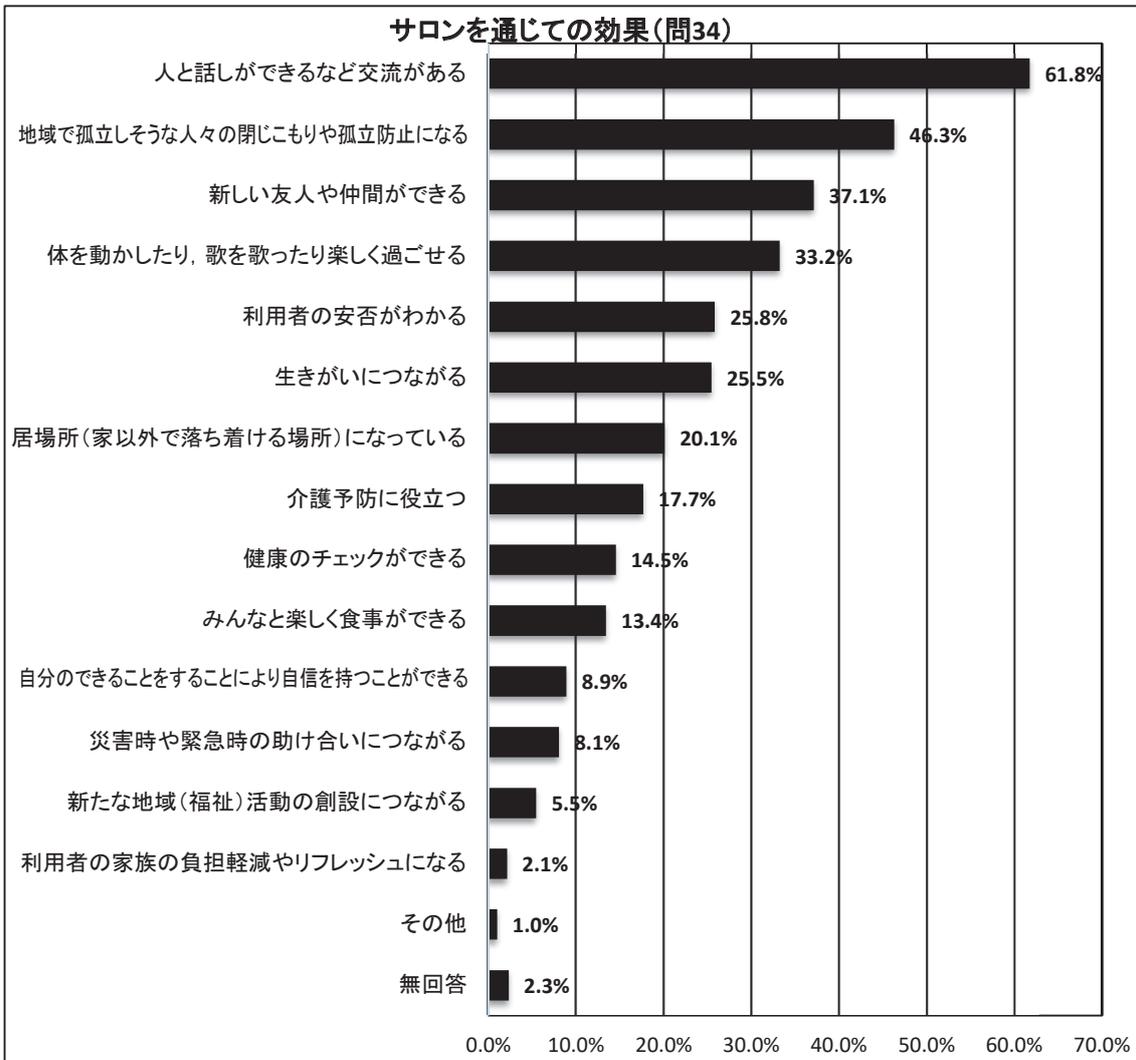
① サロンへの地域の理解



◆ 令和2年の結果（サロンへの地域の理解）

「ある程度理解されていると思う」が63.2%、「とても理解されていると思う」が17.9%の順となっており、この2項目で約8割を占めている。

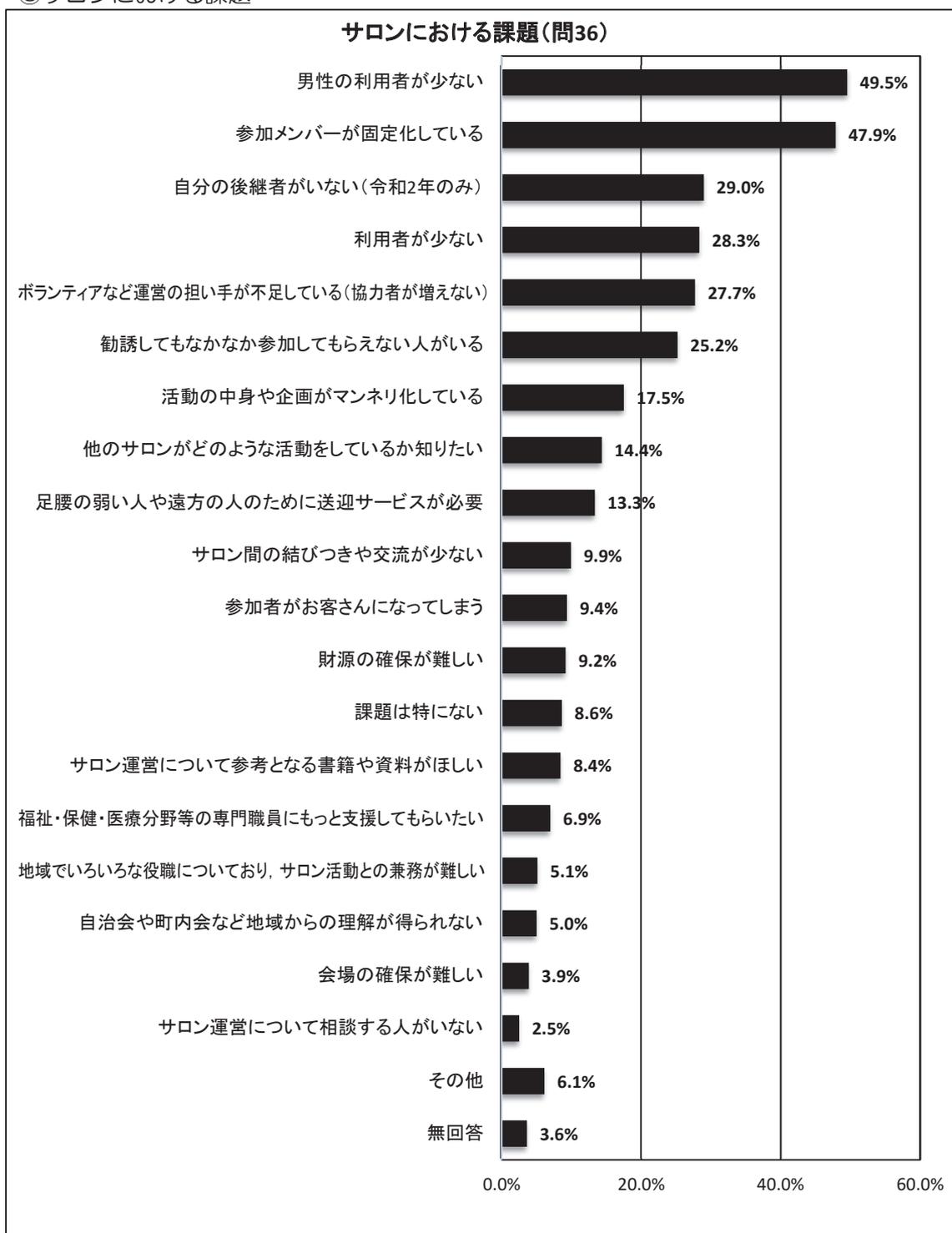
② サロンを通じての効果



◆ 令和2年の結果（サロンを通じての効果）

「人と話しができるなど交流がある」が61.8%で最も多く、次いで「地域で孤立しそうな人々の閉じこもりや孤立防止になる」が46.3%、「新しい友人や仲間ができる」が37.1%の順である。

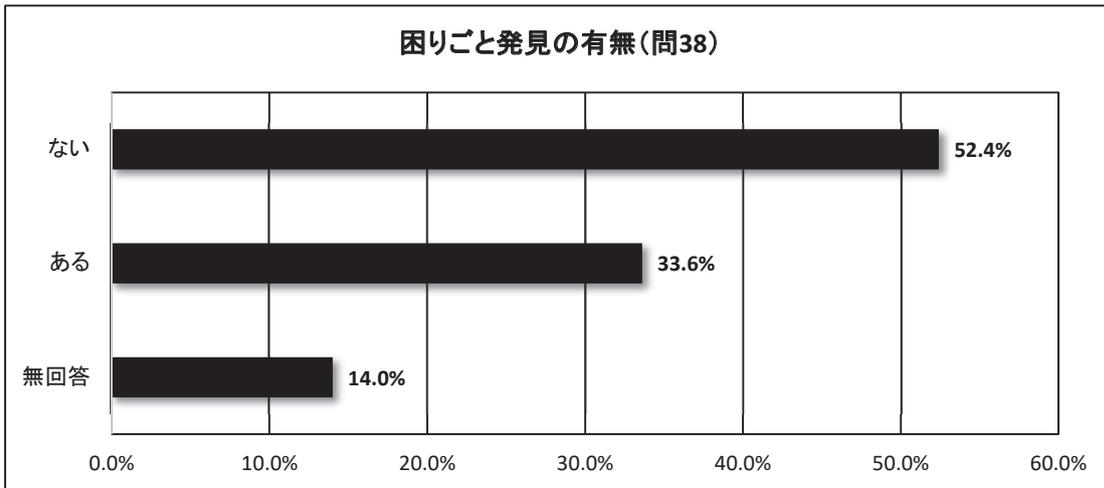
③サロンにおける課題



◆令和2年の結果（サロンにおける課題）

「男性の利用者が少ない」が49.5%で最も多い。次いで「参加メンバーが固定化している」が47.9%、「自分の後継者がいない」が29.0%の順である。

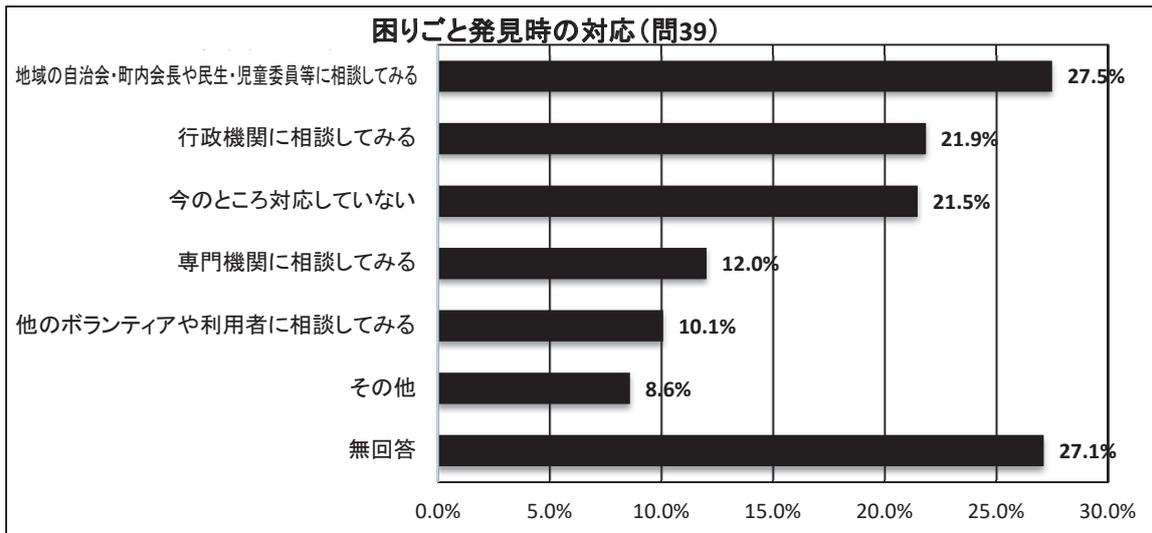
④困りごとと発見の有無



◆令和2年の結果（困りごとと発見の有無）

困りごとと発見の有無について33.6%が「ある」と回答している。

⑤困りごとと発見時の対応

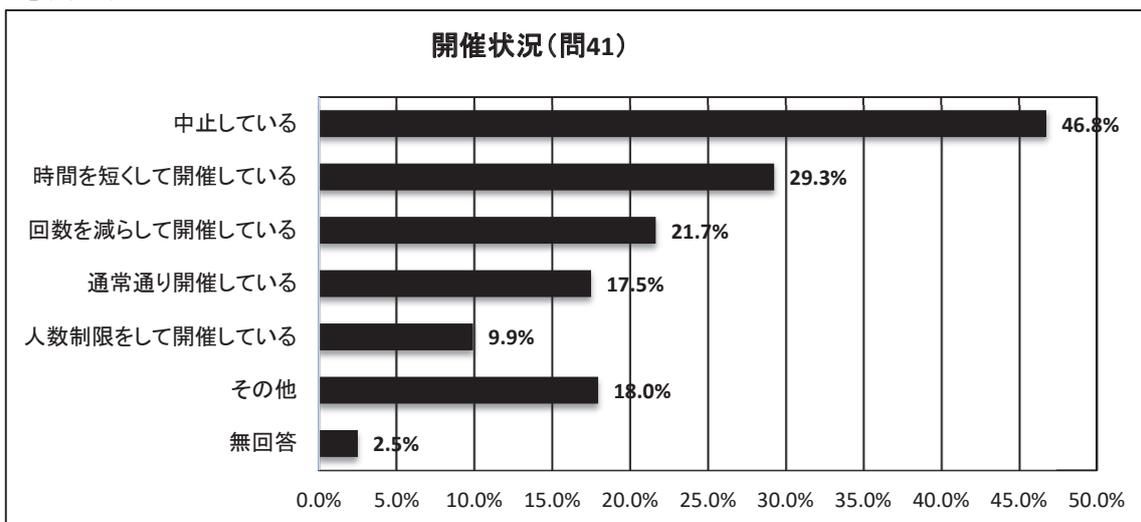


◆令和2年の結果（困りごとと発見時の対応）

「地域の自治会・町内会長や民生・児童委員等に相談してみる」が27.5%と最も多い。次いで「行政機関に相談してみる」が21.9%である。

(8) 新型コロナウイルス感染症への対応について

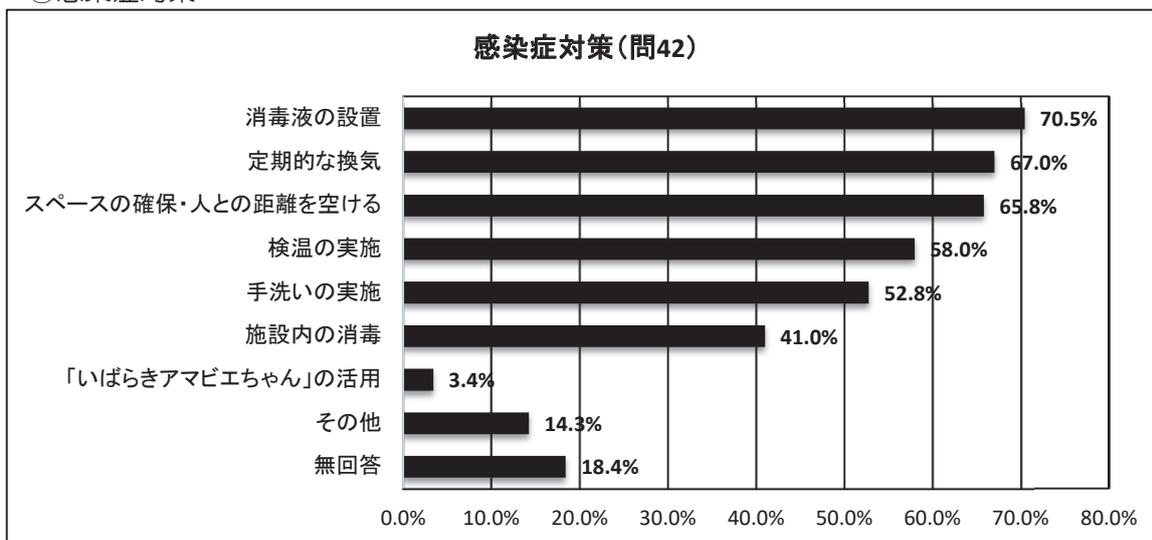
①開催状況



◆令和2年の結果（開催状況）

サロン開催状況について46.8%が「中止している」と回答している。実施をする場合は「時間を短くして開催している」が29.3%で最も多い。次いで「回数を減らして開催している」が21.7%である。「通常通り開催している」サロンは17.5%である。

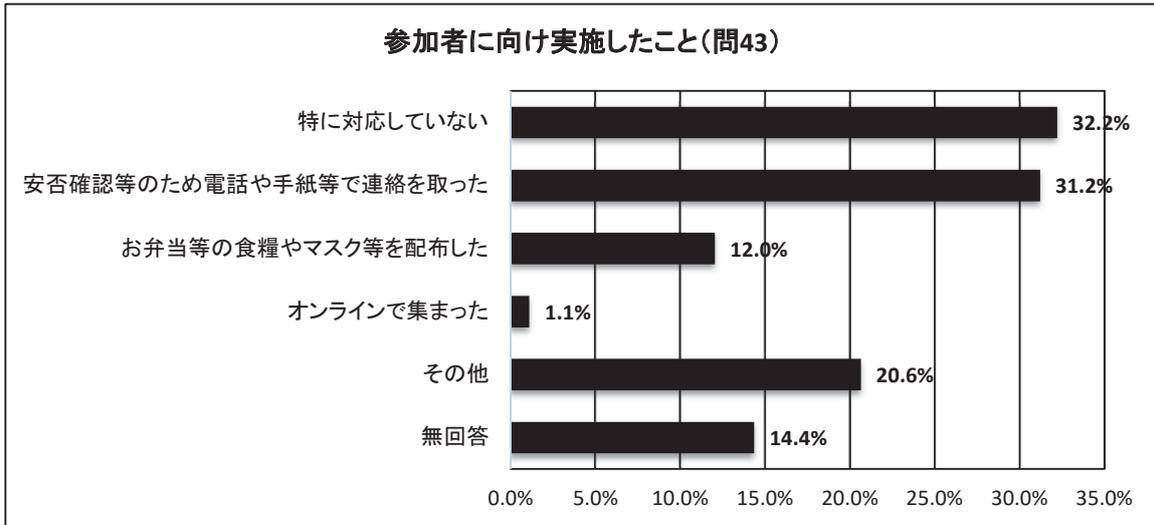
②感染症対策



◆令和2年の結果（感染症対策）

「消毒液の設置」が70.5%で最も多い。次いで「定期的な換気」が67.0%、「スペースの確保・人との距離を空ける」が65.8%の順である。

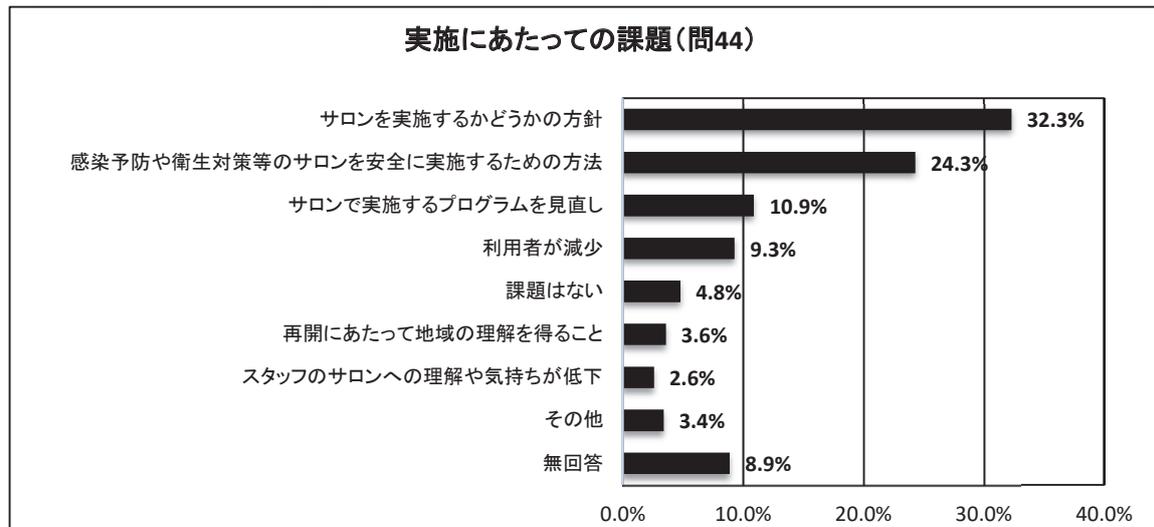
③参加者に向け実施したこと



◆令和2年の結果（参加者に向け実施したこと）

「特に対応していない」が32.2%で最も多い。次いで「安否確認等のため電話や手紙等で連絡を取った」が31.2%、「お弁当等の食糧やマスク等を配布した」が12.0%の順である。

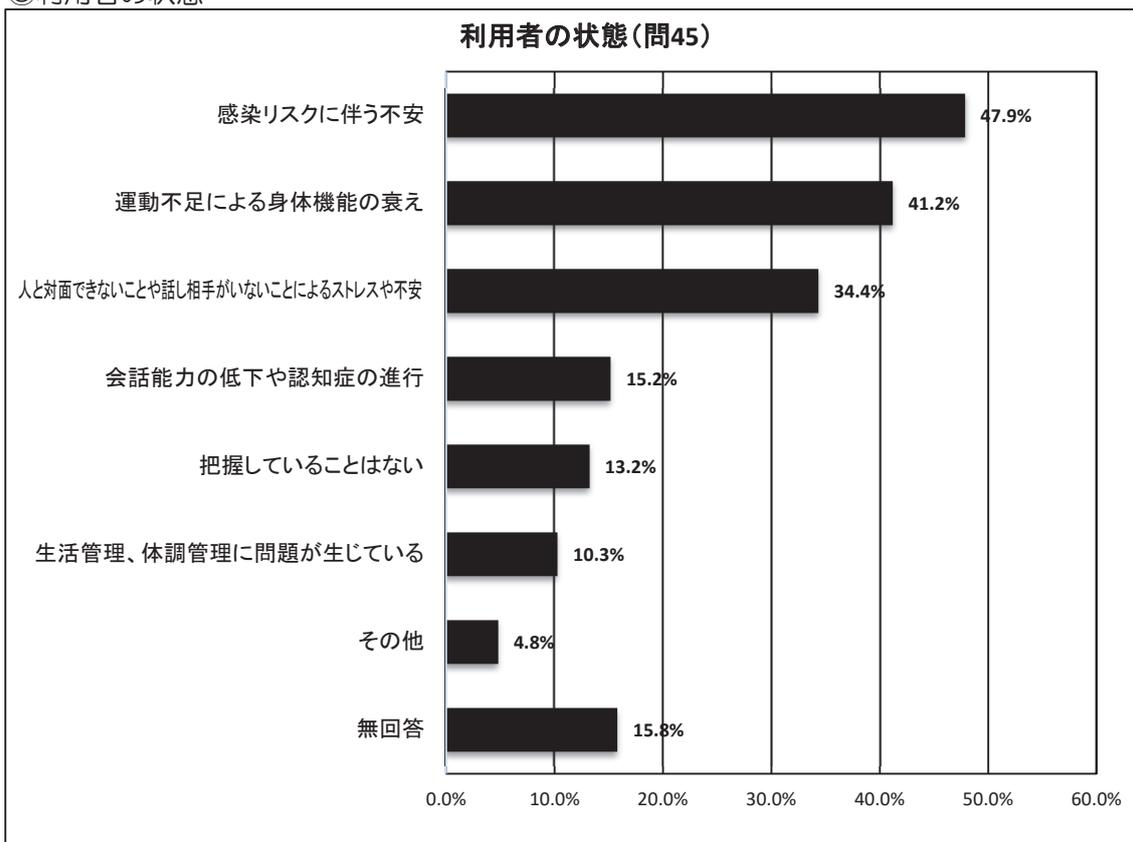
④実施にあたっての課題



◆令和2年の結果（実施にあたっての課題）

「サロンを実施するかどうかの方針」が32.3%で最も多い。次いで「感染予防や衛生対策等のサロンを安全に実施するための方法」が24.3%、「サロンで実施するプログラムを見直し」が10.9%の順である。

⑤利用者の状態



◆令和2年の結果（利用者の状態）

「感染リスクに伴う不安」が47.9%で最も多い。次いで「運動不足による身体機能の衰え」が41.2%、「人と対面できないことや話し相手がないことによるストレスや不安」が34.4%の順である。

4 調査結果の分析と考察からの示唆

ここでは、今後のふれあい・いきいきサロン（以下、「サロン」という）活動を考えるために、本調査の結果を踏まえ「サロン運営についての課題」「住民の困りごと解決」「新型コロナ感染症への対応」の3つの視点から分析、考察を加えていきます。

「サロン運営についての課題」では、平成24年に実施された調査結果と今回の調査との経年比較を交えていきます。経年比較において共通していることは、サロン活動において、より普遍的な課題であるということです。

また、変化していること、運営者等の経験を踏まえた現在の考え方や、新たな気づきからは今後のサロン活動を考えるヒントになるはずです。

「住民の困りごと解決」では、サロンの持つ役割における住民同士のつながりづくりに焦点を当て、その意義とあり方について考えていきます。

さらに、困りごと発見とサロン運営のあり様との関係を明らかにするためクロス集計も実施しました。

「新型コロナ感染症への対応」では、コロナ禍におけるサロン活動の現状と開催に向けた課題と工夫、さらにこの状況での住民同士の活動を「絆」づくりという視点で把握し、サロンの意義について明らかにしていきます。

(1) サロン運営についての課題からの示唆

サロン活動を支える大切な要素である「人材」「財源」「会場」「場づくり」「ネットワーク」の視点で現状と経年比較から見えるサロン活動の課題について考えていきます。

①人材・担い手

多くのサロンで、運営者自身や運営ボランティアの高齢化と後継者がいないことに課題を感じていることがわかりました。

回答した運営代表者の年齢を問う質問（問2¹）において、70歳以上が約8割を占めています。

また、平成24年の調査において、60代の運営代表者が38.8%であったのに対し、令和2年では16.9%です（グラフ1）。また、運営ボランティアの該当年齢に関する質問（問8²）でも同様の傾向が示されています（グラフ2）。

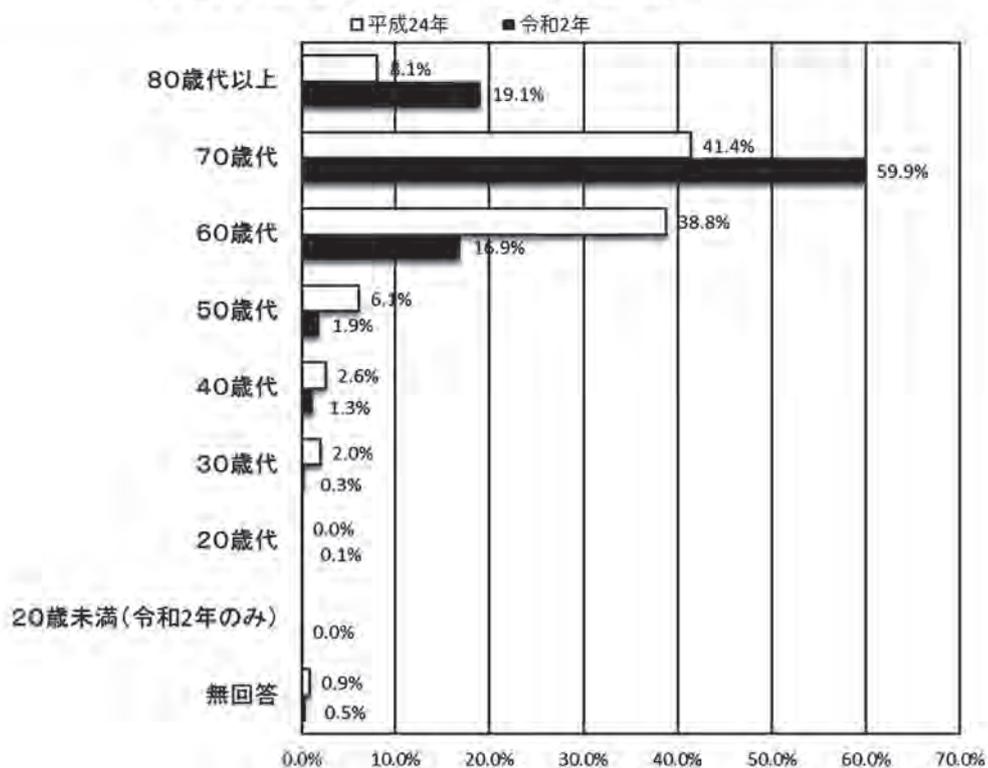
さらに、サロン活動における課題を問う質問（問36³）では、「自分の後継者がいない」が29.0%、「ボランティアなど運営の担い手が不足している」が27.7%となっています。

¹ 質問結果の詳細は本報告書の55頁をご覧ください。

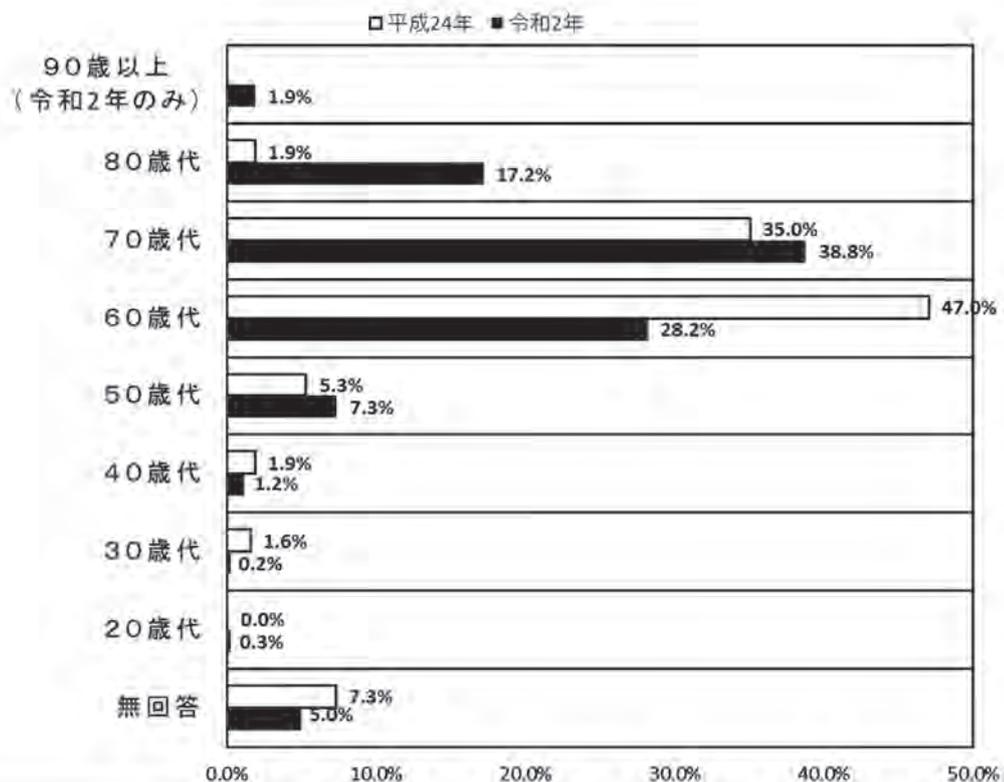
² 質問結果の詳細は本報告書の57頁をご覧ください。

³ 質問結果の詳細は本報告書の72頁をご覧ください。

【グラフ1】運営代表者の年齢(経年比較)



【グラフ2】運営ボランティアの年代(経年比較)



記述式回答においても「人材」に関わる課題について以下のような回答がありました。

人材面での課題に関する記述	
①	自分も含めてボランティアの参加されている方々すでに高齢で体調を崩したりポツリポツリ退会されています。新しくボランティアへの参加をお願いするも、なかなか思うようになりません。
②	企業の定年が伸びていることから、高齢者になっても働いている人が多い。このため、サロン活動のボランティアになる若い(?)世代が見つからない。次の世代へのバトンタッチが大きな課題です。
③	スタッフとして活動する人を地区内で求めるのが難しく、他地区からの応援も必要。
④	リーダーが年間計画を立て、それに合った仲間の特徴を見つけその月その月のリーダーになってもらっている・・・(中略)・・・活動の様子の写真をとってもらったり予約弁当があるときには車で行ってもらったりと仕事を願って参加しやすいようにしています。
⑤	男性の利用者が少ないため出来るだけ夫婦で出席してほしいと声をかけたところ、数人の方が参加していただいております。
⑥	今はボランティアも参加者と同じ仲間として楽しんでいくことにしました。ボランティアと参加者の垣根がなくなったことでお互いの会話が増えているように思います。
⑦	ボランティア自体の改革が必要、無償での協力を得ることは難しくなっているのでは？

運営者やボランティアの高齢化が進み、新たな協力者を必要としている一方(記述①)、企業等の定年が延長されてきていることから、運営者やボランティアにおける世代交代が難しくなっているようです(記述②)。

その中で、よりボランティアと利用者の区別がないサロンへシフトチェンジするところもあるようです(記述④と⑥)。また、運営ボランティア数を問う質問(問6⁴)における経年比較においても、「ボランティアの協力は得ていない(利用者みんなで運営)」を選択しているサロンが約6ポイント増加しています。

そもそもボランティアという形態では、無理があるのではないかという意見も見られます(記述⑦)。

平成24年と令和2年いずれにおいても男性の参加が少ないということで共通しています。サロン活動における課題を問う質問(問36⁵)において、「男性の利用者が少ない」について、いずれの年も高い割合(約5割)で課題であるとなっています。また「参加メンバーが固定化している」(47.9%)、「利用者が少ない」(28.3%)について、いずれの年でも共通した課題になっています。

以上のことからサロン活動における人材面の課題として、運営者やボランティアスタッフの高齢化が進む一方、定年延長など生活環境変化の流れもあり、新たな運営側の人材確保が難しい状況にあるということがわかりました。また、男性が少ないことが課題となっています(記述④⑤)。

⁴ 質問結果の詳細は本報告書の57頁をご覧ください。

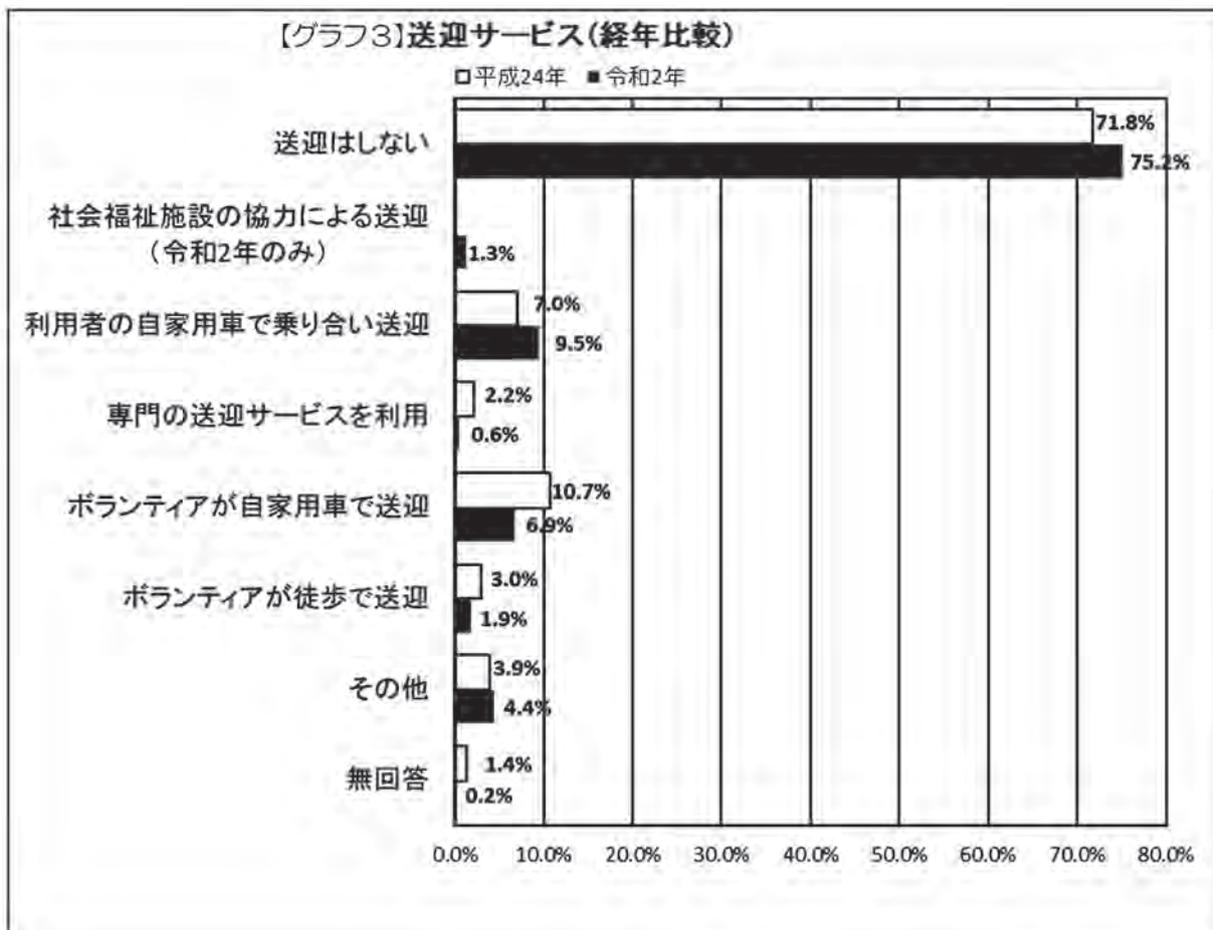
⁵ 質問結果の詳細は本報告書の72頁をご覧ください。

②会場・送迎

サロンの開催会場（問13⁶）は平成24年と令和2年と大きな違いはありません。

「集会所等」が52.8%、次いで「公民館等社会教育施設」が22.2%となっています。

一方、会場への送迎についての質問（問24⁷）では「利用者の自家用車で乗り合い送迎」が2.5ポイント微増しています（グラフ3）。また、サロン活動における課題に関する質問（問36⁸）では「足腰の弱い人や遠方の人のために送迎サービスが必要」が13.3%回答しています。



記述式回答では、会場へのアクセスに関わる具体的な課題について多く見られました。

会場・送迎面での課題に関する記述

- ① ネックは歩いて集まれる適当なところに会場がないということ。
- ② 現役役員が車で送迎していますが事故等が心配。
- ③ こもりがちになるコロナ禍であること、高齢化にむかう地域であることから、これまでの一拠点集客型のサロン活動から出前出張型のサロン活動も良いかと提案いたします。
- ④ 日中一人暮らしの高齢者より週に1、2回集まりたいとの事。高齢者の家族と相談をして自宅に空き家があるため（たまりば）を作り週に2回利用することにしました（80才以上の方が10人位利用しています）。
- ⑤ 気軽にお茶を飲みながら歌ったり笑ったり出来る様な会場が欲しいです。歩いていける場所に空き家が沢山ありますので、町内の区長さんに相談しましたが金銭の件で無理ですと断られました。

⁶ 質問結果の詳細は本報告書の60頁をご覧ください。

⁷ 質問結果の詳細は本報告書の65頁をご覧ください。

⁸ 質問結果の詳細は本報告書の72頁をご覧ください。

⑥	送迎の件、ボランティアが高齢のため、民生委員さんをお願いしておりますが、年々、送迎の方が増えておりますので送迎サービス等が使えるようになれば良いと思っています。
⑦	参加者どうし乗り合わせの方も数名いますが事故の場合を考えると無理という方もいます。もっと安い送迎サービス保険があると良いですね。
⑧	今迄参加していた方が足腰が弱くなり（5人の方）不参加になっている。これからの課題はそういった方への送迎をどうしていくか、です。
⑨	サロン参加に対して車など移動手段がないため、デマンドタクシー利用（待ち時間長い。費用負担あり）。

会場へのアクセス課題について大きく2つ視点で対策について考えられているようです。

一つ目は、今の会場のままアクセス課題（記述⑧）をどう解決するかという視点です。

ボランティアによる車での送迎（記述②⑥）や、その他、デマンドタクシー（記述⑨）、福祉バス（問24⁹における具体的回答）があるようです。しかし、事故リスクや保険料の問題、料金や待ち時間などの利便性について課題があるようです。

二つ目は、それぞれの利用者によって、より身近なところに会場を作ってはどうかという視点です。

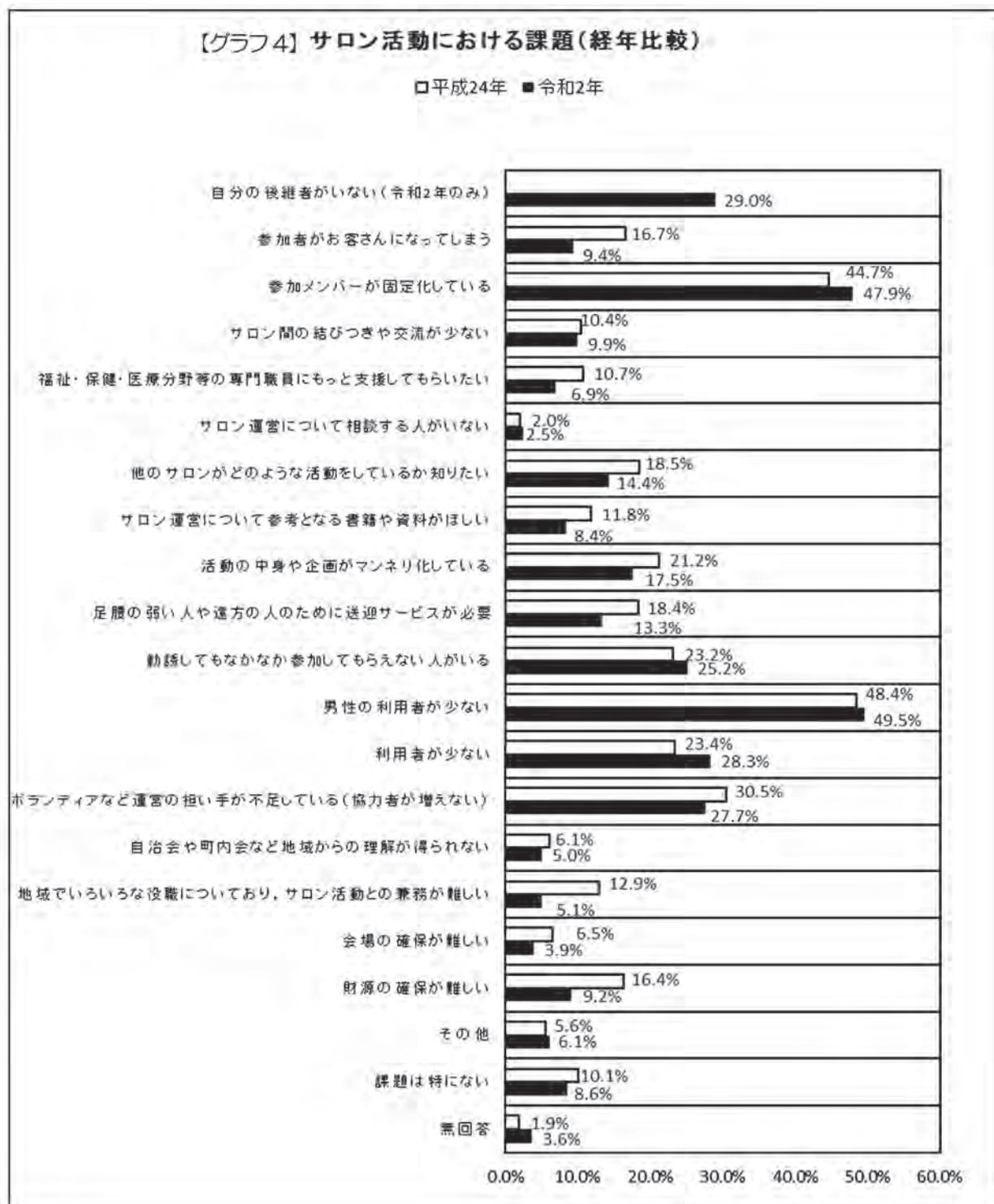
「出張型サロン」（記述③）や「自宅の空き屋」（記述④）「空き家」（記述⑤）をサロンの会場にするということで、さらに身近で多様なニーズに対応できることになるという提案でしょう。

以上のことから、利用者側が高齢化するとともに行動に制約が出てきており、会場までの送迎について課題になっています。一方でより身近で歩いていけるとところにサロンを作るため、出張型サロンや空き家を活用する動きや提案などが出てきていることがわかりました。

⁹ 質問結果の詳細は本報告書の65頁をご覧ください。

③内容・参加

サロン活動における課題として平成24年、令和2年（問36¹⁰）いずれの調査においても「男性の利用者が少ない」「参加メンバーが固定化」「活動がマンネリ化している」について高い割合で課題になっています（グラフ4）。



¹⁰ 質問結果の詳細は本報告書の72頁をご覧ください。

記述式回答においては、男性が少ないという課題に対して様々な意見や取り組みが記されています。

場づくりに関する記述	
①	男性の利用者が少ないという課題に対しては男性が好むゲーム（健康麻雀など）を充実すれば増えると思う。（例）大会を開く、月間又は年間ポイントにより表彰するなど。
②	男性は他の軽スポーツやレクリエーション等に参加し楽しんでいることが多く、ひきこもりに近い人もいるようなので、その人たちを引き出す方法が難しいと思っている。
③	誰でも気軽に参加してもらいたいが、なかなか男性の参加が少ない。まずは女性中心に活動を行い、旦那さんを連れてきてもらう。
④	いきいきサロンには男性の参加がないので男女ともに参加できるスタイルにして「おしゃべりカフェ」を月1回100円でAM8:30からモーニングサービス（食パン、コーヒー、ゆでたまご等）を提案している。
⑤	男性利用者が少ないとの効果的な対応として「茶話会」を開き団地内の情報交換の場としたい旨回覧したところ、17～18名の参加があり、そのうち男の方が10人程度おられました。これからも時々開催しようと思います。
⑥	参加者全員が主催し、全員が御客になる。その為には、一部の人が会の運営を行わず、全員でアイデアを出し合い、全員で協議し、全員で決定し、全員で準備し、開催し全員で楽しみ、全員で喜び、達成感を持てるようにする。
⑦	住民の皆さんからの活動内容等に関する要望・アイデア等随時お聞きして、その活動を実現させるためのお手伝いをしています。具体的には開催場所の確保・用具設備等の準備・参加者集めの広報活動・活動費の援助等を行い、趣味の会・同好会、クラブ等が発足するための援助です。
⑧	簡単な手話の方法や、フリップのような紙切れにアイデアや意見を書いて相手に伝える方法など研修の場があると勉強になります。
⑨	活動内容がマンネリ化してしまうので、社協さんより他のサロンを紹介して頂き、連絡を取り合っただけの他のサロンの活動を見学させて頂きました。そのことにより、ボランティアさんの士気が高まり、活動にまとまりが生まれました。

男性が好むプログラムを考えていけば課題は解消されるはずという考えもみられます。（記述①②

⑤）

新たなサロン活動等を生み出す支援をする地域の組織（サロン）の役割に言及している記述もみられます（記述⑦）。長年培ってきた様々な形の職業経験を地域に生かすための提案として考えられます。

また、男女ともに参加できるかたちについての記述もみられます（記述④）。

活動のマンネリ化を防ぐために、全員でアイデアを出し合う必要があること（記述⑥）、そしてアイデアを出し合い、まとめていく方法について学習するべきという意見（記述⑧）もみられます。他のサロン活動を参考にしながらマンネリ化を防ぎ、メンバーの活性化を図るという記述もみられました（記述⑨）。

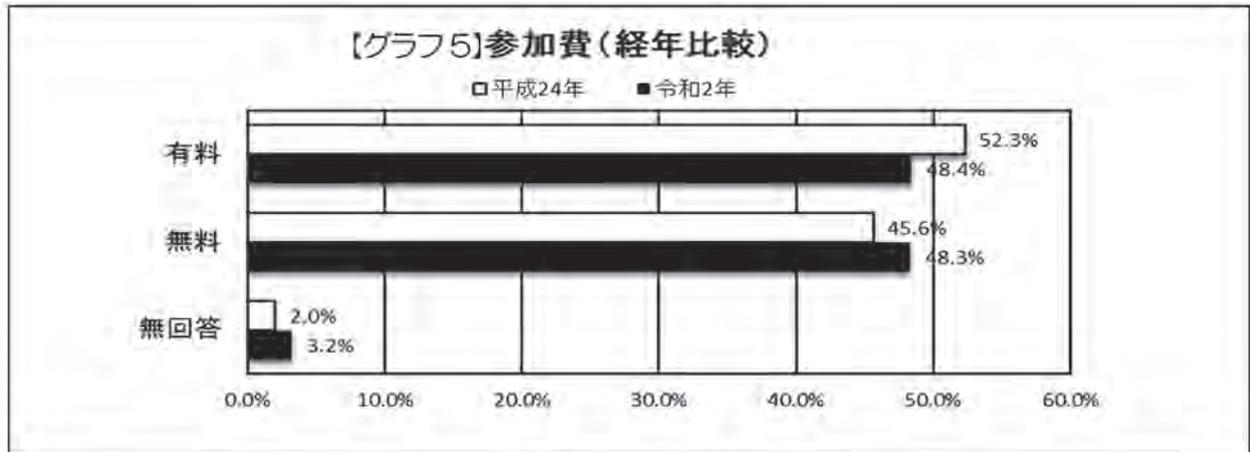
以上、男性参加者が少ないことから、男性が集まりやすい場づくりについて試行錯誤している現状について確認することができました。男性が好むゲームやスポーツをプログラムに盛り込むこと、また日常のなかで性別を超えて多様な人が交流できる場づくりなどが提案されています。また、サロンづくりの支援の場を住民活躍の場として実践、提案しているサロンもあります。さらに、マンネリ化を防ぐため、運営者側として多様な人々の多様な意見をまとめ上げるスキルの必要性についても言及されています。

④費用・財源

サロンの多くは、市町村社会福祉協議会（63.1%）自治会や町内会（20.5%）等からの補助金や助成金によって活動しています（問28¹¹）。

サロン活動における課題（問36¹²）として「財源の確保」を挙げているサロン数は、平成24年（16.4%）から令和2年（9.2%）と減少しています（グラフ4）。

一方、参加費無料のサロンが平成24年より令和2年の方が約3ポイント増加しています（問26¹³）（グラフ5）。



また、普段無料のサロンでも飲食が伴うとき、イベントや行事を行う際には別途参加料を徴収するサロンも一定数あるようです（記述⑦）。

以上のことから、多くのサロンは補助金・助成金の範囲で工夫して実施しているようです。

一方で、記述式の回答では補助金・助成金の使途制限が参加者対象者（記述①）や活動内容（記述②④⑥）を制限してしまっているのではないかと、という意見が見られます。

助成金がスタート年度から一定年度期間に限られてしまうことを課題と考えている記述も見られました（記述⑤）。

資金面での課題に関する記述	
①	予算が社協支部及び自治会補助では会員対象者が限定される。住民全員が対象とならなければ活動の意義が薄れる。
②	ふれあいサロン活動の範囲に規制が多すぎる。グラウンドゴルフ、ハイキング等は対象外とのこと。
③	公民館大ホールでのサロン会ですがテーブルのパーテーション設置の費用が多額なので、特別な補助が望まれる。
④	なにがなんでも飲食で、期間内に精算してくださいとか、もったいないことです。繰越すのも良いのでは。
⑤	助成金について5年で打ち切りですが、その後の運営を社協としての考えを教えてください。
⑥	付器、備品の助成・補助金が一時的金である。高額製品、必要なシステム構築が数年計画への助成が認められない・・・劣化、修理不可能な製品に対応できない、活動者の負担金が多すぎる。
⑦	必要に応じて徴収。

¹¹ 質問結果の詳細は本報告書の67頁をご覧ください。

¹² 質問結果の詳細は本報告書の72頁をご覧ください。

¹³ 質問結果の詳細は本報告書の66頁をご覧ください。

上記記述から、助成金・補助金の使途期限や使途制約があることが活動上の制約につながっていると感じているグループが一定数いることがわかりました。また、普段、参加費が無料でもプログラム内容に応じて参加費を徴収しているグループもあるようです。

⑤ネットワークの在り方

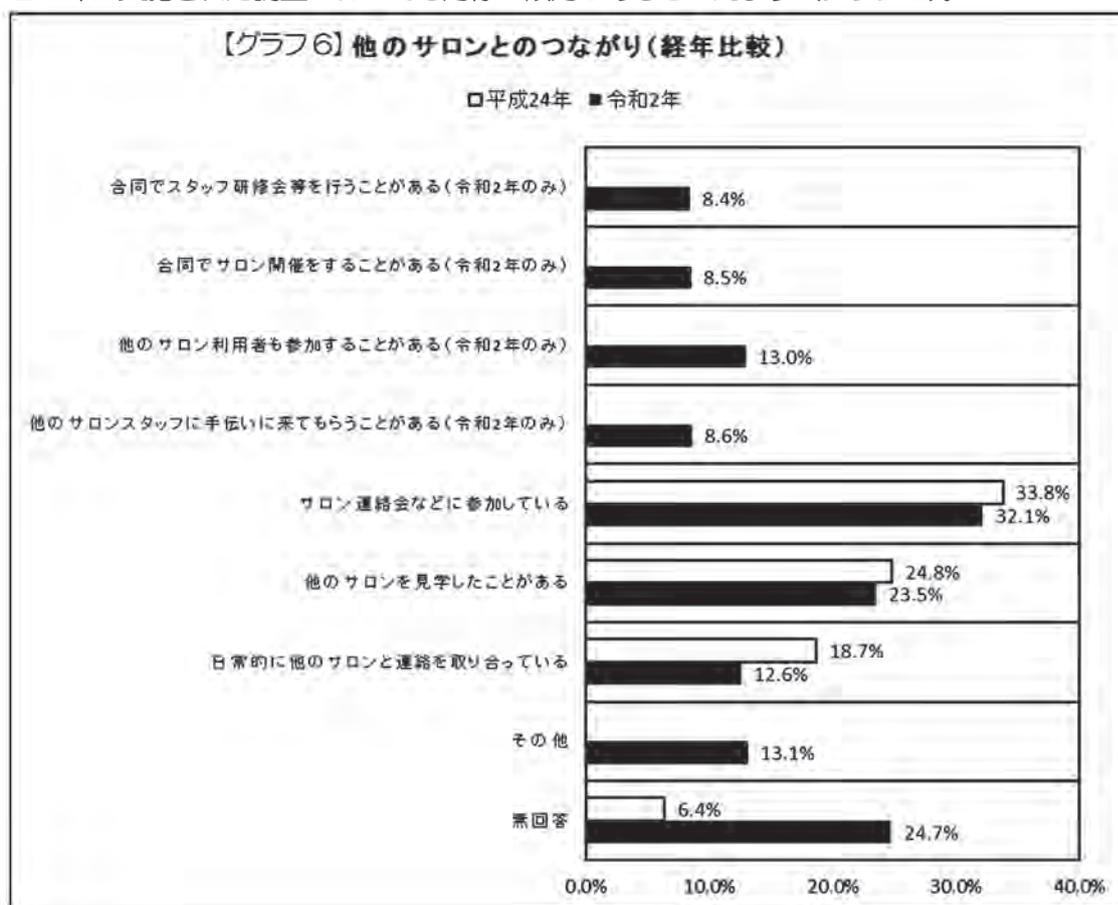
「ネットワーク」は外部とのつながりです。例えば、サロン同士のネットワークを始め、地域社会、社協、行政、その他専門機関・団体とのつながりです。

それは、地元の身近なつながりから、それ以外の他地区、他市町村、それからより広範囲へと渡るものなど様々なものが考えられます。

「ネットワーク」は、日ごろの活動内容や利用者の困りごとへの対応等の活動の幅を広げるため重要な要素になるといえます。

サロン活動における課題に関する質問（問36¹⁴）においては、「他のサロンがどのような活動をしているか知りたい」（14.4%）「サロン間の結びつきや交流が少ない」（9.9%）「福祉・保健・医療分野等の専門職員にもっと支援してもらいたい」（6.9%）「サロン間の結びつきや交流が少ない」（9.9%）「サロン運営について相談できる相手がいない」（2.5%）と回答している団体があります。こちらは平成24年と令和2年いずれの調査においても共通しています（グラフ4）。

「他のサロンとのつながり」を問う質問（問33¹⁵）では、「サロン連絡会などに参加している」（32.1%）「他のサロンを見学したことがある」（23.5%）の順になっています。これは平成24年に実施された調査においても同様の傾向があるといえます（グラフ6）。



¹⁴ 質問結果の詳細は本報告書の72頁をご覧ください。

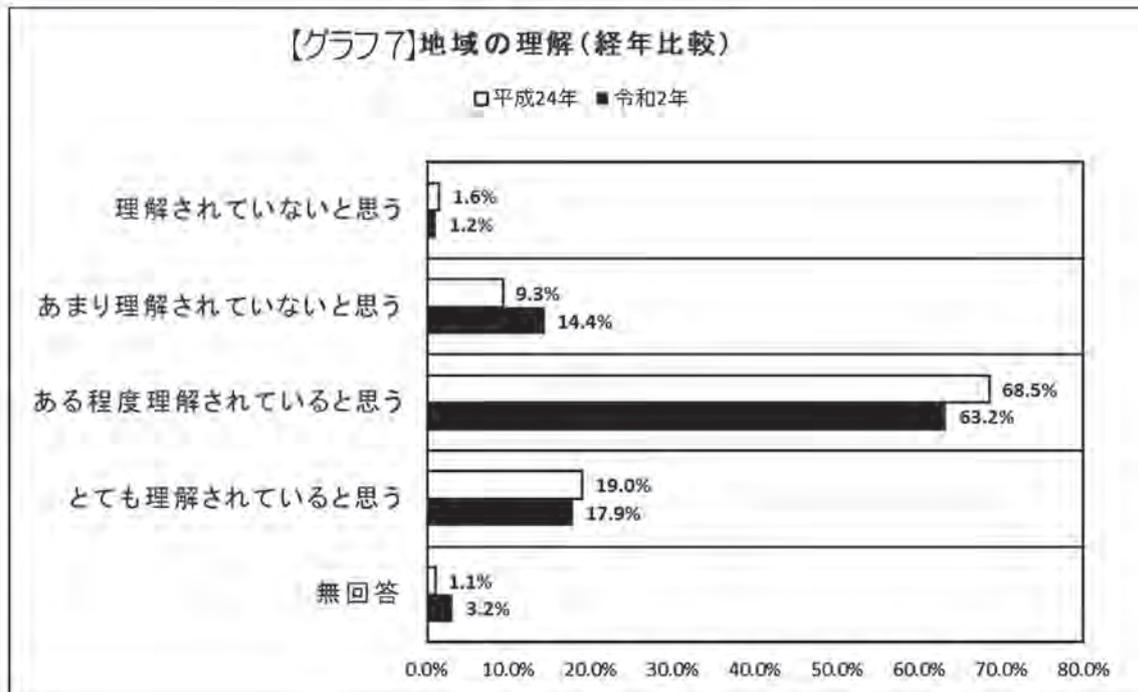
¹⁵ 質問結果の詳細は本報告書の70頁をご覧ください。

さらに、新設した選択肢においても「他のサロン利用者も参加することがある」（13.0%）「他のサロンスタッフに手伝いに来てもらうことがある」（8.6%）「合同でサロン開催をすることがある」（8.5%）「合同でスタッフ研修会等を行うことがある」（8.4%）となっています。このことは、連絡や見学のみならず、人材交流や共同企画等、協働して活動に取り組むサロンが増えていることを示しているといえます。

ネットワークに関する記述	
①	年代を超えた居場所とするためには、地域の老人会、子ども会、区長会（町内会）との連携が必要と痛感しています。
②	サロン活動について行政・社協の方からも区の役員方にもサロンの大切さを周知して取り組むように指導をしていただきたい（後略）。
③	活動休止中のグループ等との意見交換で協力者が増加した。
④	年1～2回町内会と連携して3世代交流会を行う。
⑤	町内会の行事等（文化祭、芸能発表会等）に積極的に参加する。
⑥	団地内の住人に対して生活における正確な情報を発信することで他の方から信頼される、身近なサロンとして認めてもらえるようにしています。また、窓ガラスには地域の方々に向けた応援メッセージのポスターや折り鶴を飾り存在感をアピールしています。
⑦	他町内会の皆さんにも参加するようチラシ等でPRに努めています。
⑧	地域にある特養老人ホームに依頼し100円/1回のマイクロバス送迎の計画を推進中です。
⑨	老人会を活用して、いきいきサロンの会員、会場の確保、行事への参加等、色々な面で手伝ってもらっています。
⑩	スタッフとして活動する人を地区内で求めるのが難しく、他地区からの応援も必要。
⑪	地区の高齢化がすすみ、会員が増えないため隣地区に声かけをして仲間づくりをすすめたいと考えている。
⑫	サロン実施中の旗があると来た方の確認になるし、サロンの認知度も高くなり利用者増につながると思う。是非設置してほしい。

身近な地域社会とつながりに関する記述が多くみられました。地域の理解について問う質問では（問22¹⁶）では「あまり理解されていないと思う」は14.4%となっています。これは平成24年と比較して5.1ポイント増加しています（グラフ7）。

¹⁶ 質問結果の詳細は本報告書の64頁をご覧ください。



これらのことから、地域からの理解は得ていないと感じているサロンが一定数存在しており、まだまだ身近なグループや団体との連携を強めていく必要があるということでしょう。「地域の老人会、子ども会、区長会（町内会）」とのつながりのなかで多様な人の関りを生み出す必要があるということとともに（記述①④⑤⑨）、そのため「正確な情報を発信することで信頼される、身近なサロンとして認めてもらう」（記述⑥）こと「区の役員方にもサロンの大切さを周知する」（記述②）「サロン実施中の旗を立ててはどうか」（記述⑫）という記述がみられます。

また、利用者やスタッフ確保等のため他地区とのつながりについての記述もみられます（記述⑦⑧⑩⑪）。

以上のことから、他のサロン等々とのつながりを求めながら、その機会がまだまだ少ないと感じているグループが少なくないといえます。また、身近な地域とのつながりについても同様であることがわかりました。

他サロンとの連携については、人材交流や企画交流など協働して活動に取り組むサロンが出てきたことがわかりました。

(2) 住民の困りごとの解決に向けた示唆

サロン活動を通じた効果の質問(問34¹⁷)に対して、「地域で孤立しそうな人々の閉じこもりや孤立防止になる」(46. 3%)「利用者の安否がわかる」(25. 8%)「災害時や緊急時の助け合いにつながる」(8. 1%)「新たな地域(福祉)活動の創設につながる」(5. 5%)となっています。このようにサロン活動は住民の様々な困りごとにも対応しているようです。サロンを通じた利用者の困りごとの発見の有無についての質問(問38¹⁸)では、約3割が「発見したことがある」と回答しています。また困りごとを発見時の対応に関する質問(問39¹⁹)では「地域の自治会・町内会長や民生・児童委員等に相談してみる」(27. 5%)「行政機関に相談してみる」(21. 9%)「専門機関に相談してみる」(12. 0%)「他のボランティアや利用者に相談してみる」(10. 1%)となっています。

さらに、対応に関わる記述式の質問(問40²⁰)では、様々な具体例が挙げられていました。それらを踏まえ、対応するにあたってのその役割は以下のようにまとめてみました。

①「気づく」が機能する役割の重要性

気づくに関する記述	
①	ご主人を亡くされてから心身ともに元気がなく、サロンへの足も遠のき、家にこもりがちになった。
②	不用品、貴金属の買取りの電話や訪問が地域で頻発することを知り・・・(後略)。
③	自分の履いて来たものが見つからず(判らず)、認知症かもと考え地域包括支援センター職員と連絡を密にして・・・(後略)。
④	サロン参加者の独居高齢者が、体力が弱り、身なりもかまわなくなってきたため・・・。
⑤	コロナウイルスに対する不安もありますが、私のサロンはシルリハ体操を主とし、また、血圧測定等も実施しております。元看護師が開催日に休んだ参加者さんに電話をかけ安否確認も行うので、ひとり暮らしの高齢者の方には喜ばれております。

利用者がサロンに来なくなったこと(記述①⑤)をきっかけとして、または利用者のサロンでの様子の変化(記述③④⑤)、さらに利用者から直接相談されることによって(記述②⑥)困りごとに気付くことが記されています。困りごとの内容は身体的な病気、認知症、犯罪被害、人間関係等々です。

②「共有」が機能する役割の重要性

共有するに関する記述	
①	健康面の関心が高く、サロンの中で会員が自由に話し合える・・・(後略)。
②	友人関係の困りごとでしたので後日個別に電話をして状況を把握し、聞き役に徹したら本人も納得したので誰かに聞いてもらいたかったようだ。
③	サロンに集まっている人たちの知恵でいろいろなアドバイスをして支えている。
④	一人くらしの会員が認知症を発症し、日中一人で散歩に出かけると自宅に戻れなくなる事例が発生・・・(中略)・・・会員の皆様が声掛けをしてくれるようになり行方不明になる心配が解消した。
⑤	連れ合いの介護に感じているストレスがサロンに参加することで発散できる。

¹⁷ 質問結果の詳細は本報告書の70頁をご覧ください。

¹⁸ 質問結果の詳細は本報告書の74頁をご覧ください。

¹⁹ 質問結果の詳細は本報告書の74頁をご覧ください。

²⁰ 質問結果の詳細は本報告書の74頁をご覧ください。

⑥	町内の女性たちが仲良くなって自分の住んでいる近くにこんな人がいる。こんなことで困っていると話しやすい場所にしたいそれをみんなで共有し、解決の方法を考える。
⑦	社協を通し専門職の方に訪問していただく（プライバシーのため体操指導士は直接対応しないこともあり）。
⑧	守秘義務を前提に交流できるよう活動しているが、参加者の一部で深入りしすぎてサロン参加もしなくなってしまう方が1名あり、ショックを受ける。

困りごとに気づき、それをかかえている当事者と運営者、サロンスタッフ、サロン利用者と共有することに関する記述です。興味・関心があったり不安に思っていることを自由に話し合い（記述①）ちょっとしたグチとしてサロン仲間に話を聞いてもらうことによって気持ちが晴れることもあるようです（記述⑤）。また、深い困りごとであっても運営者やスタッフによって丁寧に気持ちを聞いてもらうことでつらさが軽減することもあるようです（記述②）。さらに、サロンに関わる全員が当事者を「気に掛ける」ことによって困りごとへの予防的役割を果たしています（記述④）。

一方で、困りごとに係わっていくことの繊細な面に言及されている記述もありました（記述⑧）。

③「助け合う」が機能する役割の重要性

助け合うに関する記述	
①	サロンの日を忘れてしまうことがあり、他の会員が前日及び当日に電話してくれている。
②	一人暮らしで病気になった場合、連絡し合い交替で声掛け訪問をした。
③	仲間うちで知恵を出し合う。
④	見守り中心にボランティアさんと声掛けを中心に話しを聞き、孤立しない様に心掛けています。
⑤	買い物の手伝い。
⑥	手がしびれるとの事で細かい手芸の作業が困難ですが廻りの人たちが手伝いしながら本人も一生懸命頑張って仕上がったときの笑顔はとても嬉しそうです。

気づく、気持ちを受け止めるところから困りごと解決に向けて実際に何らかの行動に移している記述です。忘れやすいことの電話確認（記述①）、気がかりな方への声かけ、訪問（記述②④）、知恵やアイデアを出しあう（記述③）、お手伝い（記述⑤⑥）等、サロンを通じた助け合いの形も様々であることがわかりました。

④「つなぐ」が機能する役割の重要性

つなぐに関する記述	
①	市の見守りサービスでヤクルトが弁当の配達を受けられることを知り、弁当の配達を受けることにした。
②	一人暮らしの方への網戸張替え、木の剪定等してくれるボランティアさんを紹介しました。
③	開催時には町内の区長さんや役員の方にも声掛けし、参加していただいている（後略）。
④	サロンでの様子や本人及び他利用者から聞いた情報を、社協職員と包括支援センターの職員で共有している。
⑤	ご家族に認知症では？という方のお話から、市に認知症サポーター講座を依頼し、全員で講座を受け、個人的に相談という話へ。

- ⑥ 社福へとパイプをつなぎました。その結果、時々経過報告を受け、本人は落ち着いてきたとのことホッとしています。対応については、情報の確認など常にアンテナを高くして置くことも一つの方法かと思っています。

困りごとの解決に向けてグループの外部の人たちや、組織、専門機関の協力が得られる場合、またはその必要がある場合はつなぐこととなります。ボランティア（記述②）、地域のキーパーソン（記述③）、民間事業者（記述①）、社会福祉協議会や地域包括支援センター（記述④⑥）などの事例を確認することができました。つなぐ際にも、どこにどのような組織、専門機関、または専門職がいるかを理解している必要があるため、その場合においてもサロンメンバーがお互いの知っている情報を出し合うこと、それから日頃からアンテナ、ネットワークを張っておくことが重要になっているようです（記述⑥）。

⑤サロンの役割まとめ

住民の困りごと解決に向けたサロンの役割



住民の困りごと解決に向けたサロンの役割についてみてきました。サロンを開催することはもちろんその結果として生まれる運営者側、利用者同士の関係性に意義があるといえるでしょう。

上の図に沿って「住民の困りごと解決に向けたサロンの役割」について改めて説明します。

様々なサロン活動を通して、運営者側と参加者の皆さんは活動自体を楽しむとともに関係性を醸成していくことになります。

その具体的な関係性の在り方は以下ようになります。

「気づく」

サロンで顔見知りになれば、「来なくなった」という異変はもちろんいつもと「様子が違う」「落ち込んでいる」「元気がない」様子によって困りごとに気づきやすくなるでしょう。

「共有する」

困りごとを抱えていたり、悩みを持っていたり、気持ちが沈んでしまっている時に、誰かと楽し

い会話をしたり、体操等をすることによって少し気持ちが軽くなる時があるでしょう。これは具体的な困りごとや悩みに関わるかどうか別にしても、「自分一人ではない」と感じられるようになるからです。周囲が困りごとや悩みについて理解し、お互い気にかけてあう関係が生まれる場合もあります。また、プライベートに深く関わるような困りごと、悩みごとであっても、信頼できる人に打ち明けることによって重たい気持ちが軽減することもあるかもしれません。

いずれの場合でも、「一人ではない」と思えるようになる、悩みや課題を「共有し合える」ことを可能にするのもサロンで役割であると考えられるでしょう。

「助け合う」

見知らぬ関係から、顔見知りの関係になると、そこから助け合える関係につながることも容易になります。複数の人が集まっていることから、何か困りごとを持っている人に対して協力が可能な人が出てくるかもしれませんし、皆で解決に向けたアイデアを出し合うこともあるかもしれません。

「つなぐ」

利用者等が抱えている悩みや、課題が、家族等と共有されていない場合は、家族に知ってもらう必要が出てきます。さらに、より深刻な場合、外部の専門機関や専門家につなぐ必要が出てきます。その際にも、どこにつないだら良いか、どのようにつないだらいいかについて検討していく際にも、利用者との信頼関係、外部機関や専門家との信頼関係のあり様が大きく影響してきます。

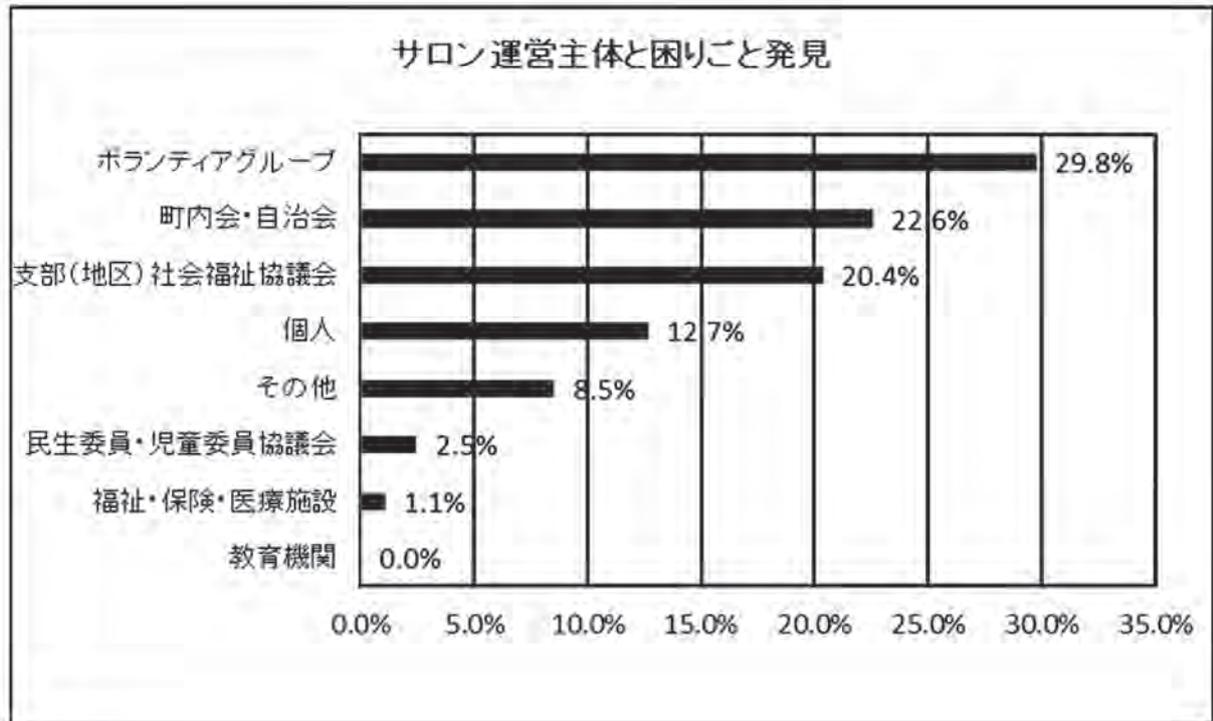
以上のような関係性の基本にあるものは「信頼関係」です。その信頼は、例え強いものでなくても、同じ時間を楽しく、それぞれ快適に過ごすことによって自然に出てくる信頼、つまりお互いが知り合い、理解し合い、共感し合うことです。それがあってこそ、日常において異変に気付くこと、悩みを分かち合うこと、そしてそれぞれが出来る範囲で助け合うこと、さらに必要ならば外部につなぐということが可能になるのかもしれません。

⑥住民の困りごと発見とサロン運営の関係

サロンを通じた利用者の困りごと発見有無に関する質問（問38²¹）で「ある」と回答したサロンは全体の3割程度で多いとはいええないでしょう。しかし、上記で見えてきたように、困りごと発見に向けてサロン活動が果たしうる役割は大きく、今後の地域社会でその重要性もますます大きくなるでしょう。

ここでは、困りごとの発見に結びつきやすいサロン運営の在り方はどのようなものかという視点でクロス集計²²を実施してみました。

⑥-1 サロン運営主体と困りごと発見の関係（問38と問5²³のクロス集計）



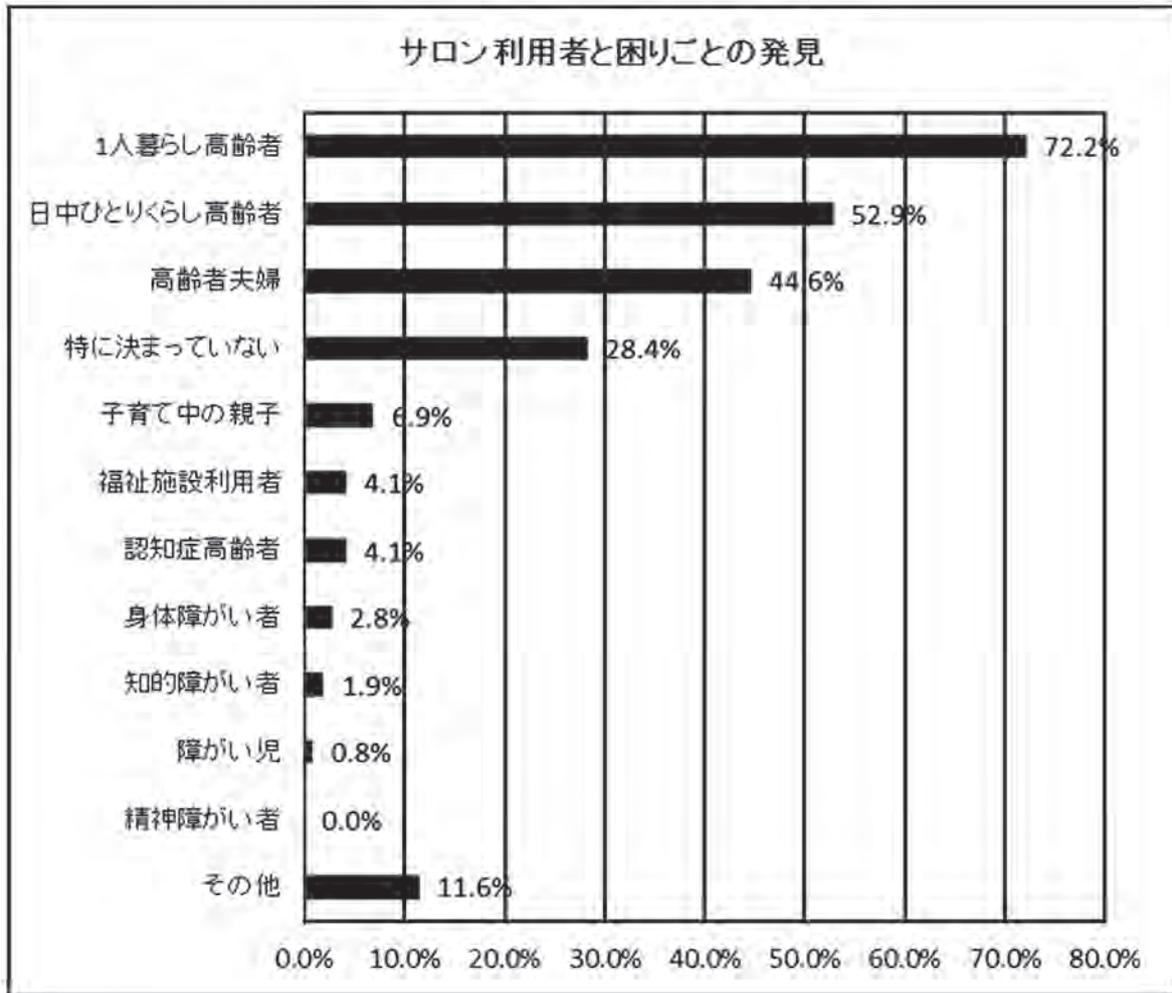
サロンを通じた利用者の困りごと発見の有無に関する質問（問38）で「ある」と答えたサロン運営主体の内訳は「ボランティアグループ」（29.8%）、「町内会・自治会」（22.6%）、「支部（地区）社会福祉協議会」（20.4%）、「個人」（12.7%）の順になっています。

²¹ 質問結果の詳細は本報告書の74頁をご覧ください。

²² 「クロス集計」とは、アンケート調査によって収集した回答データを、設問をかけ合せて集計することをいいます。

²³ 質問結果の詳細は本報告書の56頁をご覧ください。

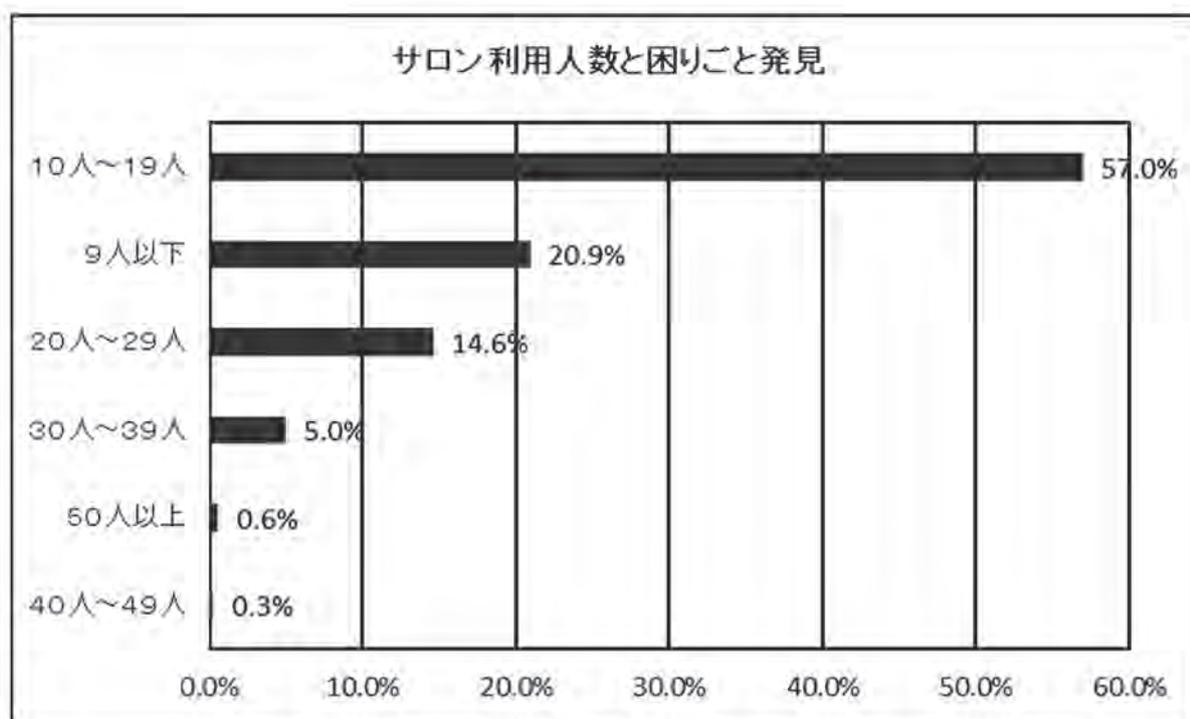
⑥-2 サロン利用者と困りごとの発見の関係（問38と問17²⁴のクロス集計）



サロンを通じた利用者の困りごと発見の有無に関する質問（問38）で「ある」と答えたサロンが対象としている利用者の内訳は「一人暮らし高齢者」（72.2%）、「日中ひとり暮らし高齢者」（52.9%）、「高齢者夫婦」（44.6%）の順になっています。

²⁴ 質問結果の詳細は本報告書の62頁をご覧ください。

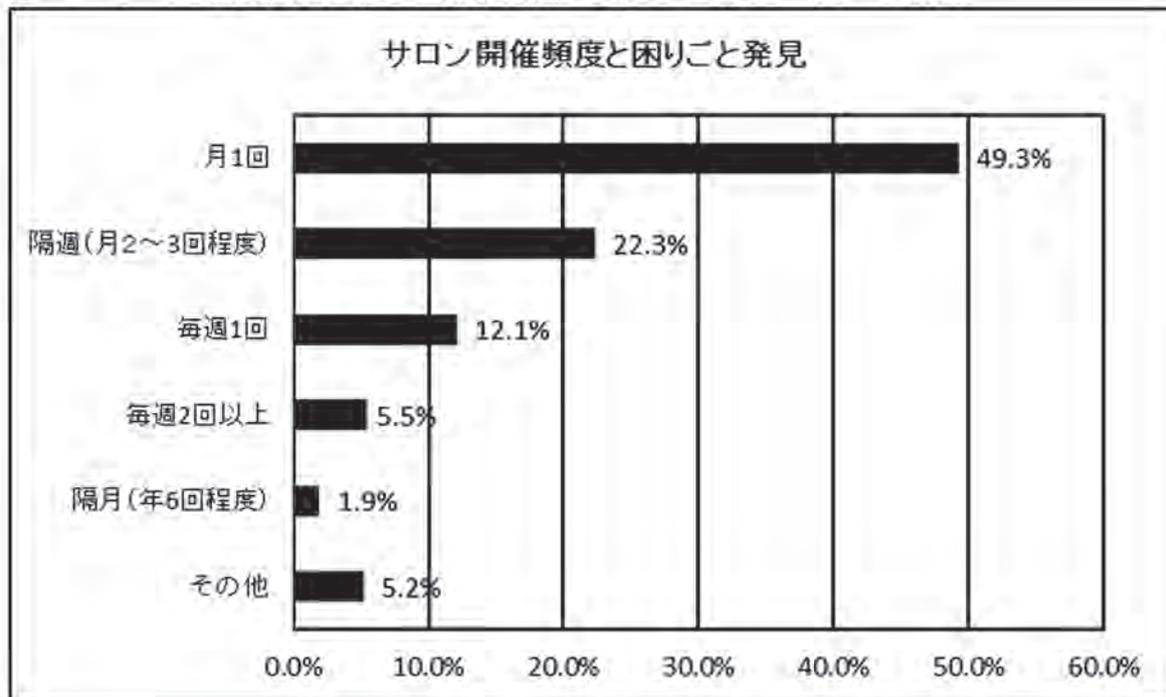
⑥-3 サロン利用人数と困りごと発見の関係（問38と問19²⁵のクロス集計）



サロンを通じた利用者の困りごと発見の有無に関する質問（問38）で「ある」と答えたサロンの利用者人数の内訳は「10人～19人」(57.0%)、「9人以下」(20.9%)、「20人～29人」(14.6%)、「30人～39人」(5.0%)の順になっています。

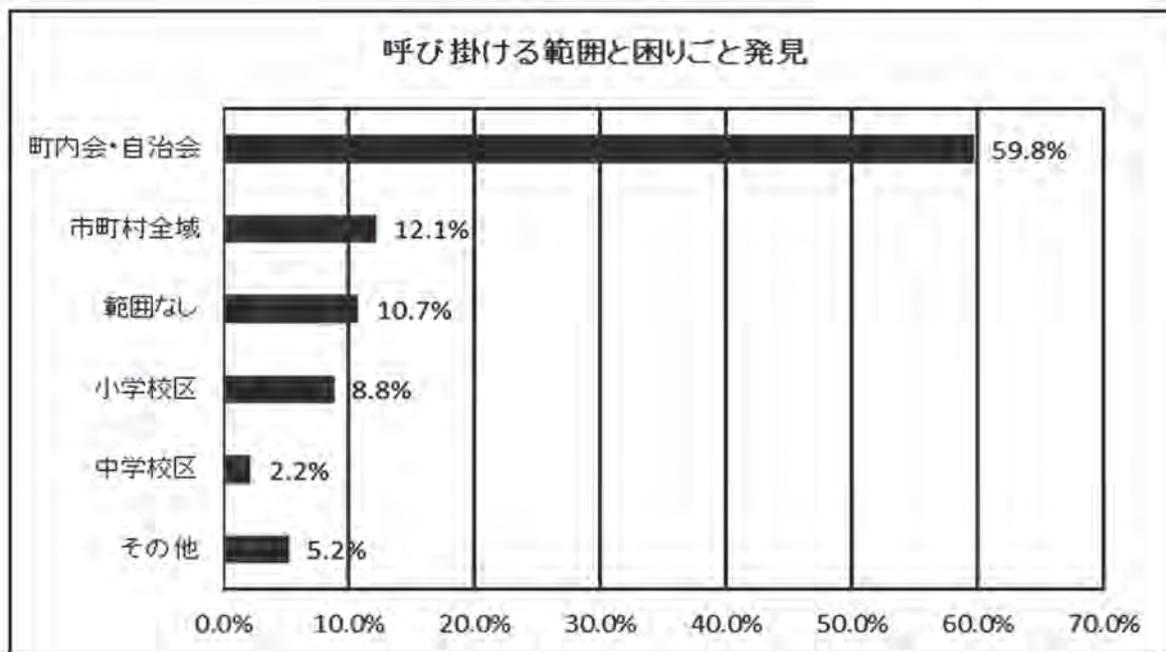
²⁵ 質問結果の詳細は本報告書の62頁をご覧ください。

⑥-4 サロン開催頻度と困りごと発見の関係（問38と問10²⁶のクロス集計）



サロンを通した利用者の困りごと発見の有無に関する質問（問38）で「ある」と答えたサロンの開催頻度の内訳は「月1回」（49.3%）、「隔週（月2～3回程度）」（22.3%）、「毎週1回」（12.1%）、「毎週2回以上」（5.5%）の順になっています。

⑥-5 呼びかける範囲と困りごと発見（問38と問15²⁷のクロス集計）

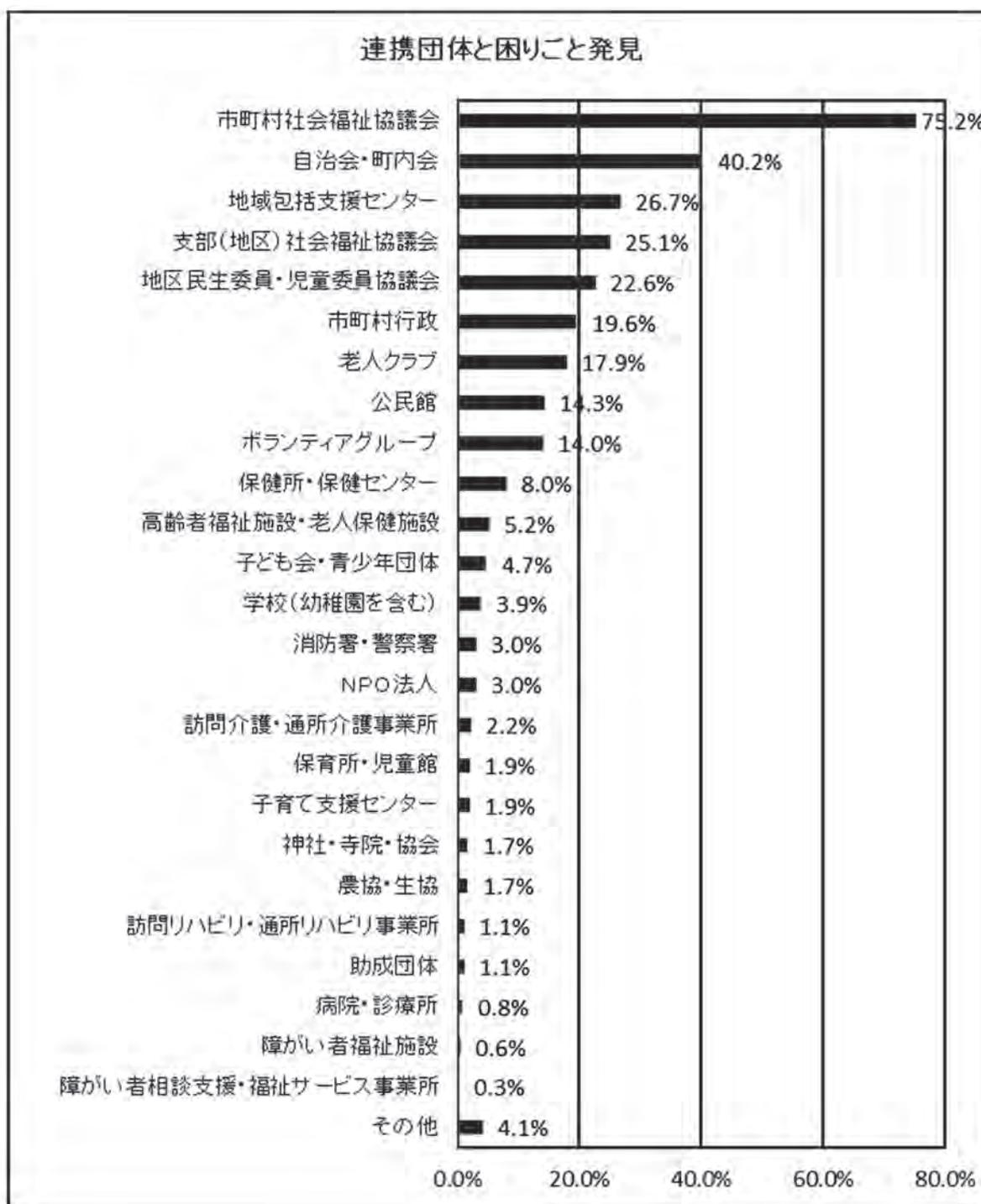


サロンを通した利用者の困りごと発見の有無に関する質問（問38）で「ある」と答えたサロンの呼び掛ける範囲の内訳は「町内会・自治会」（59.8%）、「隔週（市町村全域）」（12.1%）、「範囲なし」（10.7%）、「小学校区」（8.8%）、「中学校区」（2.2%）の順になっています。

²⁶ 質問結果の詳細は本報告書の58頁をご覧ください。

²⁷ 質問結果の詳細は本報告書の61頁をご覧ください。

⑥-6 連携団体と困りごと発見（問38と問32²⁸のクロス集計）



サロンを通じた利用者の困りごと発見の有無に関する質問（問38）で「ある」と答えたサロンの連携団体の内訳は「市町村社会福祉協議会」（75.2%）、「自治会・町内会」（40.2%）、「地域包括支援センター」（26.7%）、「支部（地区）社会福祉協議会」（25.1%）、「地区民生委員・児童委員協議会」（22.6%）の順になっています。

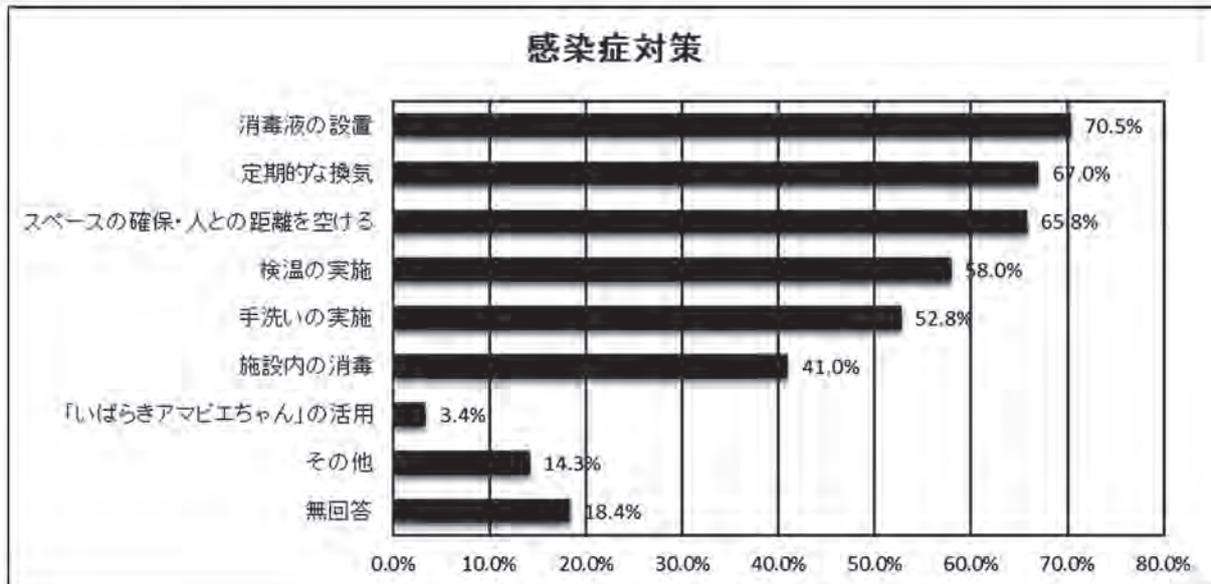
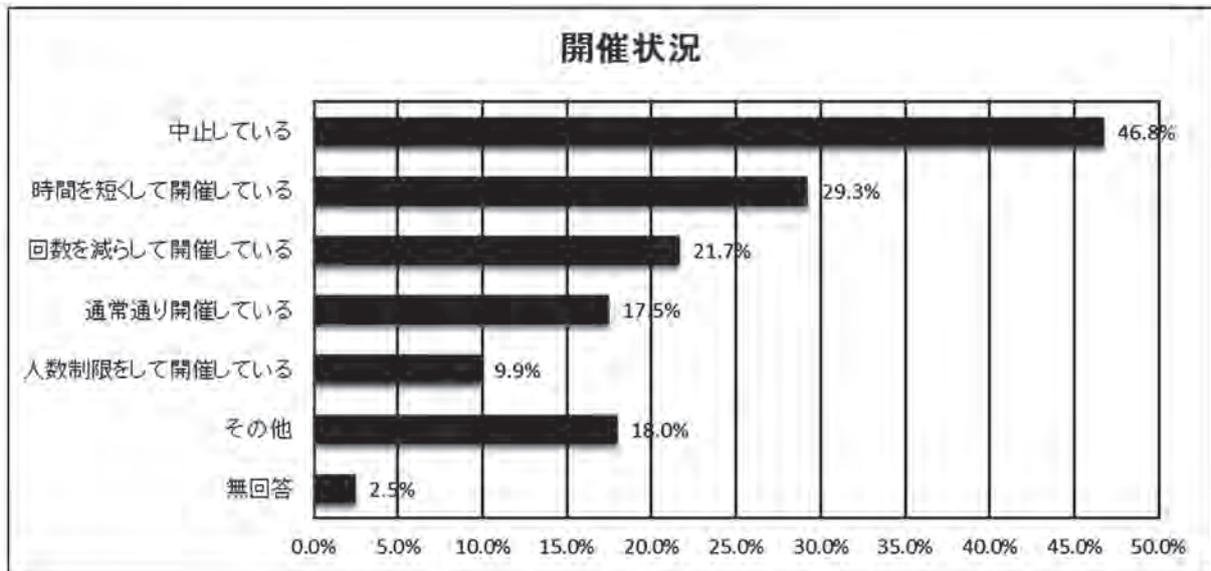
²⁸ 質問結果の詳細は本報告書の69頁をご覧ください。

(3) 新型コロナウイルス感染症への対応からの示唆

①対応策から

サロン開催状況について、46.8%が中止していると回答しています。ただし、他の選択肢と合わせての回答が大半であり、あくまでも緊急事態宣言下での中止であり、それ以外の時期は様々な工夫のもとサロンが実施されたようです。実施方法としては「時間を短くする」(29.3%)、「回数を減らす」(21.7%)、「人数制限」(9.9%)となっています。「通常通り開催」しているサロンは17.5%となっています。

また、サロン開催時の感染症対策では、多くのサロンが「消毒液の設置」(70.5%)、「定期的な換気」(67.0%)、「スペースの確保・人との距離を空ける」(65.8%)、「検温の実施」(58.0%)、「手洗いの実施」(52.8%)、「施設内の消毒」(41.0%)を実施しています。



サロン開催に向けた工夫に関する記述

①	外のテーブルで一方向に座り、工作や手芸等物作りは完成まで色使いや形等頭で考え集中するのでおしゃべりが少なく世界にひとつ自分のものが出来上がるのでおすすめです。
②	親の会を会場とオンラインいずれかを選択できるハイブリッド式で行うことにより、遠方の方でも参加いただけるようになりました。
③	サロンとは別枠で日曜日を除く毎朝（祝日も）公園でラジオ体操をやっている。広い土地の個々が好きな場所で、出入り自由・ルールなし。ここでのあいさつ、おしゃべり、つきあいがゆるいネットワークを作り、コロナ拡大中でも何がしか心の解放区となっていると思われる。
④	現在はコロナ対策のため2部制で実施中（1回20名前後）。
⑤	飲食を伴う行事の中止（例、クリスマス会、新年会、小旅行）。
⑥	皆さんにお茶を用意しますが、サロンの茶わんは都度熱湯消毒とし、専用の器として他には貸しません。安心して飲んでいただいています。
⑦	昼食作り、会食を中止し、お茶（ペットボトル）とお菓子の持ち帰りにした。
⑧	原則、野外での軽スポーツレク中心。
⑨	おしゃべりと体操を主として楽しんでいるサロンですが今は極力おしゃべりをやめ、できるだけ早く帰るようにしています。
⑩	スリッパなども自前で持ってくるよう指導。
⑪	マスク、3密を避ける、手指消毒の徹底、参加時には各自体温をみる。（自宅にて）トイレはなるべく会場を使用しない、使用したときは消毒する。会場設置の様子、テーブル、ドアノブ等の消毒の徹底をスタッフ一同で行う。（前後に行う）利用者には速やかに終了時は帰ってもらう。2m隔てての椅子の配置、雑談時間を短く、担当係で用意をしてくれている加湿器利用、窓は時間中空けてある。
⑫	新型コロナウイルスに対し、参加者の危機意識があり、イスの消毒や、プログラムの検討（例：「ボール遊びはやらない方がいい」等）皆が協力して対応している。

記述式回答では、サロン開催に向けたより具体的な工夫が記されています。

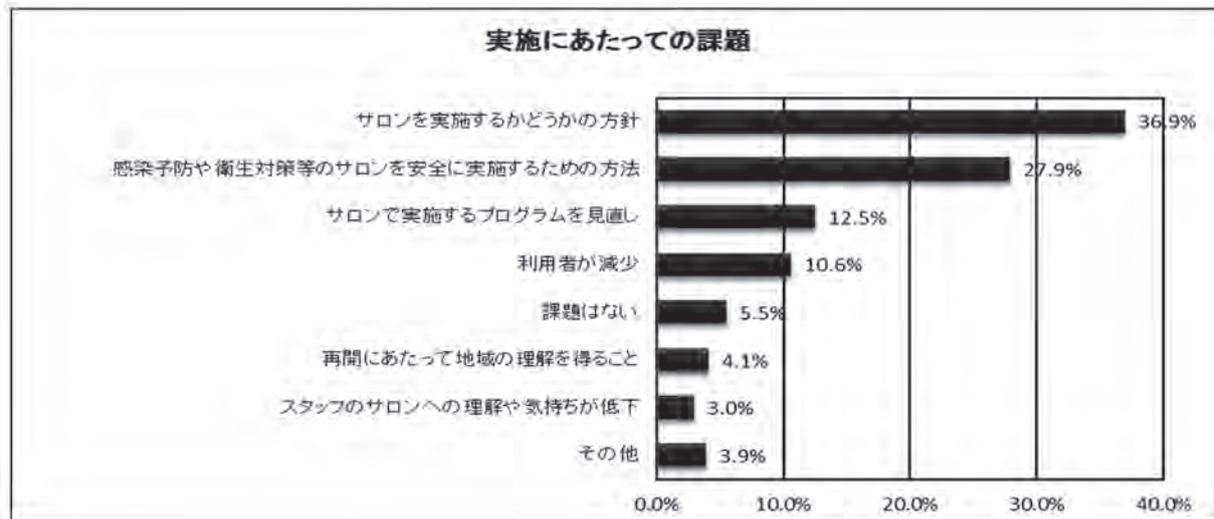
多くのサロンでは感染リスクが高まる飲食を取り止めているようです（記述②⑤）。また、プログラム内容についてもおしゃべり等のダイレクトなコミュニケーションではなく作業を挟むもの（記述①）、ゲームや運動でも個人で行えるものにする（記述⑨⑫）といった工夫がみられます。

野外で行えるプログラムに変更しているサロンも多くあるようです（記述③⑧）。サロンで使用される物品、設備についても感染予防に向けた工夫が行われているようです（記述⑥⑩⑫）。

また、単純にオンラインではなく、会場とオンラインを併用することで参加の形を多様にさせていく取り組みもあります（記述②）。

②課題への対応から

サロンを実施するにあたって課題について「サロンを実施するかどうかの方針」(36.9%)、「感染予防や衛生対策等のサロンを安全に実施するための方法」(27.9%)、「サロンで実施するプログラムを見直し」(12.5%)、「利用者が減少」(10.6%)、「再開にあたって地域の理解を得ること」(4.1%)、「スタッフのサロンへの理解や気持ちが低下」(3.0%)の順になっています。



記述式回答では、実施に向けたより具体的な課題が記されていました。

サロン開催にあたっての課題に関する記述	
①	(オンラインサロン実施に際して) 使い方の説明をするのに個別対応しなければならず、スタッフの交通費やタブレット、スマホ等通信費を捻出するのが大変です。
②	すべての対策は徹底してやっているつもりだが、なかなか耳の聞こえない高齢者とかは、そばで耳元で話したりするので難しい・・・(後略)。
③	感染予防のため、消毒薬、パーテーション等の準備に経費が発生し、会費なしの茶話会では厳しい状況です。パーテーション等は手作りで経費の圧縮を図っています。
④	自宅からコロナが出たときの対応がうまくできないと思います。世間の声がうるさいので。それならサロンをやめた方が良くいと家族とボランティア仲間で思案中です。
⑤	会場が狭いのでディスタンスも取れず、これだけ感染拡大している中で、積極的に誘って活動する気になれない。
⑥	非接触式体温計を購入し、サロン時には検温を実施。
⑦	12月~2月まで休会としました。理由としては会場がせまく、換気をすれば寒くなり、高齢者が多いので感染リスクが大きくなる可能性がある。
⑧	開催するときはご家族の承認を得ています(ダメと言われた方もいます)。上からの指示があいまいなため、我々の判断を悩ませています。
⑨	そもそも、サロンの目的が、日頃一人暮らしだったり、日中独居の方をお誘いしてコミュニケーションを取るのが目的で、三密はダメ、スキンシップはダメ、食事しながらのおしゃべりはダメ、歌ってはダメ、ではサロンにお呼びしても出来ることが見つかりません。ソーシャルディスタンスと言っても、耳の遠い人には話が伝わりません。

感染症拡大下においてサロン開催をするにあたり、その対策のため経費が必要になるという記述が多くみられました。具体的には、消毒薬や非接触型体温計の購入やパーティションの設置経費（記述③⑥）です。

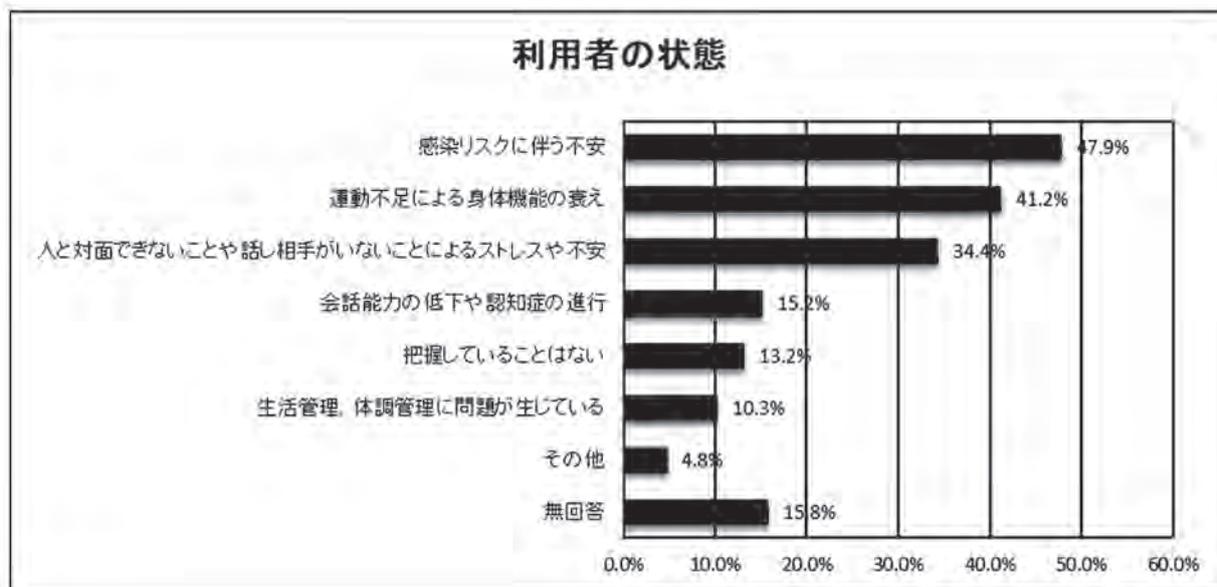
また、現状で実施している団体は少ないものの、オンラインサロン実施に向けてタブレット、スマホ等通信費がかかることと、使い方を説明するといった個別対応するため交通費が必要になるという記述もみられます（記述①）。

ソーシャルディスタンスを取るにしても会場が狭いこと（記述⑤）と、また耳が遠い参加者とのコミュニケーションに難しさを感じている記述（記述②⑩）もみられました。寒い冬場での換気は参加者の体調に悪影響であるという記述もみられました（記述⑦）。

さらに、運営者にとっても、利用者にとってもサロン開催に向けた家族等の理解が大事であるという記述もみられました（記述④⑧）。

③新たな取り組みから

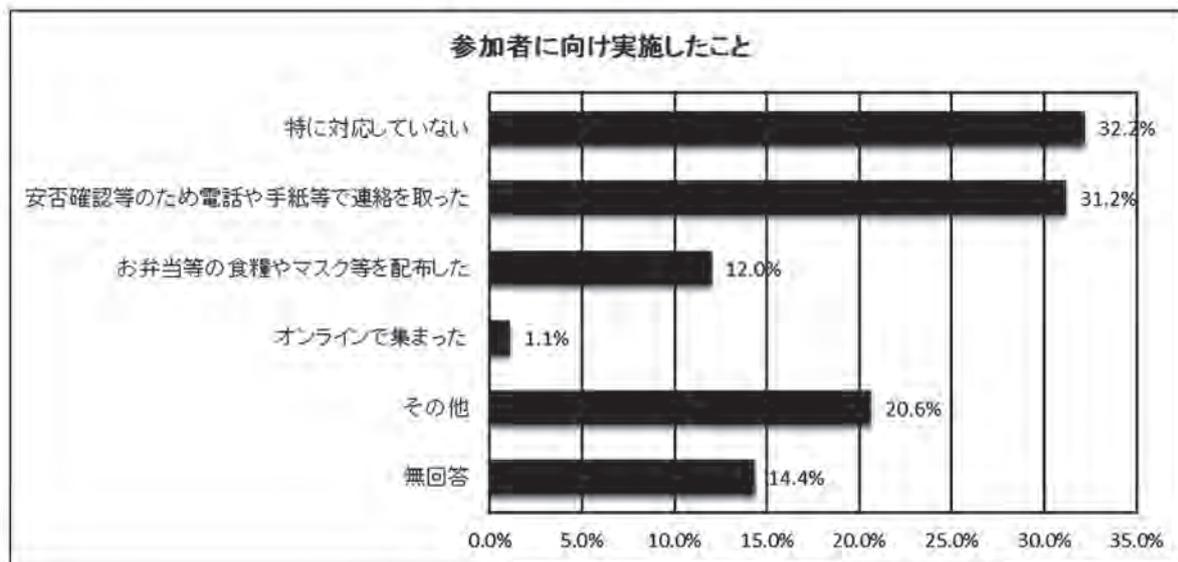
新型コロナ感染症拡大下における利用者の状態として、「感染リスクに伴う不安」（47.9%）、「運動不足による身体機能の衰え」（41.2%）、「人と対面できないことや話し相手がいないことによるストレスや不安」（34.4%）、「会話能力の低下や認知症の進行」（15.2%）の順になっています。



利用者等に関する記述	
①	休んでいると高齢者も私達もモチベーションが下がり再びできるか不安である。
②	サロン発足16年余りが経過して、ボランティア・利用者共に減少傾向に成り、運営上、むずかしく感じるようになって来た現状の時、このコロナの不安が重なり、今後継続出来るのかどうか、日々思案中です。
③	休会の間に足腰が弱くなり、参加できなくなった人が2人いました。ストレスも相当溜まっていました。やはり、話せる場が必要だと感じました。
④	高齢者には月1回の予定でも中止になると活動意欲減少や会えない事への不安でコロナウイルスに対する心配が大きくなるので情報提供等なるべくサロン開催は行いたい。

上記記述からは、新型コロナウイルス感染症拡大をきっかけとして、ボランティアのみならず運営者にとっても、サロンを継続していく難しさを強く感じていることがわかります（記述①②）。

一方、休会の間の利用者の状態からサロンを開催するべきだと思っている運営者の思いも記述に示されていました（記述③④）。



新型コロナ感染症拡大下における運営者としてのつながりづくりの取り組みとして、「安否確認等のため電話や手紙等で連絡を取った」（31.2%）、「お弁当等の食糧やマスク等を配布した」（12.0%）、「オンラインで集まった」（1.1%）の順になっています。

その他、つながりづくりに向けた記述回答も多くみられました。

その他、つながりづくりに向けた記述	
①	月1回位、好物（ちょっとしたもの）を持ってうかがっている。
②	今までと同様にサロンはできていませんが、「会えないけど皆さんとつながっています」を合言葉に、定期的にお便りやプチお菓子を届けています。「決して孤独ではありません。何か困った時には連絡してください！」との気持ちを常に持ちながら、形を変えてサロンにしています。
③	年末役員でクリスマスプレゼントを持って様子を伺った。お互いに顔が合ってホッとした。
④	（ボランティアの気持ちの低下を防ぐため）ボランティア会員は2か月に1回集まって話し合いや研修会を行った。 コロナ対応のマニュアルづくり。認知症サポーター養成講座の開催など。
⑤	孤立しない様にスマホや電話で知人や娘達や孫と話す。ラインは良い。
⑥	サロン主催で、地域の敬老会（茶話会）を例年実施していましたが本年は中止にしました。そのかわり、会員が手作りでティッシュケースを作り、80歳以上の高齢者に届けました。
⑦	サロン休みの間から（令和2年3月～令和2年10月まで）お知らせ版をA4～A3にして健康についての関心が深められるようにしています。また、体のチェックや運動など一目でわかりやすいお知らせ版をつくって回覧しています。
⑧	集会所に集まるのは感染が危惧されるので、テイクアウト事業を利用して半額で購入できるお赤飯を2回安否を兼ねて配りました。
⑨	老人会のふれあい農園で作った野菜を高齢者に配ったり、民生委員による定期巡回で会員との交流を図っています。

- | | |
|---|--|
| ⑩ | <p>①サロン開催月には「誕生祝いの紅白まんじゅう」の配布と「元気の出る手紙」や「おしゃべりサロン」用の茶菓子を袋詰めにし、全会員宅に届けました（役員中心）。その折に「安否確認」や「困った問題」の聞き取りを行っています。</p> <p>②随時、電話による声かけ活動を行っています。</p> |
|---|--|

上記記述から、感染リスクだけでなく、身体面、認知面の衰えの不安は利用者だけでなくサロン運営者側も感じているようです。それら不安がサロンを持続していくための気持ち低下へとつながっている一方、利用者を気遣う気持ちから、つながりを維持していくための様々な取り組みの実施や、サロン再開への意欲を保っていることがわかりました。

5 今後に向けて

以上、本調査結果から「サロン運営についての課題」、「住民の困りごと解決に向けたサロンの役割」、「新型コロナ感染症対応」の視点からサロン活動の現状と課題を把握することから、今後のサロン活動展開に向けて、2つのつながりの必要性・重要性を確認することができたのではないのでしょうか。

「サロン運営についての課題」からは「サロン活動発展のためのつながり」、また「住民の困りごと解決に向けたサロンの役割」「新型コロナ感染症対応」からは「サロン活動を通じたつながり」です。

「サロン活動発展のためのつながり」

「サロン運営についての課題」において、高齢化が進むなかでサロン自体が抱える課題は変わらず、後継者問題、活動のマンネリ化、参加メンバーが固定化する等でした。そのなかでサロン同士、さらには身近な地域団体や関係機関との情報交流のみならず人材交流、企画交流が重要であることがわかりました。

また、誰にとっても、より身近なところで多様な人がそれぞれ気軽に寄れるサロン実現のために、今後は空き家や新たな公的施設の活用は不可欠です。それら空き家や公的施設の利活用を促進するつながりづくりのため、制度面からアプローチしていく必要もあるでしょう。

「サロン活動を通じたつながり」

今回の新型コロナウイルス感染症拡大下で、例え集まることが困難な状態であっても、運営者等のサロン開催のための様々な努力、そしてサロンを開催できないにしても電話や訪問、手紙等でつながりを維持し続けようとする努力は、日常的なサロン活動で生まれたつながりがあったからに他ならないでしょう。サロンを通じた日常的なつながりが、非日常である災害時等で生きてきます。

サロン活動を困難にした新型コロナウイルス感染症拡大下において、日ごろのサロン活動（とそれを通じたつながり）の意義が再確認されたと言えるのではないのでしょうか。

「特定の生活・福祉課題の解決に住民主体で取り組む」ためのつながりが、日ごろのサロン活動を通して生まれてきました。

これら「サロン活動発展のためのつながり」と「サロン活動を通じたつながり」づくりに向けた取り組みのなかで、「誰もが安心して暮らせるコミュニティ」へとつながるのではないのでしょうか。

6 資料編

(1) 集計結果

I 運営代表者ご自身のことについておうかがいします

問 1. あなたの性別は？（1つに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
男性	422	39.1%	37.2%
女性	644	59.6%	61.8%
無回答	14	1.3%	0.9%
計	1,080	100.0%	100.0%

問 2. あなたの年齢は？（1つに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
20歳未満（令和2年のみ）	0	0.0%	
20歳代	1	0.1%	0.0%
30歳代	3	0.3%	2.0%
40歳代	14	1.3%	2.6%
50歳代	21	1.9%	6.1%
60歳代	183	16.9%	38.8%
70歳代	647	59.9%	41.4%
80歳代以上	206	19.1%	8.1%
無回答	5	0.5%	0.9%

n=1,080

問 3. あなたはどのような立場（所属）の方ですか？（最も近いもの2つ以内に○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
民生委員・児童委員（主任児童委員含む）	147	13.6%	19.8%
福祉委員	48	4.4%	3.7%
老人クラブ会員	240	22.2%	21.5%
婦人会会員	34	3.1%	2.5%
自治会・町内会役員	170	15.7%	16.5%
支部（地区）社会福祉協議会役員	93	8.6%	11.4%
ボランティアグループ会員	363	33.6%	32.4%
食生活改善推進員	52	4.8%	4.4%
母子保健推進員	2	0.2%	0.3%
福祉団体役員・NPO法人役職員	18	1.7%	1.4%
児童・青少年関係団体役職員	7	0.6%	0.3%
福祉施設役職員	8	0.7%	0.0%
教育関係者	12	1.1%	0.9%
会社員	6	0.6%	0.9%
その他	293	27.1%	26.2%
無回答	17	1.6%	1.4%

n=1,080

その他の主な具体的回答

ハンドゴルフ会長。主婦。シルバーリハビリ体操士。まちづくり講座修了生。県青少年指導員。商工会議所女性会。更生保護女性会員。団地の住民。酒店主。美容室経営者。音楽関係指導員。障がい者スポーツ指導員。市議会議員。放課後児童指導員。人権擁護委員。心配ごと委員。市の介護サポーター。子育て支援員。介護予防推進員。知的障がい者の保護者。JA女性部。保育士。

問4. あなたがサロンに関わるきっかけはなんですか？

(あなたの気持ちに近いもの2つ以内に○)

項目	回答数	令和2年	平成24年
友人や仲間におすすめられたから	193	17.9%	14.2%
民生委員・児童委員からすすめられてから	37	3.4%	4.7%
民生委員・児童委員として大事な活動だと感じたから	120	11.1%	14.6%
社会福祉協議会の職員からすすめられたから	152	14.1%	16.2%
福祉や地域関係者からすすめられたから	111	10.3%	11.7%
もともとサロンに興味や関心があり、関わってみたかったから	170	15.7%	13.9%
所属している団体やグループでサロンを始めることになったから	207	19.2%	16.5%
地域の高齢者や親子などの仲間づくりに役立ちたいと感じたから	313	29.0%	27.9%
地域の高齢者や親子などの生きがいをづくりに役立ちたいと感じたから	240	22.2%	24.3%
地域のボランティア活動に参加してみたかったから	135	12.5%	11.7%
これまでの職業や社会経験が活かせると感じたから	110	10.2%	6.7%
その他	110	10.2%	12.0%
無回答	8	0.7%	1.4%

n=1,080

その他の主な具体的回答

文化の違いはあるがその考え方を共有させてあげたい。シルバーリハビリ体操普及の一環として。自分自身と地域の高齢者の健康づくり。子どもを自由に精一杯遊ばせたい。多世代交流を地域で作りたい。孤立予防のため。近くにサロンがなかったため。母が今までお世話になったから。市の認知症予防講座への参加から。空き店舗の利用。父が認知症になり安心して出かける場所がなかったから。高校の時にボランティアをしていたので。歌が好きだから。少しでも身体を動かしたい。色々な人たちの居場所づくりがしたかったから。

II サロンの開設状況についておうかがいします

問5. あなたのサロン運営主体は何ですか？(1つに○)

項目	回答数	令和2年	平成24年
ボランティアグループ	253	23.4%	26.5%
民生委員・児童委員協議会	21	1.9%	2.8%
支部(地区)社会福祉協議会	243	22.5%	28.3%
福祉・保健・医療施設	13	1.2%	0.9%
町内会・自治会	264	24.4%	19.5%
教育機関	2	0.2%	0.0%
個人	148	13.7%	9.3%
その他	97	9.0%	9.0%
無回答	39	3.6%	3.6%

n=1,080

その他の主な具体的回答

老人会。高齢者クラブ。第1層協議体。更生保護女性会。NPO法人。団地内住人グループ。女性会。俳句連盟。同年代グループ。健康運動クラブ。市社会福祉協議会。地域包括支援センター。新日本婦人の会。

問6. 運営には何人のボランティアの協力を得ていますか（1つに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
1～4人	324	30.0%	22.7%
5人～9人	250	23.1%	23.4%
10人～14人	135	12.5%	15.1%
15人～19人	66	6.1%	8.7%
20人以上	90	8.3%	13.9%
運営ボランティアはいない（利用者みんな運営）	197	18.2%	12.3%
無回答	18	1.7%	0.0%

n=1,080

問7. 問6の男女の割合はいかがですか？（《 》に0～10の数字を記入）

項目	回答数	令和2年	平成24年
女性のみ	300	27.8%	29.6%
女性（約9割） 男性（約1割）	133	12.3%	13.4%
女性（約8割） 男性（約2割）	146	13.5%	12.8%
女性（約7割） 男性（約3割）	86	8.0%	11.5%
女性（約6割） 男性（約4割）	63	5.8%	7.9%
女性（約5割） 男性（約5割）	67	6.2%	7.6%
女性（約4割） 男性（約6割）	27	2.5%	3.3%
女性（約3割） 男性（約7割）	8	0.7%	1.1%
女性（約2割） 男性（約8割）	8	0.7%	1.2%
女性（約1割） 男性（約9割）	9	0.8%	0.5%
男性のみ	15	1.4%	0.8%
無回答	218	20.2%	10.3%

問8. 運営に協力を得ているボランティアの該当年齢は？（すべてに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
20歳代	6	0.3%	0.0%
30歳代	5	0.2%	1.6%
40歳代	26	1.2%	1.9%
50歳代	164	7.3%	5.3%
60歳代	632	28.2%	47.0%
70歳代	870	38.8%	35.0%
80歳代	386	17.2%	1.9%
90歳以上（令和2年のみ）	42	1.9%	
無回答	112	5.0%	7.3%

n=2,243

※令和2年「80歳代」の選択肢は平成24年では「80歳以上」でした。

問9. サロンはいつ開設しましたか？

項目	回答数	令和2年
昭和	28	2.6%
平成元年～平成10年	40	3.7%
平成11年～平成20年	225	20.8%
平成21年～平成30年	547	50.6%
平成31年（令和元年）～	85	7.9%
無回答	155	14.4%
計	1,080	100.0%

問10. サロンはどのくらいの頻度で開催していますか？（1つに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
毎週2回以上	58	5.4%	4.7%
毎週1回	122	11.3%	10.6%
隔週（月2～3回程度）	276	25.6%	19.0%
月1回	525	48.6%	51.9%
隔月（年6回程度）	25	2.3%	2.2%
その他	45	4.2%	10.7%
無回答	29	2.7%	0.9%

n=1,080

その他の主な具体的回答

ほとんど毎日。月15回ほど。年1～2回。年3回。年4回。年5回。年6回。年7回。年10回。
7：15～朝のラジオ体操を毎日行っています。毎週健康体操開催内1回サロン会。
作物の生長に応じて回数は異なる。

問11. 問10の開催頻度にしたのはどのような理由からですか？

（あてはまるもの2つ以内に○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
利用者の交流にちょうど良い回数だから	622	57.6%	53.4%
利用者が希望しているから	247	22.9%	29.9%
運営するボランティアの負担を考慮して	346	32.0%	38.9%
助成金交付の条件となっているから	64	5.9%	5.3%
会場となる施設が確保できる回数だから	180	16.7%	14.3%
自治会や町内会で決めたことだから	35	3.2%	3.3%
その他	63	5.8%	4.7%
無回答	25	2.3%	1.6%

n=1,080

その他の主な具体的回答

市が決めたこと。会場が有料で財源不足のため。社会福祉協議会が決めた。個人宅が会場であるため。以前の食事会の流れだったから。依頼する講師の都合。準備に時間が必要。

問12. サロンの開催時間はどのくらいですか？（1つに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
午前だけ	528	48.9%	46.7%
1時間以内	0		
2時間以内	427		
3時間以内	88		
4時間以内	13		
4時間以上	0		
午後だけ	126	11.7%	18.5%
1時間以内	0		
2時間以内	85		
3時間以内	31		
4時間以内	5		
4時間以上	5		
午前から午後にかけて	357	33.1%	25.5%
1時間以内	0		
2時間以内	136		
3時間以内	83		
4時間以内	64		
4時間以上	74		
夜（18時以降）	8	0.7%	0.6%
1時間以内	0		
2時間以内	8		
3時間以内	0		
毎回決まっていない	30	2.8%	5.1%
無回答	31	2.9%	3.4%

n=1,080

問13. サロンの開催場所はどちらですか？（1つに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
集会所等（無人の公民館等）	570	52.8%	59.0%
公民館等社会教育施設	240	22.2%	14.2%
福祉・保健の公共施設（福祉センター，保健センター等）	84	7.8%	7.3%
福祉・保健施設（高齢者施設や障がい者施設等）	7	0.6%	0.6%
保育所・子育て支援センター	2	0.2%	1.7%
空き店舗・商業施設	13	1.2%	1.2%
学校の空き教室	10	0.9%	1.2%
神社・お寺・教会	8	0.7%	0.5%
自宅	28	2.6%	1.9%
空き家（令和2年のみ）	9	0.8%	
その他	85	7.9%	11.7%
無回答	24	2.2%	0.6%

n=1,080

その他の主な具体的回答

市役所会議室。コミュニティセンター。市民交流センター。廃校小学校利用。農村集落センター。生協コミュニティルーム。住宅展示場。カスミのフードコート。NPO団体の自前施設。フラワーパークの駐車場。運動場。公園内プール。喫茶店。グラウンドゴルフの施設。地域の縁側。社務所。転作推進センター。民間の厚生施設クラブ。ホロルの湯。

問14. 開催場所の利用料はいくらですか？（1つに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
無料	814	75.4%	83.3%
有料	196	18.1%	14.3%
無回答	70	6.5%	2.3%

n=1,080

【有料の場合】

項目	回答数	令和2年	平成24年
500円未満	55	28.1%	33.3%
500円以上1,000円未満	46	23.5%	38.7%
1,000円以上1,500円未満	50	25.5%	17.2%
1,500円以上2,000円未満	5	2.6%	2.2%
2,000円以上	12	6.1%	8.6%
無回答	28	14.3%	

n=196

問15. サロンの参加を呼びかける地域はどの範囲ですか？（1つに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
町内会・自治会	693	64.2%	62.5%
小学校区	80	7.4%	9.2%
中学校区	19	1.8%	2.0%
市町村全域	131	12.1%	8.9%
範囲なし	84	7.8%	8.4%
その他	55	5.1%	7.8%
無回答	18	1.7%	1.2%

n=1,080

その他の主な具体的回答

気の合った仲間に口コミで誘った。自転車で来られる範囲。店の近くの人。集会所の近くの人。交流センターに行けない人。マンション内。近隣の方。住んでいる集落全体。グループの会員。歩いて行ける人。字内。老人会会員。ホロルの湯利用者のフリー参加。

問16. サロン発足のきっかけはなんですか？（あてはまるもの2つ以内に○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
社協職員から誘われたから	226	20.9%	22.9%
民生委員・児童委員として大事な活動だから	91	8.4%	12.9%
仲間や知人にすすめられたから	121	11.2%	8.3%
町内会・自治会で開催することになったから	119	11.0%	9.0%
老人クラブや婦人会の活動として開催することになったから	107	9.9%	8.6%
行政からすすめられたから	86	8.0%	10.0%
サロンに興味や関心があったから	395	36.6%	13.4%
高齢者などの役に立ちたいと思ったから	64	5.9%	37.9%
ボランティア活動に参加してみたかったから	78	7.2%	4.4%
これまでの職業や経験が活かせると思ったから	280	25.9%	5.1%
一緒に活動してくれる仲間や友人がいるから	105	9.7%	23.1%
その他	105	9.7%	13.7%
無回答	17	1.6%	2.2%

n=1,080

その他の主な具体的回答

牛久かっぱつ体操の普及員として。サロン会場にいい空き家をもっている親しい人がいたから。シルバーリハビリ体操の指導員として。訪問型ボランティア団体から地域サロンへ移行。ボケ防止。ボランティアサークル内でサロンを行いたいという機運が高まったため。老人会の設立に代えてサロンとした。NPO団体のミッションに合わせて開催。障がいのある当事者。家族、地域の人との交流を目的として。保健センターの事業として。学校改築に伴いコミュニティスペースが出来たため。大好き茨城県民会議から助成金を交付された。在宅支援センター主体から地域住民主体に変更。ホロルの湯施設からの依頼。

Ⅲ サロンの利用者についておうかがいします

問17. サロンの利用者はどのような方がいらっしゃいますか？

(利用の多い対象者3つ以内に○)

項目	回答数	令和2年	平成24年
一人暮らし高齢者	733	67.9%	56.2%
日中一人暮らし高齢者	552	51.1%	43.8%
高齢者夫婦	504	46.7%	48.1%
認知症高齢者	29	2.7%	0.8%
子育て中の親子	53	4.9%	9.7%
障がい児	5	0.5%	0.6%
身体障がい者	25	2.3%	1.7%
知的障がい者	8	0.7%	0.9%
精神障がい者	2	0.2%	0.0%
福祉施設利用者	35	3.2%	1.7%
特に決まっていない	377	34.9%	39.6%
その他	102	9.4%	15.3%
無回答	8	0.7%	0.8%

n=1,080

その他の主な具体的回答

会場まで自力で来られる方。農家で高齢の方。障がい者の親。障がい者を介護している人。すべての子ども。自治会会員ならどなたでも。読書が好きな人。地域で生活している方。機能回復訓練を必要とする者。行事により対象者を決める。がん患者とその家族。ホールの湯への来客。

問18. 利用者の年齢層は何歳ですか？(子育てサロンは子どもの年齢) (すべてに○)

項目	回答数	令和2年	平成24年
3歳以下	41	1.4%	6.7%
4歳～5歳	32	1.1%	0.9%
6歳～9歳	36	1.2%	0.3%
10歳～19歳	31	1.0%	0.6%
20歳～29歳	11	0.4%	0.0%
30歳～39歳	29	1.0%	0.2%
40歳～49歳	37	1.2%	0.6%
50歳～59歳	94	3.1%	0.6%
60歳～69歳	586	19.3%	17.3%
70歳～79歳	982	32.4%	57.8%
80歳～89歳	881	29.0%	12.9%
90歳以上(令和2年のみ)	257	8.5%	
無回答	17	0.6%	2.0%

n=3,034

問19. 利用者の平均人数は何人ですか？(1つに○)

項目	回答数	令和2年	平成24年
9人以下	212	19.6%	12%
10人～19人	617	57.1%	50%
20人～29人以上	172	15.9%	23%
30人～39人	40	3.7%	8%
40人～49人	18	1.7%	2%
50人以上	8	0.7%	2%
無回答	13	1.2%	1%

n=1,080

問20. 問19の性別割合はいかがですか？（《 》に0～10の数字を記入）

項目	回答数	令和2年	平成24年
女性のみ	301	28.2%	24.3%
女性（約9割） 男性（約1割）	191	17.9%	17.9%
女性（約8割） 男性（約2割）	190	17.8%	16.0%
女性（約7割） 男性（約3割）	128	12.0%	14.8%
女性（約6割） 男性（約4割）	91	8.5%	7.9%
女性（約5割） 男性（約5割）	58	5.4%	5.1%
女性（約4割） 男性（約6割）	26	2.4%	2.3%
男性のみ	12	1.1%	0.2%
無回答	70	6.6%	11.4%

n=1,067

問21. サロンの日課やプログラムはどのような内容ですか？（あてはまるものすべてに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
おしゃべり	773	71.6%	79.9%
軽食（お茶やお菓子など）	566	52.4%	52.6%
食事（昼食）	379	35.1%	45.8%
健康体操	653	60.5%	68.2%
健康チェック（血圧測定など）	168	15.6%	33.5%
スポーツ（卓球など）	155	14.4%	12.9%
歌・カラオケ	365	33.8%	41.4%
レクリエーション	308	28.5%	30.5%
ゲーム（トランプなど）	246	22.8%	27.6%
健康麻雀	45	4.2%	4.0%
趣味活動	119	11.0%	17.3%
映画・音楽鑑賞	77	7.1%	7.8%
おもちゃ遊び	52	4.8%	9.3%
料理	145	13.4%	14.3%
手芸	202	18.7%	21.0%
ゲスト講話	312	28.9%	28.7%
季節の行事	244	22.6%	30.2%
小旅行	232	21.5%	26.6%
散歩	57	5.3%	7.0%
学習・勉強	93	8.6%	10.6%
ボランティア活動	86	8.0%	10.3%
世代間交流	81	7.5%	13.2%
シルバーリハビリ体操（令和2年のみ）	543	50.3%	
その他	152	14.1%	15.1%
無回答	10	0.9%	0.6%

n=1,080

その他の主な具体的回答

牛久かっばつ体操。筋トレ。脳トレ。バンド。ミュージックケア。スカットボール。誕生会。園芸。野菜づくり。笑いヨガ。防災訓練。お買い物。森探検。ノルディックウォーキング。リンパマッサージ。身近な施設見学。スクエアステップ。ハンドベル。盆踊り。バルーンアート。シナプソロジー。傾聴カフェ。クロッケー。健康情報の要約作成、配布。

問22. サロン活動は地域の方々に理解されていると思いますか？（1つに○）

項目	回答数	構成比	平成24年
とても理解されていると思う	193	17.9%	19.0%
ある程度理解されていると思う	683	63.2%	68.5%
あまり理解されていないと思う	156	14.4%	9.3%
理解されていないと思う	13	1.2%	1.6%
無回答	35	3.2%	1.1%

n=1,080

IV サロンの実施・運営についておうかがいします

問23. サロン活動の広報はどのようにしていますか？（あてはまるもの2つ以内に○）

項目	回答数	構成比	平成24年
市町村広報誌に掲載	77	7.1%	8.9%
市町村社協広報誌に掲載	211	19.5%	19.5%
チラシを作成し回覧板で周知	262	24.3%	24.6%
チラシを作成し全戸配布	64	5.9%	10.3%
自治会・町内会の会議などで宣伝	206	19.1%	19.0%
口コミ	489	45.3%	40.2%
サロンに関する学習会や研修会を開催	29	2.7%	1.7%
ポスター掲示	66	6.1%	5.1%
ホームページやSNS等（令和2年のみ）	25	2.3%	
独自に広報誌を作成している（令和2年のみ）	35	3.2%	
広報はしない	171	15.8%	13.7%
その他	96	8.9%	12.9%
無回答	23	2.1%	1.6%

n=1,080

その他の主な具体的回答

地区発行の情報誌に掲載。会員に個別案内。チラシにより個別告知。生涯学習センターに掲示。自治会発行の会報。社協がやってくれている。チラシを公民館などにおいてもらう。前回参加者にチラシ配布。NPO団体のニュースで開催日を知らせる。チラシを市役所や高齢者センター配布。手芸、完成品の展示（コミュニティセンター内）。LINE。年1回地元新聞に掲載。高齢者支援センターだよりに掲載。民生委員から一人暮らしの方へ告知。3か所に看板を立てて宣伝している。ゴミ集積所にポスターを貼る。開催時に看板を掲示。

問24. サロンへの送迎サービスはありますか？（1つに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
ボランティアが徒歩で送迎	21	1.9%	3.0%
ボランティアが自家用車で送迎	74	6.9%	10.7%
専門の送迎サービスを利用	6	0.6%	2.2%
利用者の自家用車で乗り合い送迎	103	9.5%	7.0%
社会福祉施設の協力による送迎（令和2年のみ）	14	1.3%	
送迎はしない	812	75.2%	71.8%
その他	48	4.4%	3.9%
無回答	2	0.2%	1.4%

n=1,080

その他の主な具体的回答

雨天時のみ歩行器使用者を送迎。社協職員が送迎。足がない方は事前連絡あれば送迎。足の悪い方を送迎。年に1, 2回のみ送迎。コミュニティで管理の相乗りタクシー。社協公用車で送迎。依頼があれば送迎。町の福祉バス。

問25. ボランティアの運営スタッフはどのように募集していますか？

（あてはまるものすべてに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
現在のボランティアが口コミで探す	456	42.2%	47.0%
社協や公民館が開催するボランティア講座の修了生などに声をかける	46	4.3%	4.5%
社協や公民館の職員にボランティアを探してもらう	33	3.1%	3.6%
民生委員・児童委員がボランティアを募集することになっている	38	3.5%	3.7%
老人クラブや婦人会などの団体がボランティアをすることにしている	77	7.1%	8.3%
自治会や町内会でボランティア（サロン役員など）を選出する	129	11.9%	10.1%
社協や公民館の機関誌やチラシで募集案内を掲載してもらう	43	4.0%	7.9%
特に募集活動はしていない	480	44.4%	38.3%
その他	104	9.6%	12.5%
無回答	57	5.3%	5.6%

n=1,080

その他の主な具体的回答

会員の中より選抜。シルリハ体操指導士会で構成。更生保護女性の会の会員の協力。当日参加した人のなかでお願いします。各班ごとに1名交代で。利用者が出来る範囲で運営に協力。NPO団体のニュースなどで募集する。市が養成している介護予防推進員が終了すると意思確認のうえ入る。体操指導者を有料でお願いしている。支部女性部配食のメンバー希望してくれた方。会員の中で交代に。開催団地に住んでいる人に声をかける。

問26. 参加費(利用料)はいくらですか？(1つに○)

項目	回答数	令和2年	平成24年
無料	522	48.3%	45.6%
有料	523	48.4%	52.3%
無回答	35	3.2%	2.0%

【有料の場合】(金額回答者のみカウント)

1回

項目	回答数	令和2年	平成24年
500円未満	286	79.2%	82.7%
500円以上1,000円未満	55	15.2%	14.8%
1,000円以上1,500円未満	13	3.6%	1.6%
1,500円以上2,000円未満	1	0.3%	0.4%
2,000円以上	6	1.7%	0.4%

年間

項目	回答数	令和2年	平成24年
1,000円未満	21	12.9%	13.0%
1,000円以上2,000円未満	62	38.0%	41.7%
2,000円以上3,000円未満	35	21.5%	24.1%
3,000円以上4,000円未満	12	6.7%	4.6%
4,000円以上5,000円未満	0	0.0%	2.8%
5,000円以上	33	20.2%	13.9%

問27. 1年間の予算はいくらですか？（数字を記入）

項目	回答数	令和2年	平成24年
10,000円未満	50	4.6%	4.5%
10,000円以上20,000円未満	100	9.3%	6.2%
20,000円以上30,000円未満	339	31.4%	7.3%
30,000円以上40,000円未満	167	15.5%	13.4%
40,000円以上50,000円未満	76	7.0%	8.3%
50,000円以上	344	31.9%	44.4%
無回答	4	0.4%	12.9%

問28. 問27の予算の中で、補助金や助成金がありますか？

それはどこの補助金・助成金ですか？（あてはまるものすべてに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
補助金・助成金はない	112	10.4%	11.4%
市町村行政	80	7.4%	4.2%
市町村社会福祉協議会	681	63.1%	55.8%
支部（地区）社会福祉協議会	115	10.6%	15.3%
自治会や町内会	221	20.5%	16.7%
共同募金	18	1.7%	2.0%
老人クラブなど団体	15	1.4%	1.9%
県社会福祉協議会	27	2.5%	4.7%
企業・民間助成団体	3	0.3%	0.5%
その他	25	2.3%	8.9%
無回答	34	3.1%	5.6%

n=1,080

その他の主な具体的回答

青少年育成協会。

【金額平均】

（単位：円）

項目	令和2年	平成24年
市町村行政	128,041	35,749
市町村社会福祉協議会	31,346	31,699
支部（地区）社会福祉協議会	25,991	30,301
自治会や町内会	33,788	35,065
共同募金	36,859	74,154
老人クラブなど団体	12,136	19,750
県社会福祉協議会	21,058	24,034
企業・民間助成団体	15,333	80,588
その他	19,142	31,288

問29. 行政や団体（問28の2～8）からの補助金や助成金についてどう考えますか？（1つに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
絶対に必要	484	44.8%	47.8%
どちらかという必要	381	35.3%	34.0%
なくとも運営できる	152	14.1%	10.7%
もらうべきものではない(参加費で賄うべき)	19	1.8%	2.2%
無回答	44	4.1%	5.3%

n=1,080

問30. 企業や民間助成団体（問28の9）からの助成金についてどう考えますか？（1つに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
絶対に必要	97	9.0%	8.6%
どちらかという必要	223	20.6%	22.3%
なくとも運営できる	507	46.9%	40.7%
もらうべきものではない(参加費で賄うべき)	103	9.5%	15.0%
無回答	150	13.9%	13.6%

n=1,080

問31. ケガなどに備えて保険に加入していますか？（あてはまるものすべてに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
ボランティア活動保険	290	26.9%	29.8%
ボランティア行事用保険	77	7.1%	5.8%
ふれあいサロン・社協行事傷害補償	298	27.6%	32.1%
送迎サービス補償	5	0.5%	0.5%
福祉サービス総合補償	9	0.8%	1.4%
自治会・町内会の保険	56	5.2%	5.6%
その他	70	6.5%	11.4%
加入していない	377	34.9%	25.5%
無回答	45	4.2%	1.7%

n=1,080

その他の主な具体的回答

市民活動災害補償。公民館総合保障制度。スポーツ保険。全国老人会連合会保険。NPO活動総合保険。県民交通災害共済。JIC。旅行等には加入。児童館が加入。町社会福祉協議会で一括加入。

問32. 日頃から連絡や連携している団体や機関はありますか？

(あてはまるものすべてに○)

項目	回答数	令和2年	平成24年
市町村社会福祉協議会	813	75.3%	75.1%
支部（地区）社会福祉協議会	259	24.0%	31.6%
地区民生委員・児童委員協議会	156	14.4%	22.9%
市町村行政	160	14.8%	16.2%
自治会・町内会	371	34.4%	40.5%
老人クラブ	228	21.1%	24.1%
ボランティアグループ	106	9.8%	18.5%
子ども会・青少年団体	33	3.1%	7.0%
NPO法人	15	1.4%	2.2%
助成団体	6	0.6%	0.6%
学校（幼稚園を含む）	29	2.7%	7.3%
公民館	137	12.7%	12.8%
地域包括支援センター	198	18.3%	16.2%
在宅介護支援センター（平成24年のみ）			5.0%
居宅介護支援事業所（平成24年のみ）			1.6%
訪問介護・通所介護事業所（令和2年のみ）	10	0.9%	
訪問リハビリ・通所リハビリ事業所（令和2年のみ）	6	0.6%	
高齢者福祉施設・老人保健施設	39	3.6%	2.6%
子育て支援センター（令和2年のみ）	14	1.3%	
保育所・児童館	12	1.1%	4.0%
障がい者相談支援・福祉サービス事業所（令和2年のみ）	4	0.4%	
障がい者福祉施設	3	0.3%	10.6%
保健所・保健センター	55	5.1%	0.8%
病院・診療所	4	0.4%	3.3%
消防署・警察署	21	1.9%	3.3%
農協・生協	6	0.6%	0.3%
神社・寺院・教会	11	1.0%	1.2%
その他	33	3.1%	4.8%
無回答	44	4.1%	2.6%

n=1,080

その他の主な具体的回答

シルバーリハビリ体操指導士会。女性団体。医療生協。茨城県国際交流協会。県障がい者スポーツ指導者協議会。看護協会。特別支援学校。笠松運動公園。地区食推。

問33. 他のサロンとのつながりはありますか？（あてはまるものすべてに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
日常的に他のサロンと連絡を取り合っている	136	12.6%	18.7%
他のサロンを見学したことがある	254	23.5%	24.8%
サロン連絡会などに参加している	347	32.1%	33.8%
他のサロンスタッフに手伝いに来てもらうことがある（令和2年のみ）	93	8.6%	
他のサロン利用者も参加することがある（令和2年のみ）	140	13.0%	
合同でサロン開催をすることがある（令和2年のみ）	92	8.5%	
合同でスタッフ研修会等を行うことがある（令和2年のみ）	91	8.4%	
その他	142	13.1%	
無回答	267	24.7%	6.4%

n=1,080

その他の主な具体的回答

一つのサロンだけではなく他のサロンにも加入している。他サロンから見学にくる。サロン代表者合同研修。個人的に他のサロンの方と相談したことはあります。他のサロンに参加している人から情報（活動状況等）を得ている。他のサロンとグラウンドゴルフをしている。社協でつなぎを作ってください。社協から情報を聞く。役員同士の情報交換。シルバーリハビリ体操指導士が何か所かのサロンを担当しているので他サロンの様子がわかる。

問34. サロン活動を通じて、何か効果はありますか？（あてはまるもの3つ以内に○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
地域で孤立しそうな人々の閉じこもりや孤立防止になる	500	46.3%	51.2%
居場所（家以外で落ち着ける場所）になっている	217	20.1%	16.7%
新しい友人や仲間ができる	401	37.1%	46.7%
生きがいにつながる	275	25.5%	25.1%
利用者の安否がわかる	279	25.8%	19.5%
人と話しができるなど交流がある	667	61.8%	47.5%
介護予防に役立つ	191	17.7%	14.0%
健康のチェックができる	157	14.5%	10.1%
体を動かしたり、歌を歌ったり楽しく過ごせる	359	33.2%	28.5%
みんなと楽しく食事ができる	145	13.4%	12.6%
利用者の家族の負担軽減やリフレッシュになる	23	2.1%	0.8%
自分のできることをすることにより自信を持つことができる	96	8.9%	6.1%
新たな地域（福祉）活動の創設につながる	59	5.5%	5.0%
災害時や緊急時の助け合いにつながる（令和2年のみ）	87	8.1%	
その他	11	1.0%	1.2%
無回答	25	2.3%	1.4%

n=1,080

その他の主な具体的回答

人との話でこれからの生き方の参考になる。（くらし方，食べ物）すべてに。3つ以内では足りない。スタッフとメンバーの組み合わせを決めてあり年に1～2回防災訓練の日に安否確認をするようにしている。市の出前講座も活用しており、その時のタイムリーな課題について情報を得たり、学んだりできる（ゴミ問題，オレオレ詐欺など）。

問35. サロン運営において、他の団体から支援をうけて役立ったものがありますか？
(あてはまるものすべてに○)

項目	回答数	令和2年	平成24年
連絡会への参加	296	27.4%	25.5%
研修会への参加	274	25.4%	33.3%
職員のサロン訪問	189	17.5%	16.5%
器具の貸し出し	156	14.4%	16.7%
バス・乗用車等の貸し出し	146	13.5%	17.8%
職員による運営	17	1.6%	3.3%
研修会の案内などの情報提供	149	13.8%	17.4%
住民への広報（広報誌やチラシ）	123	11.4%	12.3%
後継者の育成	33	3.1%	3.7%
助成金・補助金の交付	415	38.4%	40.0%
ボランティア（担い手や芸能）のコーディネート	82	7.6%	12.8%
サロンプログラムの内容（令和2年のみ）	63	5.8%	
専門家や講師の派遣（令和2年のみ）	269	24.9%	
会場の確保（令和2年のみ）	163	15.1%	
その他	37	3.4%	6.5%
無回答	185	17.1%	15.7%

n=1,080

その他の主な具体的回答

食器の購入。設営、片付け等のお手伝い。お茶の支給。福祉バスの貸し出し。他の会場を借りることがある。

問36. サロン活動における課題はありますか？（あてはまるものすべてに○）

項目	回答数	令和2年	平成24年
財源の確保が難しい	99	9.2%	16.4%
会場の確保が難しい	42	3.9%	6.5%
地域でいろいろな役職についており、サロン活動との兼務が難しい	55	5.1%	12.9%
自治会や町内会など地域からの理解が得られない	54	5.0%	6.1%
ボランティアなど運営の担い手が不足している（協力者が増えない）	299	27.7%	30.5%
利用者が少ない	306	28.3%	23.4%
男性の利用者が少ない	535	49.5%	48.4%
勧誘してもなかなか参加してもらえない人がいる	272	25.2%	23.2%
足腰の弱い人や遠方の人のために送迎サービスが必要	144	13.3%	18.4%
活動の中身や企画がマンネリ化している	189	17.5%	21.2%
サロン運営について参考となる書籍や資料がほしい	91	8.4%	11.8%
他のサロンがどのような活動をしているか知りたい	155	14.4%	18.5%
サロン運営について相談する人がいない	27	2.5%	2.0%
福祉・保健・医療分野等の専門職員にもっと支援してもらいたい	75	6.9%	10.7%
サロン間の結びつきや交流が少ない	107	9.9%	10.4%
参加メンバーが固定化している	517	47.9%	44.7%
参加者がお客さんになってしまう	101	9.4%	16.7%
自分の後継者がいない（令和2年のみ）	313	29.0%	
その他	66	6.1%	5.6%
課題は特にない	93	8.6%	10.1%
無回答	39	3.6%	1.9%

n=1,080

その他の主な具体的回答

もっと別の会場を増やしてその地域でサロン活動を展開していきたいと思うが、それには会場の確保が難しい、公共施設が近くにないと個人の家を会場にする方法しかなくそれが難しい。町会の集会所が狭い。仕事に行っているため、時間の確保がむずかしい。コミュニティーバス利用者が居るが会の時間と合わない。冷暖房の設備なし。会場が狭い。駐車場が狭い。財源が少ないので参加者の傷害保険に加入できない。メンバーが同一学区に限定されている。近隣学区からの参加も認められたい。社協からサロン化に伴う資金の使い方を自由にしてほしい。ホームグラウンドにトイレがない。ちょっと意見の違いで不参加者が出てくる。サロンの目的が理解されず、中身も他人まかせである。民生委員の方に引き継ぎの時はサロンについて知ってもらいたい。運営者として大学生など若い世代に協力者になってもらいたい。

問37. 問36の課題に対し、効果的な対応（取り組み）事例があれば教えてください。

（自由回答より主なもの）

- ・地元の公民館なので「エプロンをしたまま（普段着のまま）で来てくれれば良いのよ。」と気楽に参加できる体制づくりに努めている。
- ・専門家に伺ったら講師も男性をむかえると男性の参加者がいますと言われました。
- ・サロンとは別枠で日曜日を除く毎朝（祝日も）公園でラジオ体操をやっている。広い土地の個々が好きな場所で、出入り自由・ルールなし。ここでのあいさつ、おしゃべり、つきあいがゆるいネットワークを作り、参加者は増々増えている。
- ・ロコミで募集するが条件にあわない場合があり条件をゆるめようと思っている。
- ・他の市民活動団体と日頃から交流しておき、時々、ゲストとしてお招きする。
- ・毎月、誕生日の方へのプレゼントとみなさんのハピバースディの歌のプレゼント楽しい会が出来る様工夫しています。
- ・区長さんをお願いして会員募集している。
- ・自治会独自にチラシの配布、自治会行事等の際における個別的勧誘。
- ・誰でも気軽に参加してもらいたいが、中々男性の参加が少ない。まずは女性中心に活動を行い、旦那さんを連れてきてもらう。
- ・バスハイク、お花見、アルコール入りカラオケ会等、行事のある前には参加者が増加する。
- ・ボランティアと参加者の垣根がなくなったことでお互いの会話が増えているように思います。
- ・マンネリ化防止のため飲酒を含むちよい飲みサロン、フラダンス講座等計画
- ・先生の確保が大切だと思います。ハーモニカの先生、体操の先生、クイズの先生、現在は5人の先生たちがおりますが、もう少し多くの人材を獲得したいと思っております。
- ・月に1回のサロンは気軽に悩みや不安を話せる場になっている。
- ・入会しそうな方の情報入手と声掛け、勧誘
- ・サロンの活動内容を常に変化を持たせるよう、また有意義な活動内容になるよう参加者の声も取り入れ、工夫している。
- ・少しでもサロンで行っていることを知ってもらいながら興味をもってもらい入会を誘っています。
- ・交流が深まり、自分たちでできる社会貢献の一つとして団体に（水戸市へ）参加した方へ、折り紙で作ったバラやつるを差し上げる活動をした。仲間意識を持つことができて良かった。
- ・会員減少の理由として考えられるのは①入会するとすぐ役員にさせられるのではという考えの人がいる②会員となったため組織にしばられるのをきらう人が多い③だれが会員相当の年齢になったのかわからないので誘えない状況になっている。（個人情報の問題も影響している）

問38. サロンを通して利用者の困りごとを発見したことはありますか？ (1つに○)

項目	回答数	構成比
ある	363	33.6%
ない	566	52.4%
無回答	151	14.0%

n= 1,080

問39. サロン活動を通して利用者の生活上の困りごとを発見したときどのような対応をしますか？ (あてはまるものにすべてに○)

項目	回答数	構成比
地域の自治会・町内会長や民生・児童委員等に相談してみる	297	27.5%
他のボランティアや利用者に相談してみる	109	10.1%
専門機関に相談してみる	130	12.0%
行政機関に相談してみる	236	21.9%
今のところ対応していない	232	21.5%
その他	93	8.6%
無回答	293	27.1%

n= 1,080

その他の主な具体的回答

参加者とのミーティング。健康についてなので予防医学士としての私に対応。本人の話をよく聞いてあげた。話をじっくりと聞いてあげ、気分が楽になった様子。地区社協のお助け協力隊の利用。市議員に相談。家族に連絡相談した。

問40. 問39について具体的な対応例があれば教えてください。

(自由回答より主なもの)

・ご主人を亡くされてから心身ともに元気がなく、サロンへの足も遠のき、家にこもりがちになった。家族(長男夫婦は別棟、独身の次男と同居)との会話も少ないようだ。民生委員として、又、サロンの仲間として複数の方々と時々訪問し会話・交流を図ることで少しは元気を取り戻したように見受けられ毎月ではないがサロンにも参加してくれるようになった。直接の声掛けは効果があると思っています。

・ひとり暮らし高齢女性、腰痛がひどく医療を受けているが、買い物も不便、食事の用意も大変。市の見守りサービスでヤクルトが弁当の配達を受けられることを知り、弁当の配達を受けることにした。(それまではヤクルトの配達しか知らなかった)また、有償ボランティアの利用についても知ることができた。

・介護保険の利用について申請をすすめる。サロンの時に保健師や高齢福祉課にきてもらって相談に応じてもらっている。

・80歳代の女性が体調不良とのことで2週連続で欠席。民生・児童委員、自治会長に連絡した。

・利用者さんがサロンに来ても認知症が進んでいるような状態なのに、家族はそれに対応した行動をしないので、他の利用者さん等にも協力してもらい、家族に「行政や福祉とつながって対応する様」をお願いした。結果、一人で留守番ではなくデイサービスに行くようになり、食欲もでて元気になってきた。

・不用品、貴金属の買取の電話や訪問が地域で頻発していることを知り、市社協のサロン担当者とともに市消費生活センターからチラシを取り寄せ配布し注意を呼び掛けた。

・集団生活に入るとき(幼稚園、保育園等)何を基準にするとか、入れない等の悩みは市役所の児童福祉課につないだり、児童相談員、ヘルスケアセンターにつないだりする。障害を持っているようだというような話は、それなりの窓口に行ってみるようには話すこともあり、社協や、児福課とはつながりを持っているようにしている。

・日中独居の認知症が進んだ方を地域包括支援センターにつなぎ家族と話し合ってもらった。

・スタッフ皆で庭の除草作業や剪定作業、ごみ処理等を行った。(一人暮らしのため)民生委員と連携を密にして上記の作業や安否確認をした。

V 新型コロナウイルス感染症の対応についておうかがいします

問41. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大下におけるサロン開催についてどのような対応をしましたか？ (あてはまるものすべてに○)

項目	回答数	構成比
通常通り開催している	189	17.5%
回数を減らして開催している	234	21.7%
時間を短くして開催している	316	29.3%
人数制限をして開催している	107	9.9%
中止している	505	46.8%
その他	194	18.0%
無回答	27	2.5%

n=1,080

その他の主な具体的回答

外での行事（神社清掃）は従来通り行っている。社協や行政機関からの要望に従って、開催又中止を実施。1回当りの参加人数を制限して回数をふやしている。マスク着用。連絡事項のみの集会実施。広い会場で開催。飲食を中止。

問42. サロンの新型コロナウイルス感染症対策についてどのような対応をしましたか？ (あてはまるものすべてに○)

項目	回答数	構成比
定期的な換気	724	67.0%
手洗いの実施	570	52.8%
消毒液の設置	761	70.5%
検温の実施	626	58.0%
スペースの確保・人との距離を空ける	711	65.8%
施設内の消毒	443	41.0%
「いばらきアマビエちゃん」の活用	37	3.4%
その他	154	14.3%
無回答	199	18.4%

n=1,080

その他の主な具体的回答

まちづくり協議会より検温器を購入していただきました。町からコロナ対策費をいただき空気清浄機など購入。茶菓子は持ち帰る。テーブルにパーテーション（手作り）を設置。加湿器。紙コップ使用。体調チェック。名簿記録の管理。役員はゴム手袋使用。保健福祉センターの指導等で実施する予定。CDを使って実施。換気扇による常時換気。

問43. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえサロン参加者に向け実施したことはありますか？ (あてはまるものすべてに○)

項目	回答数	構成比
お弁当等の食糧やマスク等を配布した	130	12.0%
安否確認等のため電話や手紙等で連絡を取った	337	31.2%
オンラインで集まった	12	1.1%
特に対応していない	348	32.2%
その他	223	20.6%
無回答	155	14.4%

n=1,080

その他の主な具体的回答

感染拡大を踏まえチラシの配布。フェイスガードを配っている。正しいマスクの付け方、外し方、すて方、咳エチケットの方法、手洗いの方法の指導をした。行政からの体操、脳トレ、ぬり絵等のパンフレットに手紙を添えて配布した。参加者にマスク忘れた方には配布する。密にならない朝のラジオ体操。手作りマスクのも300枚以上配布（会員、友人、知人）。消毒液の配布。犬の散歩等の折に地域の人たちと立ち話をよくします。

問44. サロン実施にあたって最も課題になる（なった）ことはありますか？（1つに○）

※本設問においては、単独回答がほとんどなかったため複数回答もカウントすることになりました。

項目	回答数	構成比
サロンを実施するかどうかの方針	399	32.3%
感染予防や衛生対策等のサロンを安全に実施するための方法	301	24.3%
サロンで実施するプログラムを見直し	135	10.9%
スタッフのサロンへの理解や気持ちが低下	32	2.6%
利用者が減少	115	9.3%
再開にあたって地域の理解を得ること	44	3.6%
課題はない	59	4.8%
その他	42	3.4%
無回答	110	8.9%

n=1, 237

その他の主な具体的回答

リーダーになる人、スタッフに加わっていただけない。再開の時期の見極め。自治会立であるが、結果的には他所の自治会エリアからも来るので管理が完全にはできない。野外実施のため、天候・気温に左右される。感染を恐れている人に参加依頼できない。他のサロンは中止しているが、私たちは実施しましたが、これでよいのかと迷ってしまいます。

問45. サロン運営者として把握したり相談を受けた利用者の状態はどのようなものですか？

（あてはまるものすべてに○）

項目	回答数	構成比
人と対面できないことや話し相手がいないことによるストレスや不安	371	34.4%
感染リスクに伴う不安	517	47.9%
運動不足による身体機能の衰え	445	41.2%
会話能力の低下や認知症の進行	164	15.2%
生活管理、体調管理に問題が生じている	111	10.3%
把握していることはない	143	13.2%
その他	52	4.8%
無回答	171	15.8%

n=1, 080

その他の主な具体的回答

最近外出が困難になり施設に入所した方がいる。病院を利用する事に対する不安。集まって皆と話がしたい希望が多い。食生活への不安。子どもが遊べる場所がない。8050問題。物忘れが多くなった。

問46. その他、新型コロナウイルス感染症対応等があれば教えてください。

(自由回答より主なもの)

・プリントにてお便り等を2か月に1回の割合で実施，各ボランティアに配布依頼，体調等確認
・プリントの内容・・・（ボランティア）からのコメント実施，ミュージックケアの軽い運動等，図案入りで実施。電話でも状況を把握，必要に応じて社会福祉協議会に連絡，対応を実施
・今年は「不要・不急の自粛」の一年でした。本クラブでは「誕生会」も「おしゃべりサロン」も全く開催できませんでした。そこで代替事業として次の活動を行いました。
①サロン開催月には「誕生祝いの紅白まんじゅう」の配布と「元気の出る手紙」や「おしゃべりサロン」用の茶菓子を袋詰めにし，全会員宅に届けました（役員中心）。その折に「安否確認」や「困った問題」の聞き取りを行っています。
②随時，電話による声かけ活動を行っています。
・コロナ感染の度合いに応じ，行政がタイムリーにサロンにおける対応指針を示してほしい。

VI その他

問47. サロン活動について御意見や御提案があれば教えてください。

(自由回答より主なもの)

・県社協の“はんどちゃん”支援で開始して15年間になりますが，地域の高齢者から継続の希望があり，参加者のアンケートでも8割の方が現状の活動に満足しており，社協助成事業として自治会費で予算化し，自治会活動に位置づけ地域の横のつながりに拡大して行きたいと思っている。
・高齢者（私も含めて）が非常に不安をいっているのが現状，近所で感染者が出た時は，telにて少しでも不安解消し，買い物できない時はお弁当等，届ける（現状を知る事）。「言葉をかけてもらうことが安心」につながり，一人ではないのですよ！・・・どんなことでも，ボランティアに声掛けをお願いしている。いつも聞き手になっています。
・寝たきりの人，歩行困難の人などオンラインが出来ればいいなと思いました。
・役員・幹事会で常に話し合い，確認していることとして，もし，万が一にも「新型コロナウイルス感染者」が身近な人に出た場合，感染者はもとより，家族の皆さんに対して誹謗，中傷，悪口，陰口など「村八分」的言動をとらずに「離れていても心は一つ」と優しく見守って，思いやり，心配りを忘れずに行動すること
・町内の女性たちが仲良くなって自分の住んでいる近くにこんな人がいる。こんなことで困っているとか話しやすい場所にしたいそれをみんなで共有し，解決の方法を考える。
・あまりサロンのことを知らない方が多いように思います。もっとパンフレットの配布や説明する機会があつたらよいかと。ボランティア活動しているいろいろなグループなどの中から，サロンを発足する方がいると思います。私の場合はパンフレットが手に入ったことと，傷害保険があることは発足の後押しになりました。
・ニュースポーツの講習や器具の貸し出しなど，市町村単位など身近なところで行えると有難い。

(2) 調査票

「ふれあい・いきいきサロン実態調査」調査票

所在市町村名

サロン名称

代表者氏名

I 運営代表者ご自身のことについておうかがいします

問1. あなたの性別は？（1つに○）

1. 男性

2. 女性

3. 無回答

問2. あなたの年齢は？（1つに○）

1. 20歳未満

5. 50歳代

2. 20歳代

6. 60歳代

3. 30歳代

7. 70歳代

4. 40歳代

8. 80歳以上

問3. あなたはどのような立場（所属）の方ですか？（最も近いもの2つ以内に○）

1. 民生委員・児童委員（主任児童委員含む）

9. 母子保健推進員

2. 福祉委員

10. 福祉団体役職員・NPO法人役職員

3. 老人クラブ会員

11. 児童・青少年関係団体役職員

4. 婦人会会員

12. 福祉施設役職員

5. 自治会・町内会役員

13. 教育関係者

6. 支部（地区）社会福祉協議会役員

14. 会社員

7. ボランティアグループ会員

15. その他（ ）

8. 食生活改善推進員

問4. あなたがサロンに関わるきっかけはなんですか？（あなたの気持ちに近いもの2つ以内に○）

1. 友人や仲間におすすめされたから

2. 民生委員・児童委員からおすすめされてから

3. 民生委員・児童委員として大事な活動だと感じたから

4. 社会福祉協議会の職員からおすすめされたから

5. 福祉や地域関係者からおすすめされたから

6. もともとサロンに興味や関心があり、関わってみたかったから

7. 所属している団体やグループでサロンを始めることになったから

8. 地域の高齢者や親子などの仲間づくりに役立ちたいと感じたから

9. 地域の高齢者や親子などの生きがいくりに役立ちたいと感じたから

10. 地域のボランティア活動に参加してみたかったから

11. これまでの職業や社会経験が活かせると感じたから

12. その他（ ）

問21. サロンの日課やプログラムはどのような内容ですか？（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. おしゃべり | 13. おもちゃ遊び |
| 2. 軽食(お茶やお菓子など) | 14. 料理 |
| 3. 食事(昼食) | 15. 手芸 |
| 4. 健康体操 | 16. ゲスト講話 |
| 5. 健康チェック(血圧測定など) | 17. 季節の行事 |
| 6. スポーツ(卓球など) | 18. 小旅行 |
| 7. 歌・カラオケ | 19. 散歩 |
| 8. レクリエーション | 20. 学習・勉強 |
| 9. ゲーム(トランプなど) | 21. ボランティア活動 |
| 10. 健康麻雀 | 22. 世代間交流 |
| 11. 趣味活動 | 23. シルバーリハビリ体操 |
| 12. 映画・音楽鑑賞 | 24. その他() |

問22. サロン活動は地域の方々に理解されていると思いますか？（1つに○）

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. とても理解されていると思う | 3. あまり理解されていないと思う |
| 2. ある程度理解されていると思う | 4. 理解されていないと思う |

IV サロンの実施・運営・役割についておうかがいします

問23. サロン活動の広報はどのようにしていますか？（あてはまるもの2つ以内に○）

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 市町村広報誌に掲載 | 7. サロンに関する学習会や研修会を開催 |
| 2. 市町村社協広報誌に掲載 | 8. ポスター掲示 |
| 3. チラシを作成し回覧板で周知 | 9. ホームページやSNS等 |
| 4. チラシを作成し全戸配布 | 10. 独自に広報誌を作成している |
| 5. 自治会・町内会の会議などで宣伝 | 11. 広報はしない |
| 6. 口コミ | 12. その他() |

問24. サロンへの送迎サービスはありますか？（1つに○）

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. ボランティアが徒歩で送迎 | 5. 社会福祉施設の協力による送迎 |
| 2. ボランティアが自家用車で送迎 | 6. 送迎はしない |
| 3. 専門の送迎サービスを利用 | 7. その他() |
| 4. 利用者の自家用車で乗り合い送迎 | |

※利用者全員でなく数人や特定の人の場合の送迎サービスもご記入ください。

問25. ボランティアの運営スタッフはどのように募集していますか？（あてはまるものすべてに○）

- | |
|------------------------------------|
| 1. 現在のスタッフが口コミで探す |
| 2. 社協や公民館が開催するボランティア講座の修了生などに声をかける |
| 3. 社協や公民館の職員にボランティアを探してもらう |
| 4. 民生委員・児童委員がボランティアを募集している |
| 5. 老人クラブや婦人会などの団体からボランティアを募集 |
| 6. 自治会や町内会でボランティア(サロン役員など)を募る |
| 7. 社協や公民館の機関誌やチラシで募集案内を掲載 |
| 8. 特に募集活動はしていない |
| 9. その他() |

問26. 参加費(利用料)はいくらですか？（1つに○）

- | | |
|-------|--------------------|
| 1. 無料 | 2. 有料(1回 円または年間 円) |
|-------|--------------------|

問27. 1年間の予算はいくらですか？（数字を記入）

円

※予算書がない場合は、およその額をご記入ください。

問28. 問27の予算の中で、補助金や助成金はありますか？それはどこの補助金・助成金ですか？
(あてはまるものすべてに○)

1. 補助金・助成金はない	6. 共同募金 (円)
2. 市町村行政 (円)	7. 老人クラブなど団体 (円)
3. 市町村社会福祉協議会 (円)	8. 県社会福祉協議会 (円)
4. 支部(地区)社協 (円)	9. 企業・民間助成団体 (円)
5. 自治会や町内会 (円)	10. その他 (, 円)

問29. 行政や団体(問28の2~8)からの補助金や助成金についてどう考えますか？(1つに○)

1. 絶対に必要	3. なくても運営できる
2. どちらかという必要	4. もらうべきものではない(参加費で賄うべき)

問30. 企業や民間助成団体(問28の9)からの補助金や助成金についてどう考えますか？(1つに○)

1. 絶対に必要	3. なくても運営できる
2. どちらかという必要	4. もらうべきものではない(参加費で賄うべき)

問31. ケガなどに備えて保険に加入していますか？(あてはまるものすべてに○)

1. ボランティア活動保険	5. 福祉サービス総合補償
2. ボランティア行事用保険	6. 自治会・町内会の保険
3. ふれあいサロン・社協行事傷害補償	7. その他 ()
4. 送迎サービス補償	8. 加入していない

問32. 日頃から連絡や連携している団体や機関等ありますか？(あてはまるものすべてに○)

1. 市町村社会福祉協議会	14. 訪問介護・通所介護事業所
2. 支部(地区)社会福祉協議会	15. 訪問リハビリ・通所リハビリ事業所
3. 地区民生委員・児童委員協議会	16. 高齢者福祉施設・老人保健施設
4. 市町村行政	17. 子育て支援センター
5. 自治会・町内会	18. 保育所・児童館
6. 老人クラブ	19. 障がい者相談支援・福祉サービス事業所
7. ボランティアグループ	20. 障がい者福祉施設
8. 子ども会・青少年団体	21. 保健所・保健センター
9. NPO法人	22. 病院・診療所
10. 助成団体	23. 消防署・警察署
11. 学校(幼稚園を含む)	24. 農協・生協
12. 公民館	25. 神社・寺院・教会
13. 地域包括支援センター	26. その他 ()

問33. 他のサロンとのつながりがありますか？(あてはまるものすべてに○)

1. 日常的に他のサロンと連絡を取り合っている
2. 他のサロンを見学したことがある
3. サロン連絡会などに参加している
4. 他のサロンスタッフに手伝いに来てもらうことがある
5. 他のサロン利用者も参加することがある
6. 合同でサロン開催をすることがある
7. 合同でスタッフ研修会等を行うことがある
8. その他 ()

問34. サロン活動を通じて、何か効果はありますか？（あてはまるもの3つ以内に○）

1. 地域で孤立しそうな人々の閉じこもりや孤立防止になる
2. 居場所（家以外で落ち着ける場所）になっている
3. 新しい友人や仲間ができる
4. 生きがいににつながる
5. 利用者の安否がわかる
6. 人と話しができるなど交流がある
7. 介護予防に役立つ
8. 健康のチェックができる
9. 体を動かしたり、歌を歌ったり楽しく過ごせる
10. みんなと楽しく食事ができる
11. 利用者の家族の負担軽減やリフレッシュになる
12. 自分のできることをすることにより自信を持つことができる
13. 新たな地域（福祉）活動の創設につながる
14. 災害時や緊急時の助け合いにつながる
15. その他（ ）

問35. サロン運営において、他の団体から支援をうけて役立ったものがありますか？

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------|----------------------------|
| 1. サロン連絡会への参加 | 9. 後継者の育成 |
| 2. 研修会への参加 | 10. 助成金・補助金の交付 |
| 3. 職員のサロン訪問 | 11. ボランティア（担い手や芸能）のコーディネート |
| 4. 器具の貸し出し | 12. サロンプログラムの内容 |
| 5. バス・乗用車等の貸し出し | 13. 専門家や講師の派遣 |
| 6. 職員による運営 | 14. 会場の確保 |
| 7. 研修会の案内などの情報提供 | 15. その他（ ） |
| 8. 住民への広報（広報誌やチラシ） | |

問36. サロン活動における課題はありますか？（あてはまるものすべてに○）

1. 財源の確保が難しい
2. 会場の確保が難しい
3. 地域でいろいろな役職についており、サロン活動との兼務が難しい
4. 自治会や町内会など地域からの理解が得られない
5. ボランティアなど運営の担い手が不足している（協力者が増えない）
6. 利用者が少ない
7. 男性の利用者が少ない
8. 勧誘してもなかなか参加してもらえない人がいる
9. 足腰の弱い人や遠方の人のために送迎サービスが必要
10. 活動の中身や企画がマンネリ化している
11. サロン運営について参考となる書籍や資料がほしい
12. 他のサロンがどのような活動をしているか知りたい
13. サロン運営について相談できる相手がいない
14. 福祉・保健・医療分野等の専門職員にもっと支援してもらいたい
15. サロン間の結びつきや交流が少ない
16. 参加メンバーが固定化している
17. 参加者がお客さんになってしまう
18. 自分の後継者がいない
19. その他（ ）
20. 課題は特にない

問43. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえサロン参加者に向け実施したことはありますか？
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------|
| 1. お弁当等の食糧やマスク等を配布した |
| 2. 安否確認等のため電話や手紙等で連絡を取った |
| 3. オンラインで集まった |
| 4. 特に対応していない |
| 5. その他 () |

問44. サロン実施にあたって最も課題になる(なった)ことはありますか？(1つに○)

- | |
|--------------------------------|
| 1. サロンを実施するかどうかの方針 |
| 2. 感染予防や衛生対策等のサロンを安全に実施するための方法 |
| 3. サロンで実施するプログラムを見直し |
| 4. スタッフのサロンへの理解や気持ちが低下 |
| 5. 利用者が減少 |
| 6. 再開にあたって地域の理解を得ること |
| 7. 課題はない |
| 8. その他 () |

問45. サロン運営者として把握したり相談を受けた利用者の状態はどのようなものですか？
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 人と対面できないことや話し相手がいないことによるストレスや不安 |
| 2. 感染リスクに伴う不安 |
| 3. 運動不足による身体機能の衰え |
| 4. 会話能力の低下や認知症の進行 |
| 5. 生活管理、体調管理に問題が生じている |
| 6. 把握していることはない |
| 7. その他 () |

問46. その他、新型コロナウイルス感染症対応等があれば教えてください。

--

VI その他

問47. サロン活動について御意見や御提案があれば教えてください。

--

御協力ありがとうございました。

全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料 (1名あたり)

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		×	○	
年間保険料			350円	500円	

商品パンフレットは
コチラ



(ふくしの保険
ホームページ)

団体割引 20%適用済 / 過去の損害率による割増引適用

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

送迎サービス補償 (傷害保険)

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL:03(3349)5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。



社会福祉施設総合損害補償

しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償

(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、サイバー保険、動産総合保険、費用・利益保険)

① 基本補償(賠償・見舞費用)

保険期間1年

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故に対応	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等の各種費用	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
傷害見舞費用			死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

▶ 年額保険料(掛金)		定員	基本補償(A型)
基本補償(A型)	以降1名~10名増ごと	1~50名	35,000~61,460円
		51~100名	68,270~97,000円
			1,500円
見舞費用付補償(B型)	基本補償(A型) 保険料		【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円

② 個人情報漏えい対応補償 ③ 施設の什器・備品損害補償

- オプション1 ● 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 ● 医務室の医療事故補償
- オプション3 ● 看護師の賠償責任補償
- オプション4 ● 借用不動産賠償事故補償
- クレーム対応サポート補償

プラン2 施設利用者の補償

(普通傷害保険)

- ① 入所型施設利用者の傷害事故補償
- ② 通所型施設利用者の傷害事故補償
- ③ 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償
施設送迎車に搭乗中のケガに対し、プラン2-①、②の傷害保険や自動車保険などとは関係なく補償



プラン3 施設職員の補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険、雇用慣行賠償責任保険)

- ① 施設職員の労災上乗せ補償
● オプション: 使用者賠償責任補償
- ② 施設職員の傷害事故補償
- ③ 施設職員の感染症罹患事故補償
(新型コロナウイルス感染症も補償の対象となります。)
- ④ 雇用慣行賠償補償



プラン4 社会福祉法人役員等の補償

(役員賠償責任保険)

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

保険期間1年

▶ 保険金額	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
1事故・期間中	5,000万円	1億円	3億円

● このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 ▶ 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 保険会社 TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
 受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

令和2年度ふれあい・いきいきサロン実態調査報告書

令和3年7月

編集・発行：社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進部
〒310-8586 茨城県水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館
TEL：029-243-3805 FAX：029-241-1434